

松山東雲女子大学  
人文科学部 心理子ども学科  
卒業研究抄録  
2023年度

		セミNo
指導教員	岡部 祐子	1
指導教員	鏡原 崇史	2
指導教員	影浦 紀子	3
指導教員	小西 敏雄	4
指導教員	西村 浩子	5
指導教員	増本 達彦	6
指導教員	山口 真美	7
指導教員	河原 理	8
指導教員	蔵前 知美	9
指導教員	友川 礼	10
指導教員	政本 香	11
指導教員	森 日出樹	12
指導教員	安田 光良	13
指導教員	善本 裕子	14

氏名	品川 ら奈	学籍番号	J020021	ゼミNo.	1
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	保育におけるジェンダー・ニュートラルについて
-----	------------------------

### 1.研究の動機

私は着任実習において、子どもらに対して無意識に男女の区別をつけて指示を伝えたことがあった。事後に保育者から、今日についての保育では、幼児期からジェンダー解消を視野に性別について慎重に扱っていることを教えていただいた。保育・教育の場において、無自覚なまま性別カテゴリーを用いることの子どもへの影響について、考えさせられた出来事である。そこで幼児期にこそ、ジェンダー・ニュートラルな環境づくりや保育者の関わりが重要であると考えたのが本研究の動機である。

### 2.研究方法

調査では、①愛媛県内の保育現場でのジェンダーの取り扱いの状況と、②保育を学ぶ学生が現在有しているジェンダーへの意識を明らかにすることを目的に、本専攻学生の保育・教育実習を経験した2年生から4年生を対象にアンケート調査を行うこととした。調査は①について、対象者の幼児期に通っていた保育施設（過去）と実習園（現在）のジェンダー・ニュートラルに関する質問項目を設けた。また調査②は、自治体等がインターネット上で実施しているジェンダーに関するWeb調査から、対象者らが実感を持って答えることができる基準に選択し質問項目へと適用した。回答はインターネットで回収をした。①について結果を整理・分析し、県内の保育施設での過去と現在のジェンダーの取り扱いを比較することによって、ジェンダー・ニュートラルの進展の状況について検討した。また②については、今後保育者になるであろう学生のジェンダー意識について理解し、今後の保育におけるジェンダー・ニュートラルの在り方について考察した。

### 3 結論

調査の結果、保育現場のジェンダー・ニュートラルに対して、過去と現在の比較において改善されている点も見られたものの、依然として課題が多いことが分かった。改善が望まれる項目としては、園の備品や用品類、名簿などの物的環境、保育者の子どもへの関わり方に直接関係する呼称や整列などの人的環境が挙げられる。子どもたちは、入園以前は意識されなかった男女の差を園生活の中で、整列や道具類を男女別にすることで感じていくため、園での無意識に行う関りや、何気ない環境を見直していくことが重要である。在学生のジェンダー意識に関する調査結果からは、多くの対象者が固定概念にとらわれず、自分らしさやその人らしさを大切にできているという結果が得られた。しかしながら、ごく一部には無意識にジェンダー・フィルターにとらわれている対象者も見られた。これらのことから、個々の保育者に潜在するジェンダー・フィルターを意識化し、ジェンダー・ニュートラルな保育を目指すことが求められる。

氏名	森永里沙	学籍番号	J020048	ゼミ№	1
テーマ	幼児が感じる絵本の楽しさについて —ヨシタケシンスケの作品を通して—				

### 1. 研究の動機

私は絵本が好きで、特に絵本作家ヨシタケシンスケの作品に惹かれている。教育実習の際にも読み聞かせを行い、キャラクターのセリフの言い回しや表現、ヨシタケシンスケの作品の世界観や楽しさを子どもたちと共有する喜びを味わった。その際に、私が思っていた「おもしろい部分」と、実際に子どもが楽しんでいる表現には違いがあった。私にとっては、「もし〜だったら？」という可能性がどこまでも広がっていく表現こそが、この絵本の面白さと考えて反応を期待していた。しかし、子どもたちは全く別の場面で、笑顔を多く見せていました。このことから、子どもと大人では、絵本の楽しさの感じ方に違いがあり、子どもは、絵本のどのような表現や言葉などを面白いと感じているのだろうかと考え、本研究の着想に至った。

### 2. 研究方法

子どもが感じている絵本の楽しさについて検討することを目的に、先行研究について調査するとともに、①ヨシタケシンスケの絵本の研究として、ヨシタケシンスケの著書4冊と、他の著者の絵本1冊を対象に、絵本の分析を行った。具体的には、各絵本の概要・内容を示したうえで、絵本の本文をテキストマイニング分析による調査を行い、両者の絵本について多角的に分析した。また、②絵本に対する子どもと大人の楽しさの感じ方の違いについて検討することを目的に、一組の親子を対象に、ヨシタケシンスケの著書と他の著者の絵本を用いて読み聞かせを行ってもらった。そのうえで母親から子どもへ、読んだ絵本についての質問をお願いし、それらの経過を映像に記録した。映像から子どもの表情や親子の会話を抽出し、母親と子どもの感じていることの違いについて分析することを試みた。

### 3. 結論

調査の結果、①ヨシタケシンスケの絵本の研究では、比較する絵本としてレオ・レオーニの「あおくんときいろいろちゃん」を用いた。今回取り上げたレオ・レオーニの作品が、起承転結の明確なストーリーがあることに対して、ヨシタケシンスケの作品は、必ずしもストーリーラインがあるわけではなく、同じ言葉が繰り返し使用されるところや、読み手に問いかけるような表現が多く使用されるところに特徴がみられた。両作品をテキストマイニングによって分析したところ、レオ・レオーニの作品では、名詞の数と動詞の数の割合の差が14%であったが、ヨシタケシンスケの作品は、名詞の数と動詞の数の割合の差が25%~67%となっていた。本研究で取り上げた作品に限定されるものの、ヨシタケシンスケの絵本は、名詞の数の出現頻度の多さに特徴があることが楽しさに繋がっていることが推察された。

②絵本に対する子どもと大人の楽しさの感じ方の違いについての調査では、読み聞かせを撮影し分析することを試みたが、対象者である子どもが強い緊張を見せたため、急遽研究デザインを変更し、母親に読み聞かせと問い合わせをお願いすることになった。それらを動画に収めたものを視聴し、記録・分析することになった。記録を分析したところ、母親は、使われている色や絵の細かさ、話の内容や結末に反応を示したが、子どもは内容よりもひとつひとつの単語に反応を示していたことが分かった。本調査によって、子どもと大人では、絵本の楽しさの感じ方に違いがあるという一例が示された。

氏名	和田佳乃	学籍番号	J020057	ゼミNo.	1					
テーマ	香りの環境が子どもに与える影響									
<b>1. 研究の動機</b>										
<p>私は好きな香りに包まれると、心が落ち着き、前向きな感情になれる。さらに香りによって過去の感情や記憶が蘇ることがある。私にとって香りのもたらす作用は絶大であるが、子どもにとって香りがどのような影響を与えていているのか、また、幼児期にどういった香りを体験しているのか疑問が生じた。これらのことから、幼児期にふさわしい香りの体験を重ね、感性を育む環境と嗅覚を育てる保育実践の可能性について検討することとした。</p>										
<b>2. 研究の方法</b>										
<p>調査の方法として、まず、香り・嗅覚に関する文献調査を行い、嗅覚特有の作用や効果、香りに関する保育実践事例について整理・分析した。そのうえで、本研究では香りの中でも植物の香りに注目し、具体的には、以下の調査を行なった。①園庭における香りのする植物の記録、②子どもが香りを体験している様子の観察記録、③保育者へのインタビュー調査を行い、それらの記録を整理・分析し検討を行った。これらの調査結果を踏まえて本論文のまとめとし、総合的な考察と今後の課題について述べた。</p>										
<b>3. 結論</b>										
<p>調査では、幼児期の嗅覚における体験の重要性が次のように明らかになった。エピソード記録の言葉による表現の中で「～のにおいに似ている」といったこれまでの生活経験や想像と結びつけた表現が見られた。また、子どもは遊びや生活の中で香りに気付き、その香りが子どもの想像力や探究心を育んでいることが示唆された。さらに、木や植物から放散される香りは、子どもに心地よさや安らぎを与えるだけでなく、子どもの表現を豊かにしていた。保育の実践においても、子どもが身近な自然の中で香りを体験できるような環境作りを大切にしたい。子どもの香りの感じ方については、それぞれで異なるため、有害なもの以外は、保育者の先入観による排除が起こらないよう、環境構成や援助を行う必要があることが分かった。一方で、子どもにとって目に見えない香りは視覚や聴覚に比べて意識しにくく、言葉による表現が難しいことが明らかになった。香りに関する幼児・保育への適用事例が少ないとことについても、それらが関係しているのではないかと考えられた。子どもが香りに気付いたり、感じたりするには、具体的にどのような言葉掛けや援助、環境構成が有効的なのか、本研究で得た知見を活かし、今後は保育者という立場で実践的に検討していきたい。</p>										

氏名	猪子愛華	学籍番号	J020501	ゼミNo.	1
テーマ	放課後児童クラブへの支援について				

### 1.研究の動機

放課後児童クラブは、2020年3月以降、新型コロナ感染拡大によって存在感を高めた。筆者は大学一年生の頃から放課後児童クラブでアルバイトをしているが、続けるうちに課題も見えてきた。放課後児童クラブを取り巻く状況を調べてみると、支援員の処遇は厳しい状況に置かれており、支援員のストレスを感じていることについても、児童支援員の処遇が上位項目に示され、バーンアウトに陥らないような支援が重要であるということが分かった。子育て家庭にとってなくてはならない存在であるにもかかわらず、労働基準法による資格保有者の配置について、4割の施設が基準に満たないことも指摘された。これらのことから、本研究では、放課後児童クラブへの支援の在り方について理解を深めることを目的に、支援員の見えない部分の業務内容を明らかにするとともに、必要とする支援について検討する。

### 2.研究方法

調査は、以下の3つの方法で行った。1つ目の調査方法は児童クラブの支援員21名を対象に業務内容と所要時間の調査を行った。調査の内容は1日の業務を紙面に書き出してもらい業務の項目と所要時間を整理・分析した。2つ目は対象者のうち1名を抽出し業務のタイムスタディの調査を行い、詳細に分析した。3つ目は、支援員にとってのやりがいや困難さ必要な支援について尋ねた。

### 3.結論

業務内容の調査からは、子どもの見守りが多くを占めるものの、他にも事務作業や外部連絡などの業務が多いことが分かった。さらに代表支援員では、支援員対応・職員をまとめるための業務・学校など関係機関との連携に比重が置かれていることが明らかになった。調査結果を概観すると、子どもの見守り・対応が主な業務内容であったが、準備や掃除、洗濯などに多くの時間を使う支援員もいることが分かった。生活の場でもあることから子どもが快適に過ごせるような環境作りにも注力していることが分かった。また、子どもの見守りに所要時間を占める支援員は、特別な支援を必要とする子どもの見守りにあたっていた。一方で自立して遊べる小学生は、転倒や衝突のケガが多いことから、事故やケガの予防や対応も重要な業務であることが示唆された。タイムスタディの調査からは、支援員の臨機応変な対応の困難さが見て取れた。これらの調査から、それぞれの支援員の役割分担がなされており、緻密な職員間連携によって支援が成り立っていることが分かった。また、個々の記述内容からは、業務は多岐にわたり負担も大きいことが明らかになった。支援員らがバーンアウトにならないためにも負担軽減の支援が大切であると考える。業務の負担軽減にむけて、支援員とは別に事務員を配置するなど、具体的な支援が望まれる。

氏名	丹下晴日	学籍番号	J020502	ゼミNo.	1
テーマ	木の玩具や環境が幼児におよぼす影響について				

### 1. 研究の動機

私は、木のおもちゃの手触りや外形のやさしさが好きである。アルバイトをしている保育園の園児たちも他のおもちゃと比較して木のおもちゃを大切にあつかっているように感じてきた。その保育園では、全ての保育室に木製のおもちゃが配置されており、床材などにも木が使われている。私たち大人にとって木が用いられた環境は、温かさや安らぎを感じさせるが、子どもたちはどのように感じているのだろうと考えたのが、本研究の動機である。

### 2. 研究方法

調査の方法として、観察記録とインタビュー調査の2つを実施した。観察記録では、木のおもちゃが子どもに与える影響を検討することを目的に、用いた木の遊具の解説を行うとともに、保育現場で木の遊具で遊ぶ子どもの様子を観察し、子どもの言葉や表情、しぐさなどを記録し、整理・分析することとした。インタビュー調査では、自然物に触れ合う際の周りの大人の在り方について検討することを目的に、木材の専門家と自然教育の実践家の2名を対象に、半構造化面接調査を実施し、逐語録を整理・分析した。

### 3. 結論

保育現場での観察では、子どもたちは、木のおもちゃ同士が当たることで出る音に耳を傾け、五感が刺激されている様子を見せていました。また別の場面では、木の遊具の形状や触感からごっこ遊びが始まることがあり、木のおもちゃは、子どもの感性や遊びを豊かにする可能性があると推察された。また、子どもたちのつぶやきや表情からは、木のおもちゃの手触りや匂いに安らぎを感じていたことがうかがわれ、先行研究の報告や記述を追従する結果となった。

インタビュー調査からは、人間は過去に森の中で生きてきたため遺伝子的にも木の匂いに安らぎを感じること、自然を通した直接体験が自然環境を大切にする気持ちを育むことなど、木や自然に深く関わった経験、それらの知識に基づいた保育実践経験から得られた知見を収集することができた。また研究を通して、木のおもちゃとプラスチック製のおもちゃのそれぞれの特性についても整理・検討できたことは、今後保育者として遊具を選択する際の指標となった。

本研究を通して、木のおもちゃや自然是子どもの豊かな育ちを支える保育資源であることがわかった。今後自分自身が保育者になるにあたり、木のおもちゃや自然について探求するとともに、実践へと活かし継続研究していきたいと考える。

氏名	浮穴明歩	学籍番号	J020007	ゼミNo.	2
テーマ	人の服装と好きな色の関係について				

### 1. 問題と目的

服は、毎日の生活において必要不可欠な存在であり、その人自身によって「何を着るか」が選択されている。衣服の着用色の選択にかかる潜在的な要因として、「自己主張」「穏健性」「他者からの推奨」「審美性」が主にあると明らかにされた。(雙田ら 2008)。また、大学生の好きな色と着たい色の一致率が、男性は黒が 80.6%、白が 73.1% 女性は黒が 66.4%、白が 63% という結果となっており、男女ともに黒と白の二色が主に人気な色となっている(松田ら 2019)。しかし、これらのデータは年齢や季節などを一定にした限定的なデータとなっている。また、このデータは 2019 年のものであるため、2023 年の最新のデータを取得し、研究していく必要がある。そこで、本研究では、人はどのように服を選び、なぜその色の服を着るのか、服装と好きな色にはどのような関係があるのかを、上の服の色に限定し、明らかにする。

### 2. 方法

[対象]大学 1 年～4 年・社会人、私立大学に通う女子大学生 1・2 年の計 107 名

[手続き] 主な内容として、「ファッションについて」「好きな色について」「服の色について（上の服）」「季節ごとの服の色について（上の服）」「服装について」という 5 つの項目に分けて質問項目を設置し、調査を行った。Google フォームでアンケートを作成し、アンケート協力を呼び掛け、回答を求めた。

### 3. 結果

好きな色の上位 3 位の調査を行った結果、1 位は黒で 21 件(20%)、2 位は白で 19 件(18%)、3 位は白で 16 件(15%) であった。よく着る服の色上位 3 位の調査を行った結果、1 位は黒で 49 件(46%)、2 位は白で 37 件(35%)、3 位は緑で 17 件(16%) であった着用色の選択理由として 1 番多かった回答は、「合わせやすいから」で 41 件であった。服装と好きな色の関係については、全体の半数以上が「関係している」と考えていることが明らかにされた。好きな色の服の着用頻度について、「週に 1 回」という回答が 1 番多く、好きな色の服を持っていても、「着ない」と回答している人もいた。

### 4. 考察

人の服装と好きな色は関係しているが、好きな色の服を毎日来ているとは限らないこと、服の着用理由として、「好きだから」だけではないことが明らかにされた。このことから、他の色の服も着て、ファッションを楽しみたいという気持ちがあるのではないかと考えられる。好きな色と着たい色の一致率が黒と白が高いことは変わっていないことが明らかにされた。着用理由に「好きだから」、「合わせやすいから」だけでなく、「無難だから」という回答もあったことから、日本人特有の控え目な性格も影響しているのではないかと考えられる。

氏名	大野友夏子	学籍番号	J020008	ゼミNo.	2
テーマ	若年女性における妊娠・出産・育児に関する知識及びイメージ調査 —保育学生と一般若年女性を比較して—				

### 1. 問題と目的

近年、日本では少子化が進行しており、出生率が低下し続けている。少子化の原因は未婚化・晩婚化の進展、出生率の低下等様々であり、これは女性の社会進出や、出産に対する経済面での不安が関係していると推察される。また萩野（2022）が行った「産後」に関する意識調査では、多くの女性が産後の育児や自分自身のメンタルケアなどに大きな不安を抱えていることが明らかになった。原因として、若年層の妊娠・出産・育児における知識不足が関連すると考えられる。そこで本研究ではこれから子どもを産む可能性のある若年女性が、妊娠・出産・育児に対して持つイメージや知識量を調査する。また、子どもに関わる分野を専攻している保育学生とその他の若年女性では、子どもへの接触経験や知識量にも差があると考え、妊娠・出産等においての考え方や知識量にどのような差が生じるのかも明らかにする。結果をもとに、若年女性が思う妊娠・出産について実体を明らかにし、少子化対策として今、若年層にどのようなことを伝えていく必要があるのかを検討することを目的とする。

### 2. 方法

[対象] 保育学生 57 名、その他の若年女性 38 名（両者とも未婚の 18 歳以上）。

[手続き] グーグルフォームにて「妊娠や出産・育児に関する知識」や「結婚願望」「理想の子ども数」について調査を行った。

### 3. 結果

理想の子ども数について約半数が 2 人と回答し、平均値は 2.24 人となった。妊娠や出産の不安について約半数が「とてもある」と回答した。また対応のない *t* 検定を行ったところ条件間で有意な差が見られなかった (*t*(56.261)=1.673, *p* = .100)。子どもをもうけたくない理由、妊娠や出産の不安の理由ともに経済面での不安が一番多い結果となった。補助金の知識量についても条件間で有意な差が見られなかった (*t*(74.527)=-0.907, *p* = .367)。全体の結果では一番多い回答が 5 件法のうち 3 の 25.3% であり詳しい知識を持っている人が少ないことが明らかになった。

### 4. 考察

本研究で、保育学生、その他若年女性とともに結婚願望や子どもをもうけたい思いは多くあるが、妊娠や出産・産後の育児や教育について不安がある人が多いことが明らかになった。その不安の中でも特に経済面での不安が多く見受けられたことから、補助金等に関する金銭面での知識不足が推察され、若年層に対する補助金等についての知識の向上が必要なことが明らかになった。また、保育学生とその他若年女性で大きな差が見られず保育学生が持つ専門的な知識や子どもへの接触経験は、妊娠・出産についての知識量や理想の子ども数と比例していないことが分かり、仮説が棄却された。

氏名	大政 美結	学籍番号	J020009	ゼミNo.	2
テーマ	松山市の若者の実態調査と「子育てがしやすいまちづくり」				

#### 目的

少子化が進む一方で児童虐待は年々増え続けている。小西（2017）では、「母親が子どもとの関わりにおいて、『こんなはずではなかった』という『子育ての期待と現実の差』を認識していること」が明らかになった。しかし、子育てニーズは時代で大きく変化するため、より新しく詳しい調査が必要だと考える。また、男性の子育て観についての情報は、女性に比べて少ないため、これから子育てを行う可能性の高い若者、男女それぞれの子育て観を調査し明らかにすることで、次の子育て世代の児童虐待を未然に防止することに繋げる。

#### 方法

県内で若者の人口が多い松山市は、出産年齢が高齢化している。松山市で若者が子育てをしやすい社会にするために、松山市に在住又は在学している子育て経験のない現在20歳以上24歳以下の男女約200名に、子育てに関して抱いている印象や考えを、16項目の質問を通してアンケート調査を行った。

#### 結果

子育てに対しての印象に「ネガティブ」と答えた人が64.6%と最も多かった。子育てに対して持っている印象がポジティブなものに近いほど、理想の子どもの人数が多くなると予想を立てて1要因分散分析を行った結果、理想の子どもの平均人數は、「ポジティブ」又は、「分からぬ」と答えた人が共に2.3人、「ネガティブ」と答えた人が3.1人であった。「ネガティブ」と答えた人の方が理想の子どもの人数が多かった。また、その理由をKJ法でまとめると、経済的、環境的なものが多かった。子育て願望があっても、理想よりも高い年齢で子どもを授かる人が多い。その他に、「松山市で子育てをしたいと思うか」という質問で、「思わない」又は「分からぬ」と答えた人の理由に地元ではないため、親や親戚からの援助が受けられないことが含まれていた。

#### 考察

松山市の若者は、理想よりも高い年齢で子どもを授かる人が多い要因の一つに、経済的・環境的要因が含まれていることが分かった。また、松山市の子育て支援を知らない又は魅力に思わないことから生む選択をする若者が減ってきてているのだと考えられる。そのため、学生の奨学金返済の負担減少や制度の周知等の経済的支援と、子育て支援の見直し、次世代への調査等の環境的支援の充実が非常に重要である。松山市で子どもを育てたいと思う若者を増やしていくには、現代の若者にニーズ把握を行い、より身近でより現実的、具体的な魅力の発信が求められる。また、時代によって子育て観は大きく変化していくため、より新しい調査が重要となる。

氏名	金子愛菜	学籍番号	J020015	ゼミNo.	2					
テーマ	坂元裕二脚本のテレビドラマにおける台詞分析 —繰り返し使われる言葉や表現形式及び制作スタイルから見る独自性—									
<b>1. 問題と目的</b>										
テレビドラマは放送開始から現在まで、時代背景によって移り変わる視聴者のニーズに合わせて、内容やテーマが大きく変化してきた。脚本家の坂元裕二是、脚本家デビューしてから現在まで、約 30 年間に渡って多くのドラマを制作し、様々な賞を受賞するなどテレビ業界での評価も高い脚本家である。板橋（2023）は、坂元裕二が唯一無二の脚本家である特徴として、細部の台詞にまでこだわって日常性を演出していることを明らかにした。先行研究では、坂元の執筆する上でのこだわりは明らかになっているものの、それらのこだわりが脚本にどのような形で反映されているのかは明らかになっていない。本研究では、坂元の言う「日常会話では大体固有名詞についての話をしている」ということが、どのような形で登場人物同士の会話に表れているのか、会話内の名詞に焦点を当てて分析を行う。										
<b>2. 研究方法</b>										
【対象映像】『カルテット』、『最高の離婚』を分析対象映像とし、この二つの作品に登場する主要登場人物 4 人の間で交わされる会話を分析した。										
【分析方法】各ドラマの主要登場人物 4 人のうち 2 人以上で交わされる会話の中で、会話時間が 1 分 30 秒以上ある場面を対象とし、台詞の文字起こしをしたものを作成し、出現頻度を算出及び共起ネットワークの作成を行った。										
<b>3. 結果</b>										
名詞の出現頻度や特徴を分析したところ、各話に大方均等に出現している名詞、各話に分散してはいるが目立って出現頻度の高い話がある名詞、一話の一場面でしか出現しない名詞があることが分かった。具体的には、『カルテット』1~10 話で二番目に多く出現する名詞として結果が出た『レモン』という名詞があげられる。この名詞は第 1 話のみで 28 回出現しており、主要登場人物 4 人が食事をしながら会話をする日常性の高い場面での出現だった。他の一話の一場面でしか出現しない名詞も場面分析をしたところ、日常性の高い場面であることが多いということが明らかになった。										
<b>4. 考察</b>										
本研究により、日常性の高い場面では固有名詞を議題とした会話が多くされているということが明らかになり、坂元の脚本の特徴の一つとして言える。他にも、名詞の分析から、1 話で描いた日常的な場面を最終話にも似たような形で取り入れるという書き方が二つのドラマ共に表れていると明らかになり、坂元の脚本の特徴の一つであるということができる。ドラマ的な展開が少なく日常的な場面が多い坂元の脚本に多くの人が魅了される理由は、生活の小さな喜びや躊躇を、台詞を通して繊細に描くことで、視聴者的心や生活に寄り添う脚本になっているからだと推測する。										

氏名	青野華乃	学籍番号	J020016	ゼミNo.	2					
テーマ	放課後等デイサービスにおける理想の指導員像									
1. 問題と目的										
<p>近年では、障害を持つ子どもに対する支援の場として、放課後等デイサービスが多く利用されている。放課後等デイサービスとは、障害を持つ児童の居場所となり、個別や集団で行う活動を通して、一人ひとりに合った支援や安全で楽しい時間が提供される場所であるが、提供されるサービスの質の非統一性や人手不足などが課題とされている。教育分野で求められる理想の教師像は明確になっている（佐藤ら、2008）一方で、児童福祉分野での指導員像は明らかになっていないため、本研究では放課後等デイサービスにおける理想の指導員像を明らかにする。職員と保護者を対象にし、両者から得た結果を比較することで、放課後等デイサービスの意義と役割を果たすことができる指導員の姿を明らかにする。</p>										
2. 方法										
<p>放課後等デイサービス職員 18 名と、放課後等デイサービス利用児の保護者 9 名を対象に、放課後等デイサービスで働く職員に必要な資質・能力 36 項目の 5 階評価及び理想の職員像についての自由記述などのアンケート調査を実施した。</p>										
3. 結果										
<p>放課後等デイサービスで働く職員に必要な資質・能力 36 項目について <i>t</i> 検定にかけた結果、職員と利用児の保護者の間で有意な差が見られた項目は、⑩自然に触れる経験を提供する (<math>t(25)=2.341, p=.027</math>)、⑪自らの能力を常に高めようとする (<math>t(25)=2.438, p=.022</math>) の 2 項目であり、両者ともに保護者に比べて職員の方がより必要であると評価していた。36 項目について特に必要だと考えるもの 1 位から 5 位を問う質問では、両者において、1 位から 4 位に②子ども一人ひとりの個性を大切にする、③子ども一人ひとりの特性を理解する、⑦多様な考え方・見方を受け入れられるの 3 項目が共通して示された。</p>										
4. 考察										
<p>職員と利用児の保護者の間で有意な差が見られた項目は、⑩と⑪の 2 項目であり、両者ともに保護者に比べて職員の方がより必要であると評価していた。項目⑩は、放課後等デイサービスが様々な体験を提供する場所であり、保護者に比べて職員の方が具体的な活動内容を把握しているということが影響していると考える。項目⑪は、放課後等デイサービスはニーズの多様化が課題とされているため、職員が様々な支援方法を追求し続けることの必要性を感じていることが影響していると考える。また、項目②③⑦が両者から必要だと評価されたことから、子ども一人ひとりの個性や特性を大切にし、多様な考え方や見方を受け入れができる職員が理想とされると考えられる。</p>										

氏名	田中こはく	学籍番号	J020026	ゼミNo.	2
テーマ	ファッショントrendsが人に与える印象				

### 1.問題と目的

ファッショントrendsは他者とのコミュニケーションのツールになったり(丹田、2020)、外出着の着装基準に個人的嗜好が含まれていたりする(安永ら、2012)ということが明らかになっている。また、「トレンド性」「社会性」「美容」「チャレンジ」「自分指向性」「イメージ変身」「アクセサリー」「ライブ公演」の8因子がファッショントrends意識に影響を与えていたことが明らかになった(孫ら、2010)。さらに、吉岡ら(2017)により、性表現の手段としてファッショントrendsを用いようとしていると考察されている。しかし、これらの先行研究の調査内容は、ファッショントrendsに対する意識や服を選択する際に意識することに限られており、服装によって相手にどのような印象を持たれているのかが明らかにされていない。

そこで、本研究では、服装の系統ごとに人に与えられる印象について明らかにする。また、予備調査により、一緒に過ごす相手によって、服装や服装の系統を変えるという仮説が立てられたため、それについても検証する。これらのことから、今後、日常生活でTPOに合わせた服装選択に寄与することを目的とする。

### 2.方法

私立大学に通う女子学生59名にGoogleformにてアンケート調査を依頼し回答を得た。被験者はスライドに提示された「スポーツMIX系統」「綺麗めカジュアル系統」「モード系統」「メンズライク系統」「ガーリー系統」の5枚のコーディネート写真を見てGoogleformに回答する。

### 3.結果

ファッショントrends系統と印象について2要因分散分析を行った結果、ファッショントrends系統の主効果( $F(4,232)=14.63, p<.001$ )と印象の主効果( $F(4,232)=91.93, p<.001$ )が有意となった。また、ファッショントrends系統と印象の交互作用( $F(16,928)=114.73, p<.001$ )も有意となっており、系統が印象に影響を与えることが明らかになった。さらに、服装の系統を合わせるか否かについては、合わせると回答した学生は14名と全体の23.7%となつた。しかし、系統が似ていると嬉しい(「そう思う」「少しそう思う」と回答した学生は33名で全体の55.9%)であった。

### 4.考察

本研究では、ファッショントrendsの系統ごとに人に与えられる印象が変わってくることが明らかになった。また、相手によって服装の系統を合わせるか否かについては、自分の意思で合わせるという学生は少なかったものの、系統が似ていると嬉しく感じる学生は多かった。このことから、服装からも相手に共通点を見つけ、そこからの安心感などにより嬉しさを感じているのだと考えられた。

氏名	谷岡七桜	学籍番号	J020027	ゼミNo.	2
テーマ	歴代のディズニープリンセスから読み解く時代と共に変わる女性像				

### 1.目的

李ら（2011）によると、1937年「白雪姫」、1950年「シンデレラ」が公開され、13年もの間で「白雪姫」の内向的な性格から「シンデレラ」の意見を持つ積極的な性格へと、大きな変化が見られた。しかし、先行研究では主観的評価に基づいて性格を分析されており、客観的評価は行われていない。そのため、歴代13人のディズニープリンセスの性格は明らかにされていない。また、幸田（2002）より、1990年代では良妻賢母主義が一般化していたのが、現在ではその風潮が変化しており女性像における変遷が明らかとなった。そこで本研究では、ディズニープリンセスの性格が時代とともに変化しているのか、女性像がそれと共に変化しているのかを3人のプリンセスに絞って明らかにする。

### 2.方法

『白雪姫』『アラジン』『モアナと伝説の海』の3作品を視聴し、各アニメーションに登場する3人のプリンセスについて、映画視聴後に20代の女子大学生2名で、外向性・協調性・勤勉性・神経症傾向・開放性の5因子10項目の簡略版ビッグファイブモデル（小塩ら、2012）を使用して、性格診断を行った。分析方法は、2名の評価者の各下位尺度得点の合計の平均値をその因子の得点とした。

### 3.結果

「白雪姫」は協調性が最も高く、「ジャスミン」「モアナ」は外向性が最も高い数値となった。最も低い数値は3人とも神経症傾向であり、キャラクターごとの性格が明らかとなった。女性像では、アメリカが1960年代に結婚の有無が選択できるようになったが、日本では1990年代にそれが可能となった。他にも、アメリカでは1990年代に家事が女性の仕事という認識がなくなったのに対し、日本では1990年代も女性が家事をするべきという認識が残っていることが明らかとなった。

### 4.考察

性格診断からプリンセスは徐々に外向的な性格になっており、プリンセスが思っている結婚などの意識も年々変わっていることが明らかとなった。1937年にアメリカ、1950年に日本で公開された「白雪姫」は家事だけをしており、同年代の女性も家事だけが仕事という認識で一致していた。1990年代に日本とアメリカで公開された際の「ジャスミン」は自分で結婚相手を選んでおり、同年代の両国の女性は相手だけでなく結婚の有無も自分で選択できるようになっていたため、一致していた。このように女性像とプリンセスは年代によって同じ特徴を持っており、時代の移り変わりとともに共通して変化していることが明らかとなった。

氏名	徳山七海	学籍番号	J020028	ゼミNo.	2					
テーマ	SNS を利用したコミュニケーションにおける女子大生の絵文字使用 －人間関係や関係性の変化による使用頻度の検討－									
1.目的										
<p>現代では SNS を利用したコミュニケーションが主流であり、相手の心情を読み取るために絵文字が重要だと考える。絵文字の使用頻度は様々であり、高橋ら（2022）は先輩・友達・後輩を対象として、先輩に対しては怖れの感情を持つことから、絵文字の使用が低いことを明らかにしている。しかし、関係性の種類は一つとは限らず、良い、悪い関係性といった細かな関係性による絵文字の使用の違いは明らかにされていない。また、先行研究はないが、高橋ら（2022）の研究結果を踏まえると文字数や記号数にも違いが見られるのではないかと考える。そこで本研究では、人間関係（先輩・友達・後輩）と関係性（良い・悪い）によって文字数、記号数、絵文字数の違いがあるのかを明らかにする。</p>										
2.方法										
<p>【対象】SNS をよく利用すると考える 20 歳から 22 歳の女性、52 名。</p> <p>【手続き】Google フォームにてアンケート調査を行った。SNS の利用頻度や相手からのメッセージの絵文字の有無、人間関係と関係性による文字数、記号数、絵文字数の違いを見るため、①部活の試合の励ましや応援の文章②相手に頼み事やお願い事をする時における文章の作成（関係性を 10 段階評価で表し、10～8（良）と 3～1（悪）の関係性に送る文章）等、自由記述や 5 件法を用いて行った。統計解析には HAD を用い、2 要因分散分析（対応あり × 対応あり）を行った。</p>										
3.結果										
<p>文字数については人間関係に主効果が認められ (<math>p &lt; .05</math>)、相手が先輩である時に文字数が一番多く見られた。記号数については交互作用は認められたものの (<math>p &lt; .05</math>)、単純主効果は認められなかった。絵文字数については良い関係性における人間関係に単純主効果が認められ (<math>p &lt; .05</math>)、相手が先輩と友達、先輩と後輩では先輩の方が絵文字数が多くかったが、相手が友達と後輩では違いが見られなかった。</p>										
4.考察										
<p>本研究より、人間関係と関係性によって文字数と絵文字数に違いがあることが明らかになった。文字数は相手が先輩になると文字数が多くなり、次いで友達、後輩であることが明らかになった。これは、相手が先輩になると言葉遣いが丁寧になるため文字数が多くなるのではないかと考える。記号数は人間関係、関係性共に違いが見られないことが明らかになった。絵文字数は相手が先輩であると絵文字数が一番多いが、友達と後輩では違いが見られないことが明らかになった。これは気持ちを理解してもらいたいという思いから絵文字数が多くなるのではないかと考える。友達と後輩では相手の気持ちを理解している、気を遣わないことから絵文字が少ないと考える。</p>										

氏名	藤原 唯	学籍番号	J020036	ゼミNo.	2
テーマ	ロックフェスティバルと町おこし				

## 1. 問題と目的

近年、ロックフェスティバルは町おこしの一つとして注目されている。香川県で開催されている Monsterbash では、2016 年の経済波及効果は 38 億円を超える（江頭、2017）、香川県の町おこしに繋がっている。そこで、本研究では、全国の人を対象として愛媛県西条市や、ロックフェスティバルへの関心を明らかにし、その結果に基づいて愛媛県西条市で開催可能な大型ロックフェスティバルについて検討を行う。これにより、町おこしの一環として愛媛県西条市の人口増加に寄与することが期待される。

## 2. 方法

全国の人を対象に Instagram・X（旧 Twitter）を通してアンケートを行った。高校生以下、専門・大学生（以下、「学生」と省略）123名（33%）、社会人253名（67%）、計367名が回答に参加した。愛媛県西条市とロックフェスティバルに対する興味関心に関する質問、計16個の項目を設定した。

### 3. 結果

回答者の居住地は愛媛県内 213 名 (57%)、愛媛県外 163 名 (43%) であり、西条市の認知度を調査したところ 78%が知っていると回答したが、愛媛県外の者は 28%という結果であった。ロックフェスティバルに参加してみたいと答えた者は 83%であり、関心が高いことが示された。課題として、夏季開催での体調不良や子どもを連れていけないなどの意見が出た。また、ロックフェスティバルに求めるものとして（複数回答）91%の者がアーティストと答え、その他にも場所 (34%) や金額 (22%) が重要視されていることが示された。チケット理想金額 (1 日券) は学生の 60%、社会人の 68%が回答した「5,000 円～10,000 円」が最も多かった。

4. 考察

これらの結果から来客数 1 万人を超えるロックフェスティバルの計画を立てる。開催地は愛媛県西条市とし、開催時期は帰省時期である GW とする。西条運動公園といとまちマルシェを会場とし、バンドステージ 3 会場・弾き語りステージ 1 会場・子ども向けステージ 1 会場の計 5 会場を設置し、若者だけでなく子ども連れの家族もターゲットとし会場設定を行う。入場料は 6,000 円と設定し、地域の人も気軽に参加できるよう入場無料エリアの設置も行う。西条市の店やキッチンカーを集めた屋台の出店や地元アーティストを起用することで、ここでしか見られない価値を生み出し、運営から参加者まで西条市一体となった幅広い年齢層が楽しめるロックフェスティバルになっている。



図 1 会場 MAP

氏名	水口 葉月	学籍番号	J020041	ゼミNo.	2					
テーマ	子どもの楽しさに着目した新しいラジオ体操の開発 —ラジオ体操とはづき体操を比較して—									
<b>1. 問題と目的</b>										
<p>ラジオ体操とは、老若男女問わず誰もが短時間で効率よく体を動かすことができる「究極の全身運動」と言われている（中村、2012）。しかし、現在ではラジオ体操を行う習慣が薄くなっているなど、ラジオ体操の実施率が減少傾向にある。様々な要因が挙げられている中、本研究では、子どもにとってラジオ体操が楽しいものではなくなっているという点に着目し、子どもが自ら遊びたい・楽しいと思ってもらえるような新たなラジオ体操（以下、はづき体操）を考案することを目的とする。そして、子どもの様子をカメラで録画し、笑顔の表出回数を計算してどちらの方が子どもにとって楽しい体操になっているのかを比較する。</p>										
<b>2. 研究方法</b>										
<p>【対象者】愛媛県内の保育所に通う、1歳児1名・2歳児2名・3歳児3名・4歳児2名・5歳児2名、計10名。</p>										
<p>【手続き】子どもが楽しくできるように動物をイメージした動きや子どもが自由に動けるようなフリーの時間、スピードの変化、違う音楽を加えたはづき体操を考案する。そして、子どもの様子をカメラで録画し、子どもの笑顔の表出回数を計算する。そこで、ラジオ体操とはづき体操を比較して、どちらの方が楽しく体操をしているのかを明らかにする。また、統計解析には、HADを用いた対応のあるt検定を行った。</p>										
<b>3. 結果</b>										
<p>はづき体操の笑顔の表出回数がラジオ体操の笑顔の表出回数よりも有意に多いことが認められた (<math>t(9)=3.85, p=.04</math>)。また、体操の動きでは、はづき体操の両脚ジャンプの時間に318回、フリーの時間に157回と笑顔の表出回数が多く見られた。子どもの年齢では、3歳以上児は、体操の動きの面白さや音楽に合わせて動くことの楽しさを感じながら笑っている様子が見られることが多くあり、1歳以上3歳未満児は、動きの面白さを感じるよりも、音に合わせて動くこと自体が楽しそうな様子であることが示された。</p>										
<b>4. 考察</b>										
<p>はづき体操は、ラジオ体操よりも楽しい体操になっているということが明らかとなつた。これは、子どもが両脚ジャンプで体全身を使い体操したことやフリーの時間を入れることで、自由に表現する楽しさを感じたからだと考えられる。また、子どもにとって「楽しい」ということは、何度もやりたいと思ってもらうために重要なことの1つであることが明らかとなり、楽しい体操にすることで、子どもが繰り返し体操をしてくれるのではないかと考える。</p>										

氏名	芳野 日香	学籍番号	J020055	ゼミNo.	2					
テーマ	4年制大学における保育学生の就職意識 —保育実習・教育実習がおよぼす保育観について—									
<u>1.問題と目的</u>										
<p>近年、保育士・幼稚園教諭の不足は社会問題として取り上げられており、その原因の1つに潜在保育士がいることが挙げられる。土谷（2007）の実習前後の調査によると、現場に対する印象は、実習後の方が実習前より良くなつたとされている。しかし、就職したいかとなるとその割合は減少していた。そこで本研究では、実習を通しての子どもや保育職への印象についての実態を把握し、また、学生の現場に対する就職希望度とその理由に関して学年別の違いから就職意識・きっかけ等を明らかにする。また、保育学生が求める労働条件についても明らかにし、保育職のより良い労働環境の改善を求めると共に、保育士不足の軽減に寄与することを目的とする。</p>										
<u>2.研究方法</u>										
<p>【対象】保育を専攻する女子大学生 139 名（1年生 21 名、2年生 32 名、3年生 44 名、4年生 42 名）を対象とした。</p>										
<p>【手続き】4年制大学に通う保育を専攻する学生を対象にグーグルフォームにて調査を行った。資格に必須である各実習を終えて、保育職についての意識を、一要因分散分析を用いて分析した。また、現場への就職を希望するかとその理由を記述式で求めた。そして、学生が保育職に求める労働条件について上位 3 つを記述式的回答を得た。</p>										
<u>3.結果</u>										
<p>実習での意識について、①保育実習 I、②施設実習では、「現場へのイメージ」の項目において、①では 2 年生 3.78 が 3 年生 3.07・4 年生 3.07 よりも有意に高いことが示された。②では 2 年生 4.06・3 年生 4.09 が 4 年生 3.19 よりも有意に高いことが示され、また、両実習ともどの学年においても「現場で働きたいと思った」の項目では、さらに平均が下がっていた。保育現場への就職に関しては、学生 139 人中 100 名が現場への就職を考えていた。その理由を学年別に見ると「小さい頃からの夢」「授業を通して」「実習・責任自習を通して」「資格を活かすため」という記述が見られ、実習の経験から述べている回答が多く見られた。学生の求める労働条件では、給与、人間関係が上位に君臨し、少数派では福利厚生や園の方針・規模を考える学生も見られた。</p>										
<u>4.考察</u>										
<p>これらの結果から、実習と就職について検討し、学年別の保育職に就きたい理由としては学年が上がるにつれ、憧れなどの抽象的な理由から現実かつ具体的な理由になっていることが明らかになった。学生は実習を通して自身の保育職のイメージを明確かつ具体化し、保育観を構築することで自己の保育に対する適性を吟味していると考えられる。求める労働条件では、保育の待遇改善にも挙げられている項目が浮上し、今後も労働環境の改善を行うことで、保育士不足の軽減に寄与されると思われた。</p>										

氏名	旭 梓歩	学籍番号	J020001	ゼミNo.	3					
テーマ	子どもの主体性を育む援助や環境構成について									
本研究では、子どもの興味・関心や興味・関心を引き立てるための効果的な教材や教具について調べ、さらに、子どもが主体的に活動するためにはどのような援助や環境構成を行ったらよいのかについて明らかにした。										
<p>第一章では、乳幼児期の子どもの興味や関心、子どもの興味や関心を育む効果的な教材や教具について調べた。乳児期の興味・関心は自分の体から始まり、身近な物や人に興味が移っていく。幼児期が興味を持つものは、運動能力、思考力、認識力などの「得た力を使ってみたい」という思いと、周りの人的環境が幼児期の興味関心に強く影響している。そして、保育現場で使われる教材、教具として手遊び、歌（ピアノ）、絵本、折り紙を中心に、これらが子どもの運動機能の発達や、集中力、表現力、創造性などさまざまな能力を総合的に発達することをサポートする重要な役割がある。したがって保育者は、事前に教材研究を行うことや教材の特性を理解して子どもの発達や状況に合わせて選択することに留意する必要があると言えるだろう。</p>										
<p>第二章では、主体性の意義や乳幼児期の主体性を育む人的・物的環境について調べた。主体性とは、自らの意志に基づいて積極的に動こうとするさまであると言える。その意志は、一人で考えて選択、決定しているのではなく、いずれも周りの環境から影響を受けている。主体性を育む人的環境は、子どもが主体性を持って活動している時は子どもの意志を受け止め、見守り、活動に迷いがある子どもに対しては、子どもが活動のイメージを持てるように「誘導」することが大切である。物的環境は、子どもの年齢や発達段階を理解し、子どもが積極性を持てるように、配慮することが求められ、保育活動の中で子どもの動線を整理し、空間的環境に仕切りを設けて遊びの拠点となる場を設置することで、子どもが主体的に遊ぶようになることがわかった。</p>										
<p>第三章は、責任実習で行った製作活動「ぴょんぴょんカエル」の実践を、第二章で明らかになった子どもの主体性を育む人的・物的環境の視点から分析を行った。その結果、前日に気持ちを高めている点、見本を用意して子どもの創造性を高めている点、製作途中の声掛けなどが子どもの主体性を育んでいる部分であることが分かった。さらに、人的・物的環境の面でも子どもの活動を受け止めた援助や子どもの身近な物を使っての活動を行うという点が子どものやる気や集中力、創造性を育んでいることが分かった。</p>										
<p>以上のことから、子どもの主体性は、周りの人的・物的環境が大いに関わっていることが分かった。保育者は子どもの興味や関心を理解し、子どもが興味を持ち、主体性をもって活動できるような環境を作ることが必要である。実際に、現場で働き始めたときに、子どもの主体性を育むことができるような援助ができるようにしたい。今後の課題として、さらに経験を積み、子どもの主体性を視野にいれた時間配分や動線について瞬時に判断し環境を再構成できる実践力を身につけることに努めたい。</p>										

氏名	上田志優	学籍番号	J020004	ゼミNo.	3					
テーマ	習い事の意義 一バレエを手掛かりに一									
本研究では、まず、幼児期の子どもの習い事の実態について調査した。そして、クラシックバレエを手掛かりに、習い事をする背景と子どもへの影響を当事者、保護者、指導者を対象に半構造化面接を用いて調査し幼児期に習い事をする意義について明らかにした。										
<p>第一章では、習い事の定義や就学前の子どもたちの習い事の実態について調べた。習い事とは、師から習う事柄であり、標準とされる年齢に達する前から教育訓練を行う点で早期教育とは異なる。また、就学前の過半数の子どもたちが習い事をしていることが明らかになった。しかし、その割合は徐々に減少しており、特に幼稚園児の減少率が高いことがわかった。そして、利用している習い事は1995年から現在に至るまで通信教育とスイミングが多く、2012年あたりから通信教育よりスイミングの方が多くなっている。また、2005年から通信教育、スイミングに次いで英会話の割合が高くなっている。これは学習指導要領の見直しから小学校でも外国語活動を取り入れることになったことがきっかけであると考えられ、習い事が学校教育の動向などの影響を受けていることがわかった。</p>										
<p>第二章では、習い事に対する保護者の意識について保護者の子育て観から調査した。その結果、小学生の場合、保護者のさせたい習い事を実際に習っていることが多く、習い事が保護者の希望がきっかけで始めることが多いとわかった。また、保護者は、習い事を通して得意・好きなことを見つけて、「自信をつけること」を期待していることが明らかになった。</p>										
<p>第三章では、Mバレエ教室に現在通っている又は通っていた生徒、生徒の保護者、18年間バレエを指導している3人の指導者にインタビューを行った。調査から、習い事をすることにより①社会性や精神面における成長、②人間関係構築能力、③自己肯定感が形成されているということが分かった。そして、好きなことや自信の持てるものができる、家庭や学外での自分の居場所を見つけることもできるということわかった。</p>										
<p>以上のことから、習い事は保護者をきっかけとして就学前から始めることが多いが、習い事は、子どもの社会性や精神面における成長においてよい影響を与えることがわかった。一方、今回十分に検討できなかつた習い事で要求される独特の身体性や集団性に合わせることを圧力と感じてしまう場合、保護者同士の関係性の問題、金銭的な問題など、習い事のマイナス面がどのように影響を及ぼしているかについては詳細な分析ができなかつたので今後の課題としたい。</p>										

氏名	越智陽香	学籍番号	J020013	ゼミNo.	3
テーマ	幼児期における見立て遊びの重要性				
<p>本研究では、見立て遊びとは何か、乳幼児期における実態や見立てとごっこ遊びの違いから見立て遊びの意義について調査した。そして、多様な見立てや豊かなイメージを引き出す援助について明らかにした。</p> <p>第1章では、見立て遊びの定義、発達的意義・役割、ごっこ遊びとの違いについて調査した。見立て遊びとは、身近にあるものや目の前に存在しないものを別の物に見立てて想像を膨らませる遊びであり、イメージする力(象徴機能)が必要であると分かった。見立て遊びは、子どもの発達に伴って変化しており、観察力、記憶力、発想力、コミュニケーション能力が身に付くことが分かった。見立てとごっこ遊びの違いは、役割の理解と分担、状況・ドラマづくりであり、それらに必要な言葉の発達だと分かった。</p> <p>第2章では、身近な物をどのように見立てて遊んでいるのか、見立て遊びのきっかけとプロセスについて明らかにした。見立て遊びのプロセスは、素材で遊んでいる中からテーマ、ごっこが始まる場合と、共有しているテーマからそれに見合った素材を集めてくる場合がある。また、子ども達の想像力の豊かさのもとには日頃の経験が遊びのきっかけとして重要になってくる。幼い頃からの経験やその時に感じた気持ちは、子ども達の発達にとって、とても大切なものになってくる。保育教諭は、子ども達の想像力が広がるように環境設定を考え、経験を保障し、子ども達の工夫しながら遊んでいる姿を見て、認めること、一緒に楽しみ共感することが大切だと言える。</p> <p>第3章では、見立てを引き出すための保育者の援助についてE保育園とS保育園にインタビューをもとに調査した。見立て遊びは2歳頃から見られ、お医者さんごっこやアイスクリーム屋さんごっこなど今まで経験して心が強く動かされたことを遊びに取り入れていることが分かった。E保育園では、手作りおもちゃ、S保育園では行事をはじめとした実際の様々な経験の保障をするなど園の方針や特色を生かして見立て遊びを引き出し、発展させようとしていた。いずれも保育者は子どものイメージを大切にしながら、その見立てにあった環境構成やさらに遊びを発展させるような援助、言葉がけが行われていることが明らかになった。</p> <p>以上のことから、子ども達の見立て遊びにはイメージする力や経験が関係していることが分かった。また事例やインタビューから子ども達は普段の生活の中で楽しかったこと、印象に残っていることが見立て遊びのきっかけになっていると分かった。今後の課題として、子どもたちが心を動かす経験を保障し、子どものイメージに合わせた手作りおもちゃや環境構成を考え、見立て遊びがより発展するように促していくたい。</p>					

氏名	藏本夏姫沙	学籍番号	J020018	ゼミNo.	3					
テーマ	保育者の言葉かけ									
本研究では、子どもと関わる保育者の言葉は、子ども、発達、遊び等、日常でどのような影響があり、どのような言葉が効果的かを明らかにした。										
<p>第1章では、保育者の言葉、言葉かけとはどのようなものか調査した。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』には「保育者の言葉」「保育者の言葉かけ」についての直接的な言及はなかったが、子どもの言葉を豊かに、言語的な発達を促すためと考えられる部分の記載はあった。例えば、応答的な関わりをすることや読み聞かせ、教室・保育者の雰囲気づくり、仲立ち等である。これらは、3歳以上児よりも3歳未満児に該当する部分が多く見られた。そして、言葉の発達に保育者から子どもへ向ける言葉が重要視されていると同時に不必要的言葉かけ、特に指示・命令の言葉は望ましくないとされている。そのため、言葉かけは、一人ひとりの子どもに合わせることだけではなく、言葉をかけず見守る（沈黙）選択が適している場合があるため、見極める必要がある。また「ことば」「ことばかけ」と表記することで、言葉以外の要素を含んだ広い意味になり、保育においては言葉のみではなく、ことばとイメージを届けようすると、気持ちが伝わりやすくなるともされている。</p>										
<p>第2章では、保育者と学生それぞれの言葉かけの特徴を調べた。保育者は、「代弁」「思考の喚起」が多く、学生は「繰り返し」が多く見られた。両者ともに子どもたちと丁寧に関わるが、子どもの発達や、幼児期に育ってほしい姿等を考え、より専門的な視点や意図をもって、保育者は発話している。子どもは保育者の言葉に敏感であるため、敏感な幼児期に、関わるうえで適切で意図のある発話が重要視される。</p>										
<p>第3章では、保育者の言葉の重要性について、事例をもとに明らかにした。その結果、言葉かけが子どものやる気につながる場合もあるが、そうならない場合もあること、トラブル時には受容的方法による言葉かけや非指示的リード等を用いること、子どもの行動をほめる言葉かけが活動意欲を引き出す効果がある一方、無理をさせてしまう恐れがあるが分かった。また、子どもや年齢によって同じような場面、言葉かけでも、違った反応や影響が見られることも分かった。</p>										
<p>以上のことから、子どもの遊びや行動は、保育者や大人の言葉に大きく左右される。どのような言葉や言葉かけが適しているかは、それぞれの子どもや年齢、発達段階に合わせる必要がある。また、言葉や言葉かけには、言葉以外の要素を含み、表情や声質はもちろん、環境や雰囲気作りも保育者的重要な役割であることも分かった。</p>										
<p>今後の課題として、子どもへの言葉かけの模索はもちろん、遊びや生活などそれぞれの場面での効果的な言葉かけをさらに研究していきたい。また、保護者への言葉かけについても研究していきたい。</p>										

氏名	崎山桃花	学籍番号	J020020	ゼミNo.	3
テーマ	不審者に対する保育現場の防犯対策と地域連携				
本研究では、主に園内活動での防犯対策や地域との連携、子どもへの安全教育の実態を調べ、どのように子どもの安全が確保されているのか明らかにした。					
<p>防犯には不審者が現れるといった予測できる犯罪に備え、他者に危害を加えられそうになった時に防ぐ物を携帯したり、防御策を立てたりする「受動的防犯」と、あらかじめ犯罪が起きやすそうな場所を見つけ出し、環境整備や地域パトロールをして不審者を近寄らせず、犯行をさせにくい環境を作つて防ぐ「能動的防犯」の2パターンに分けることができる。保育現場における受動的防犯として、不審者が現れた際の保育者の連携、不審者対応マニュアルの作成、防犯グッズの導入、設備点検があげられる。能動的防犯は保育者の目視での監視や日頃の挨拶、死角を少なくする環境設定や環境整備、防犯カメラ・セキュリティシステムの設置、園近くにいる人の視線、警察と地域ボランティアのパトロールがあることが分かった。とくに、防犯の四原則の『時間』『光』『音』『地域の人の目』を意識して対策を立てることが重要であり、建物の維持管理、清掃、整備が行き届いた魅力的な建物は犯罪リスクが低いと言える。また、犯罪に強い三要素として「領域性（犯罪者の力が及ばない範囲を明確にすること）」「監視性（犯罪者の行動を把握できること）」「抵抗性（犯罪者から加わる力を押し返すこと）」があることが明らかになった。</p>					
<p>子どもへの安全教育や防犯訓練の意義は、保育者と子どもの抵抗性を育てていくためである。防犯訓練や防犯標語、保育教材を使用した安全教育などを日々の保育の中で、繰り返し具体的に積み重ねることで、子どもは次第に危険性を理解し、将来的に自ら危険を回避できるようになることが分かった。</p>					
<p>最後に、園における防犯対策の実態と課題について明らかにするために幼稚園でインタビューを行った。その結果、早く正確な情報を得るために、不審者情報は複数の地域機関から提供され、様々なネットワークに所属する必要性があること、普段から子どもの位置確認だけでなく、子どもの感情や遊びの内容にも気を配ることで、予想外の事態から怪我や大きなトラブルを防ぐことへ繋げられること、さすまたといった防犯グッズはすぐには取り出せないため、机や椅子、棒状の物、砂など、身近なものを使つた対抗策があること、そして、保護者や地域機関と緊急時に連携するためにも、普段から誠実な対応を行つて信頼関係の形成をし、事前に協力を得ることが重要だと分かった。</p>					
<p>以上より子どもの安全は保育現場のだけ限定期的な責任でなく、保護者や地域機関と協力して子どもの安全を確保することや、子どもとともに防犯知識や危機回避能力を高めていくことの重要性が明らかとなった。今後は外部の人に接する機会が多いであろう、園外活動での危機管理についても、学びを深められるよう課題としたい。</p>					

氏名	竹本彩乃	学籍番号	J020024	ゼミNo.	3
テーマ	乳幼児期における玩具の発達的意義 ～キャラクター玩具が幼児に与える影響について～				
<p>本研究では、玩具が子ども達にどのような影響を与えていているのか、また園での玩具の選び方について、キャラクター玩具との比較を中心にしながら明らかにした。</p> <p>玩具は、子どもがもって遊ぶ道具でありその種類は多岐にわたり、子どもの活動や楽しみにとって大切なものです。また保育では「園具・教具」「保育遊具・保育玩具」と言われている。キャラクター玩具は、1960年代から流行し一般的に漫画やアニメ等のコンテンツに登場する図像として描かれた登場人物が玩具になっており、キャラクターから得られる効能があるから子ども達に人気で親しみやすい玩具であると同時に商品としての側面も持っている。したがって玩具の選び方では、子ども達は創造力を最大限に膨らますことができるよう、子ども達がどのように遊ぶのか考えることが大人の役割だと言えることが分かった。</p> <p>次に玩具が乳幼児期に与える影響と象徴能力の発達を調べた。成長・発達によって影響が変わっていくので子ども達一人一人にあった玩具を与えることで様々な能力を発達させると見える。重要な乳幼児期だからこそ、五つの感覚器官を沢山使うことで遊びに熱中する。とくに象徴能力は、幼児の全人的な成長と発達に欠くことのできない主要な能力である。したがって自由度の高い玩具の方が豊かなイメージを表出する傾向があり、子ども達の発達に影響を与えると分かった。</p> <p>最後に玩具の選び方やキャラクター玩具の印象について、キャラクター玩具が置いているS幼稚園、置いていないH幼稚園へのインタビューをもとに明らかにした。ともに「おもちゃに遊ばれないという考え方(S)」、「子ども主体の保育をしているからこそ子ども達がイメージを膨らませ、遊びに必要な物を自分達で作り出す力をつくような玩具を選んでいる(H)」に表されるように想像性(創造性)を重視し、子ども達が自分で考えて遊ぶことができるおもちゃを置いている。そのような中でキャラクター玩具のメリットとして子ども達が楽しく生活ができ安心できることがあげられる。一方キャラクターからの広がりについては課題があることも明らかになった</p> <p>以上のことから玩具は子ども達の生活の中で重要な役割を果たしており、成長・発達に大きな影響を与えていていると言える。また、キャラクター玩具は子ども達に親しみやすい玩具であるが流行り廃りがありどのようにして長く使えるのか考えさせられる物でもある。</p> <p>今後の課題として、これからも沢山の玩具が出てくるので、子ども達にとって楽しく遊ぶことができる、玩具から沢山のことを学ぶことができるよう保育の現場で子ども達の成長に寄り添いながら玩具について研究していきたい。</p>					

氏名	中谷みゆ	学籍番号	J020030	ゼミNo.	3
テーマ	乳児期の泣きに関する研究				
<p>本研究では、泣きのメカニズムや泣きの発達、子どもの泣きの実態とインタビューを通してし、対応・援助について明らかにした。</p> <p>子どもはいつごろから、なぜ泣くのだろうか。人間の涙には「基礎分泌の涙」「反射性の涙」「情動性の涙」の3つの種類があり、生後3～4か月ごろから情動性の涙が見られる。子どもは乳児期から訳もなく泣いているわけではなく、泣くことは何か伝えようとしている表現の一部である。成長するにつれ、泣く原因が増えしていく中で、母親や周りの大人はなぜ泣いているのか分からなくなる。そのときに、一時的な感情で当たるのではなく、一步引いて「どうしたのかな」と落ち着いて子どもと関わり、子どもの要求を理解し、受け止めることで、子どもとのコミュニケーションや信頼関係が生まれてくることが明らかになった。</p> <p>乳児期の子どもは成長するにつれ泣く理由が増え、自己主張が始まるので、泣きに対する対応が難しくなってくる。とくに養育者の負担が大きい泣きとして「夜泣き」がある。夜泣きの原因は、明確ではなく寝ることへの気持ちの変化や生理現象その一つと言われている。対処法として、今井氏によると、生活リズムを整える、日中戸外で遊ぶ、入眠儀式を決める、寝具の上で寝かせるなどがあげられているが、はっきりとした対処法はなく、どうしたら落ち着くかを試行錯誤していくことで、信頼関係も良好になり、夜泣きを乗り越えていけると言えるだろう。</p> <p>最後に子育て支援ひろば「たんぽぽ」でのインタビューをてがかりに、子育て家庭における子どもの泣きの実態と対応について調査した。夜泣きやコリック泣きの対応に困っている母親は多かった。そして、子どもが泣いたときにまずは抱っこする母親が多く、母親は、赤ちゃんは「抱っこをしてあげることで子どもは安心する」ということを無意識のうちに理解し、とっさに最初に取る行動であることが分かった。乳児期の泣きは、これをしたら必ず泣き止むということではなく、それぞれの赤ちゃんに合った機嫌の取り方はその子を産んだ母親や家族にしか分からない。大切なことは、赤ちゃんの泣きをどう受け止め、その子に合った関わり方をしていくことだろう。</p> <p>以上より、乳幼児の泣きは生まれたときから何かしらの理由があり、周りの大人はなぜ泣いているのか理解しようと試行錯誤して関わることが大切だといえる。将来、保育者になったら、子どもの泣く場面にたくさん遭遇するだろう。そのときに、なぜ泣いているのかを読み取ろうとする姿勢を大切にし、子どもの要求に応えられるような保育者になりたい。また泣きで困っている母親にも、不安を和らげるような共感やアドバイスができるようにもっと子どもの泣きについて実践的に研究を進めていきたい。</p>					

氏名	森野里彩	学籍番号	J020049	ゼミNo.	3					
テーマ	子どもと言葉									
本研究では、どのように子どもは言葉を学習し、身に付けていくのか明らかにした。										
<p>第1章では、言葉の発達について、明らかにした。今井むつみ氏によると胎児期、お母さんのお腹の中で学ぶ言葉のリズムとイントネーションのパターンは、生まれた後に人の声を単語に区切っていくための、非常に大事な最初の手がかりである。乳幼児期に獲得する単語と機能語の区別は、人の声から単語を見つけ、リズムとイントネーションなどの音のつらなりを区切り、無意識のうちに賢い分析している。したがって幼児期においては、いろいろな種類の単語を覚えていき、子どもがいかに、自分のもっている力を駆使して言葉を学習しているか分かった。</p>										
<p>第2章では、子どもを取り巻く言葉の環境について、子どもは大人の話す言葉をすぐに真似することから、普段の何気ない言葉掛けも、子どもにとっては、新しい言葉を学ぶキッカケになっていることが分かった。また、アニメの影響として、大人は、子どもの見たいアニメをどう受け止め、それをどのように見せるか、考えることが必要で、よく子どもと話し合い、ルールを決めて、アニメを見ることが良いと分かった。また、今井和子氏によると汚い言葉、乱暴な言葉と暴力の言葉は異なる。汚い言葉は、子どもは親の慌てる姿が好きだから使う。しかし人格や存在を否定するような暴力の言葉はその場で、毅然とした態度で厳しく、周りの人が真剣に叱らなければならない。したがって言葉づかいが悪い場合は、言葉の意味を考え、人を傷つける言葉であれば注意をし、言葉の暴力に繋がらないよう、大人の役目として仕向ける必要があると言えるだろう。</p>										
<p>第3章では、子どもの言葉を育む環境について、中坪氏は、①思わず活動したくなる環境、②様々な素材を用いることができる環境、③活動に没頭できる環境、④活動を振り返ることができる環境をあげている。保育室に準備された素材の1つ1つが子どもの言葉を育むために必要な素材となっていて、作品1つの配置の仕方でも、子どもの言葉を育むことができるよう、つながっていると言えるだろう。また、子どもは、養育者と様々なコミュニケーションをとることで、言葉に出会い、沢山の言葉を聞くことで、言葉の発達に良い影響がでてくるのだと分かった。また、手話から浮かびあがるコミュニケーションの場の重要性について、親と子どもの間に、あるいは、周りの地域社会の人たちとの間に、何らかの目的を持って、身振りが使用されていることが重要であり、意味のやりとり、対人的なコミュニケーションの場、そのものが言語的な構造を生み出す基盤となっていることがわかった。</p>										
<p>以上より、子どもは周りの環境によって言葉を学びその言葉の学習を通して、今まで知らなかった概念をどんどん学習し、様々な思考が生まれると明らかになった。今後、子どもと関わる際には、言葉について深く考え、コミュニケーションの道具である言葉の大切さを、上手く伝えていくことができるようになりたい。</p>										

氏名	横山虹菜	学籍番号	j020054	ゼミNo.	3					
テーマ	多胎児を持つ家庭の支援について									
本研究では、まず多胎児を持つ家庭の困り感を中心に、多胎児を持つ家庭のニーズを明らかにした。										
<p>第一章では多胎児の基礎的な知識について論じるとともに日本や諸外国における多胎児の出生率や多胎児を妊娠する要因などについてまとめた。多胎児は受精卵の数によって「一卵性双生児」と「二卵性双生児」の二種類に分けられる。近年、体外受精や晩婚化、高齢出産などが影響して海外では多胎児出産が増加、日本でも微増していることが明らかになった。「双子の日」の記念日や有名なキャラクターなど身近に感じられる一方、多胎児を産み、育てるにはリスクがあることがわかった。例えば妊娠初期に起こりうる「バニシングツイン」、妊娠糖尿病などの合併症、それに伴う早産、虐待のリスクなどである。</p>										
<p>第二章では多胎児育児の困りごとについて、物理的な困り感・経済的な困り感・精神的な困り感の三つに分けて具体例を用いながら論じた。物理的な困り感では双子用ベビーカーの必要性とリスクから外出が制限されやすいことが明らかになった。経済的な困り感では単胎児を持つ家庭と比べて2~3倍以上の育児、教育費が必要になること、病院受診に関するストレス、ゆとりのなさが明らかになった。いずれの困難も相互に関係しあっており、とくに多胎児を育てる家庭の周りの環境(家族や周囲の視線)に大きな課題があることが分かった。だが、その問題を軽減するために様々な制度があることも明らかになった。</p>										
<p>第三章では多胎児の母親にインタビューを行い、多胎児の園生活について明らかにした。多胎児育児の困り感を解消するために、幼稚園など集団の保育、教育施設が果たす役割は大きい。例えば、多胎児が園に通い始めることで母親に時間や気持ちにゆとりが生まれ、園からの細やかな配慮や情報提供・共有によって単体児育児と同じように子育てを楽しむことができるようになるからだ。また各地域に地域多胎児ネットワークという多胎児家庭当事者、研究者、医療・保健・福祉・行政・教育・保育・子育て支援などの関係者が連携して、多胎の妊娠・出産・育児を支援するためのネットワークも存在している。多胎ネットをはじめ、多胎児の育児の支援の在り方として「包み込む支援」の重要性について論じた。包み込む支援とは、育児で親が追い込まれないように公と民が一体となって「支援メニューを多胎児家庭に発信」し、親が「自己選択」できるような体制づくりであり、実際の支援において「出産ヒストリーへの共感」が重要であることがわかった。これらの支援の体制やあり方は多胎児家庭の支援に関わらず、保育者が子育て支援においても重要なことである。そして保育者は子育てにおいて「いつでも頼れる人」「困ったときには支えてもらえる」人となる必要があると言えるだろう。</p>										

氏名	吉見あかり	学籍番号	J020056	ゼミNo.	3					
テーマ	子どもの食物アレルギーの現状と配慮									
本研究では子どもの食物アレルギーの現状と配慮について調査し、特に乳幼児に食物アレルギーが多く見られる原因、園でのアレルギー対応について文献・インタビュー調査から明らかにした。										
<p>第1章では食物アレルギーと定義、保育所保育指針によるアレルギー対応について、保育所における食物アレルギーガイドラインについて調べた。食物アレルギーとは1種類の抗原による免疫システムの異常によって起こり、IgE抗体とアレルゲンが結び付き、マスト細胞から物質が放出されることで起こるものだと分かった。また、保育所保育指針、保育所におけるガイドラインを通して、アレルギー対応する際は職員の共通理解の下で、医師、地域のような関連機関、保護者と連携を取りながら、子どもの安心安全を第一に考えることが重要であることが分かった。</p>										
<p>第2章では食物アレルギーの実態、食物アレルギーの症状・原因となっている食物について、乳幼児にアレルギーが多く見られる原因について調べた。年齢ごとに見ると、年齢が低いほど食物アレルギーが発症しやすいこと、年齢が上がるにつれて発症しにくいうことが分かった。また、乳幼児に食物アレルギーが多いのは両親からの遺伝、環境汚染、母親の妊娠初期の食生活が関係していると言える。</p>										
<p>第3章では食物アレルギーを有する子どもに対しての園での配慮をインタビュー調査から明らかにした。ヒヤリハットの事例からその場の状況を見直し、詳細に原因を洗い出したうえで、改善していくことが大切であると言える。事故対応では大きく分けて3つの連携を大切にし、その場の状況確認を行い、迅速な対応が必用不可欠であることが言えるだろう。事故予防では給食室と保育室の配慮どちらとも配慮を大切にし、事故に繋がらないように気を付けるべきである。職員間の連携では給食室内での連携、給食室と保育者の連携、園全体の連携をしっかり取り、視覚化を用いて人的ミスが少なくなるよう工夫していた。家庭の連携では面談、書類等のやり取りを通して不安を取り除けるように保護者との相互理解を図ることが重要である。</p>										
<p>以上のことから、食物アレルギーの園の配慮では、職員間の連携、医師等の関係機関、保護者との連携を通し、アレルギー事故が起こらないように視覚化の活用を行い、環境面での配慮をすることが重要であると分かった。また、人的ミスは気を付けていても起こってしまう為、人数を見て完全除去食にすること、すべての職員がアレルギー児を把握できるような工夫をしていくことも必要であると分かった。</p>										
<p>ここでの研究で明らかになったことを踏まえながら、職員間、家庭、関連機関等としっかりと連携を取り、視覚化を用いた食物アレルギーの対応をしていきたい。また、今後の課題として、アナフィラキシーや重度のアレルギー症状がある子どもへの対応を深く理解し、冷静に迅速に対応ができるようにしていきたい。</p>										

氏名	尾崎 芽生	学籍番号	J020011	ゼミNo.	4
テーマ	サウナで健康な生活を創ろう				

### 1. 研究の動機

中学時代からソフトテニスを始め、体のメンテナンスを整えるためにサウナに通うようになった。サウナから出ると、疲れ切った体が軽くなっていると同時に、リラックスできていることに気づいた。サウナには長い歴史があり、とても深い意味やねらいがあることを改めて知り、非常に強い興味がわいた。

### 2. 研究方法

ネットや文献を活用してサウナについて情報収集した。サウナを利用することで得られる効果について調べ、サウナの歴史や日本にきたきっかけを知り、メリットや問題点について理解した。また、松山東雲女子大学の学生を対象にアンケート調査を実施した。そして、調査結果を集計し考察を加えた。

### 3. 結論

サウナは、血流が良くなるから健康と美容にさまざまな効果がある。血流が良くなれば、溜まっていた老廃物や疲労物質は排泄される。細胞にも栄養と酸素が行き届き、傷ついた細胞は修復され、体の各機能は回復していく。その結果、疲労回復はもちろん、冷えや肩こり、腰痛、月経前症候群や便秘、肌荒れなど、さまざまな症状の改善に効果が得られる。

本学学生に対するアンケート調査の結果、女性が抱えるサウナの悩みや女性の利用率が分かった。「行ったことが無い」と答えた学生が意外と多かった。

サウナに否定的な意見を持つ者は、サウナに入って汗をかいたあの快感を味わったことがないのだろうと思う。血流を良くすることによる効果を知らないから否定的な意見になったと思う。人目が気になるのであれば、個室サウナを利用する手段もあるので、試してほしい。

サウナの効果を多くの人々に広め、利用できる施設をもっと増やし、「サ活」を楽しむ人が増えてほしいと思った。

### 4. 参考文献

- ・サウナの6つの医学的効果！サウナのメリットデメリット・効果が上がる方法  
<https://saunatribe.com/magazine/313> 2023/12/14
- ・サウナの効果・総まとめ | サウナの種類別効果から効果的な入り方まで、  
<https://mitsuraku.jp/kiji/sauna-effect> 、2023/12/7。
- ・サウナの効果を最大限に得る方法、  
<https://www.teikoku-drugstore.co.jp/article5216/> 、2023/12/2。

氏名	中津 悠莉	学籍番号	J020031	ゼミNo.	4
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	新型コロナウイルス感染症流行前後の意識について
-----	-------------------------

### 1. 研究の動機

私が東雲女子大学に入学した年から新型コロナウイルス感染症が流行した。大学生活が始まると同時に遠隔授業が始まり、人との接触機会が減った。その後の3年間で社会は大きく変わった。新型コロナウイルス感染症は何だったのか。2020年（コロナ発症時）と2023年10月時点（現在）を比較して、今の大学生にとって新型コロナウイルス感染症の捉え方の変化、について興味を持った。

### 2. 研究方法

新型コロナウイルス感染症について、ネットや文献を活用して情報収集した。コロナウイルスの基本的な知識、プラス面やマイナス面、様々な変化について調べた。本学学生に対して、新型コロナウイルス感染症での影響や気持ちの変化、意識や考えに関するアンケート調査を実施した。そして、調査結果を集計し、考察を加えた。

### 3. 結論

2019年12月、中国の武漢で新型コロナウイルス感染症が初めて報告され、その後、瞬く間に世界中に広がった。愛媛県内は2020年2月中旬から流行が拡大した。対策として、3密回避（密閉・密集・密接）を実施した。感染症の人数を増やさないこと、感染症の予防や対策を実践してきた。

大学内でも3密回避のために、対面授業を控えオンライン授業になった。対面授業では、換気を定期的に行うなど、対策が積極的に行なってきた。

アンケート調査の結果から、2020年（コロナ発症時）から2023年10月時点（現在）では2020年では「不安」と回答している学生が一番多いのに対し、2023年10月時点では「何も思わない」が一番多い回答になり、気持ちの変化があったことが分かった。

新型コロナウイルス感染症だけでなく、新しい感染症がいつ起こるのか予測はできない。非常時に適切な行動ができるよう、普段から情報収集をするなど備えて行動していきたい。

### 4. 参考文献

- 重村淳, 高橋晶, 大江美佐里, & 黒澤美枝. (2020). COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて. トラウマティック・ストレス, 18(1), 71-79.
- ・新型コロナウイルスで学校・教育現場が受けた影響とは? | gooddo  
<https://gooddo.jp/magazine/education/10013/>、2023/12/12。

氏名	藤岡 綾菜	学籍番号	J020034	ゼミNo.	4
テーマ	韓流ブームに対する大学生の意識について				

### 1. 研究の動機

小学生の頃から韓国料理を吃るのは好きだった。高校生の頃、ダンスの授業で韓国アイドルグループの代表曲で練習し K-POP に親しむようになった。韓国の大統領の交代により日韓関係が好転と悪化を繰り返す状態を見て、なぜそうなるのか疑問が沸いた。韓国の文化は、現代の大学生にどれほど認知されているのか、またどれほどの影響を与えていたのかなどについて研究をしたいと考えた。

### 2. 研究方法

韓国文化や歴史、韓流について、ネットや文献を活用して情報収集した。また本学学生に対して韓国文化等について問うアンケート調査を実施した。そして、調査結果を集計し考察を加えた。

### 3. 結論

日本国内に発生した最初の韓流ブームは 2003 年に放送された韓国ドラマ「冬のソナタ」が始まりである。日本だけではなく、各国で巻き起こった韓流ブーム発生から韓国への旅行者数が増加した。かつて朝鮮半島であった韓国がここまで成長したことから「漢江の奇跡」と呼ばれる。現在は半導体やディスプレイを中心に入出している。2018 年国内総生産は 2001 年の約 3 倍も増加した。

古くから隣国であり文化的な交流は多かったが、戦時中の植民地下の状態で発生した慰安婦問題、徴用工問題が未だに紛争の種になっている。このことは、現代の若者は認識していない割合が多い。

アンケートの結果から、多くの若者が韓国文化に触れており、実際に現地韓国へ行きたいと答える学生もいる一方、治安や反日志向の国民も少なからずいることが分かった。

韓国文化はリーズナブルで親しみやすいことが特徴的であるが、植民地下時代における出来事から反日志向の韓国国民が多い。代表的な問題を解決するにも時間がかかると考える。日韓関係の親和に目を向けるとともに、それぞれの文化や考え方を尊重したいと考える。

### 4. 参考文献

- ・世界の韓流ファン 1.5 億人超　中国が 55 占め 1 位＝日本 27 位、、2022/12/26、  
<https://jp.yna.co.kr/view/AJP20221026004500882>
- ・日韓基本条約 - 世界史の窓 、2023/11/22、  
<https://www.y-history.net/appendix/wh1602-100.html>

氏名	松田 愛実	学籍番号	J020040	ゼミNo.	4
テーマ	「こうのとりのゆりかご」は社会を変える				

### 1. 研究の動機

2005～2006年に熊本県内で新生児遺棄事件を契機に「こうのとりのゆりかご」は誕生した。この施設が子どもの命を守るために活動していることをゼミの授業で知った。様々な理由で育てられず、周りにも相談できずに、困っている親や子どもがいる。子どもの命を守るべきであるのに、守り切れない状況があることなどに疑問を感じ、研究テーマにした。

### 2. 研究方法

「こうのとりのゆりかご」についてネットや文献を活用して、関連記事を調べ情報収集し、メリットや問題点などについて理解した。また、近隣の大学生を対象として、「こうのとりのゆりかご」に関するアンケート調査を行い、結果を集計し、考察を加えた。

### 3. 結論

「こうのとりのゆりかご」は、本来あってはならないものだが、現在の社会の中では必要不可欠である。子どもの命を守り切れない状況があるのは、周りの妊娠や妊産婦、子どもへの理解が足りないこと、一部の人の知識不足が招いているのではないか。経済状況の困難さ、若年妊娠はいけないこと、妊娠への理解の薄さ、子育てに関する知識の薄さ、「子どもは社会の宝」というプレッシャーからの中絶へのマイナスイメージなどがあり、相談しにくいことがあげられる。

赤ちゃんポストを設置する条件が難しいことも増えない理由である。最も難しいのは、子どもの安全確保ではないか。

さらに、相談機能の強化では、前提として、福祉や医療に関しての専門家が必要であり、設置を難しくしているのではないか。

アンケート結果から、男女の違い、学問分野の違いで、子どもの命に対する認識が異なることが分かった。

対応できる人材を育成し、相談者が安心できる環境を整えていかなければならない。そして「こうのとりのゆりかご」が必要でない社会を作らねばならない。

### 4. 参考文献

- ・田尻由貴子、『「赤ちゃんポスト」は、それでも必要です。』、ミネルヴァ書房、2017。
- ・日本 「こうのとりのゆりかご」 | FACTS OF EACH COUNTRY -各国の実情-- IABB、  
<http://www.iabb.info/japan/>、2023/12/1。

氏名	三原 万実	学籍番号	J020042	ゼミNo.	4
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ

なぜ園で動植物を育てるのか

### 1. 研究の動機

私は動植物が好きで、実家で文鳥やメダカ、ハムスター、熱帯魚の動物や、ポーチュラカ、サルスベリ、紫陽花の植物を飼育している。保育園や幼稚園実習に行った際にも、様々な動植物が飼育されている光景を目撃してきた。子どもにとって動植物と触れ合うことで、子ども達の成長にどのような影響があるのかに興味を持った。

### 2. 研究方法

子どもと動植物の関わり、子どもと自然の関わりについて、ネットや文献を活用して情報収集した。また、学外実習に行った本学学生を対象として、実習園での動植物飼育状況や飼育理由などについてアンケート調査を行った。また、子どもがいる家庭の保護者を対象に、子どもと動物との触れ合いの大切さ、価値観を尋ねる調査を実施した。そして、調査結果を集計し考察を加えた。

### 3. 結論

子どもは自然物に触れ、室内では得ることができない感性や生き物に対する優しい心、美しいものや優れたものに感動する心を育むことができる。

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等に示されるように、保育園や幼稚園の教師は、子どもたちが生命の美しさ、不思議を感じ取り、尊い生命への接し方、命の劳り方、生命の存在の大切さ等を身につけるように工夫し、伝えていかなければならない。

アンケート調査結果から、園での自然物や動植物との触れ合いは、家でペットを飼育していない家庭環境の子どもにとって、普段経験できないことを経験できる場所であることが確認できた。

保育者はしっかりと環境構成を整えて、子どもたちにしっかりと自然物や動植物と触れ合うことができる機会を作ることが必要である。

### 4. 参考文献

- ・ゲイル・F・メルスン、「動物と子どもの関係学 発達心理からみた動物の意味」、株式会社ビイシング・ネット・プレス、2007年、155、159、299～300ページ。
- ・マーティ・ベッカー/ダルネ・モートン、「ペットの力 知られざるアニマルセラピー」、株式会社 主婦の友社、2003年、32、35～37、41ページ。
- ・文部科学省、「幼稚園教育要領解説」、2018年、66、193～210ページ。

氏名	三宅 優衣	学籍番号	J020043	ゼミNo.	4
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	女子大生が好むラーメンの実態について
-----	--------------------

### 1. 研究の動機

私はラーメンが好きで、小学生の頃からよく家族で食べに行っていた。友達にもラーメンが好きな人が多く、祖父母もラーメンが好きである。大学生になり、自分で好きな時にラーメンを食べに行くことができるため、様々な味に出会い、おいしさの秘訣を追求していこうと思った。

### 2. 研究方法

ラーメンの人気と歴史、関連事項について、ネットや文献を活用して情報収集した。本学の子ども専攻と食物栄養学科の学生を対象にして、アンケート調査を実施し、女子大生のラーメンに対する意識を調べた。そして、調査結果を集計し、考察を加えた。

### 3. 結論

西日本では特に古くから麦作を行っており、うどん等の麺類が好まれてきた。箸を使うスタイルに慣れ、音を立てて気軽にたべられる麺類が好まれてきた。中国の生まれのラーメンが伝来し伝搬していくと日本独自のラーメンが生まれた。今では家系ラーメンのように、数多くの種類が日本中に存在している。

ただ、ラーメン自体塩分が多く、体に悪影響であるので、幼児に与える際に量の調節、食べる頻度などに気を付ける必要がある。

本学学生に対して行ったアンケート調査の結果からは、日本人が醤油を愛する民族であることから「醤油ラーメン」が最も人気があることが分かった。

短時間で手軽に作れて食べられるラーメンは、女子大生から人気があることが分かった。しかし、女子大と食物栄養学科の学生との結果を比較すると、ラーメンは栄養が偏る、塩分が多いなど健康に悪影響を与える点で好みに差が出た。

### 4. 参考文献

- ・日本人のラーメン好き度を大調査 週1以上食べる人の割合は… | Sirabee グルメ、<https://sirabee.com/2017/07/16/20161210071/>、2023/10/20。
- ・1日の塩分摂取量の目安は? 日本人の平均・狩猟や減塩のコツもご紹介 | Mwdi Palette、<https://medipalette.lotte.co.jp/bodycondition/284>、2023/12/15。
- ・何ラーメンが好き?女性役200人の「激推しラーメン」最新ランキング | man 総研、<https://ananweb.jp/soken/topics/research/404021/>、2023/10/29。

氏名	村上 舞	学籍番号	J020046	ゼミNo.	4					
テーマ	園の食育と子ども食堂の実態について									
<b>1. 研究の動機</b>										
幼少期の頃から子どもと関わることが好きだった。高校時代に先生の勧めで子ども食堂を訪れ、子どもとの関わりや対話の大切さを知った。そして、子ども食堂をもっと広めたいと思った。また、本学の子ども専攻に入学し複数の実習先を体験し、幼児教育現場によって異なる食育に気づき、工夫された給食の献立について興味・関心を持った。										
<b>2. 研究方法</b>										
実習園のホームページや頂いた資料を参考にして、園行事や給食の献立について比較した。子ども食堂の実態について現地でインタビュー調査を行い、活動に参加した。本学学生に対してアンケート調査を実施し、集計結果に考察を加えた。										
<b>3. 結論</b>										
園では伝統行事や子どもが自ら自然に触れて楽しく学ぶ体験を行うことで、「感謝」の気持ちや嫌いなものに対する「我慢」を身につける。そして、栄養に偏りなくバランスよい色合いや、食感にこだわり、季節感を味わえるように給食の献立を工夫している。										
子ども食堂に関するインタビューの結果から、主催者の方は、地域や利用している方への感謝の気持ちを持ち、もう一つの「居場所」を作ることを目的としていた。										
アンケート調査の結果から、園では野菜の栽培や収穫、日常生活の中で食育活動を取り入れていた。また、子ども食堂の良いイメージは、「にぎやかで楽しい」という意見が多い中、「少し行きづらい」という意見もあった。この障壁を崩すためには、地域と連携できるような体制を作ることが大切だと思った。										
<b>4. 参考文献</b>										
・松山東雲学園附属幼稚園 <a href="https://kindergarten.shinonome.ac.jp/">https://kindergarten.shinonome.ac.jp/</a> 2023年4月14日										
・幼保連携型松山認定こども園 星岡 <a href="https://www.matsuyama-kodomoen.ed.jp/hoshioka/index.php">https://www.matsuyama-kodomoen.ed.jp/hoshioka/index.php</a>										
・愛媛幼稚園 年中行事・給食のメニュー 資料参考 ・湯浅誠、「つながり続ける子ども食堂」、中央公論新社、 2021。 ・保育における食育とは／食育のねらいや学ぶメリット、具体的な取り組み、 <a href="https://solasto-career.com/hoiku/media/17014/">https://solasto-career.com/hoiku/media/17014/</a> 、2023/9/22。 ・「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針」、 <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku-000010005.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku-000010005.html</a> 、平成16年3月29日。										

氏名	山本由衣	学籍番号	J020053	ゼミNo.	4
----	------	------	---------	-------	---

テーマ	ケアワーカー不足問題に対する解決策について
-----	-----------------------

### 1. 研究の動機

日本は超少子高齢化社会に突入し、ケアワーカー（高齢者施設や障害者施設、病院などで介護業務に携わる仕事に勤務する人材）も減少し、成り手が不在となる問題が全国的に発生している。今後の社会で介護が必要とする人がサービスを受けることができない事態が発生することはほぼ必然になってきた。これらの問題をどうすれば解決できるのか、政府はどう対応しようとしているのかに关心をもちテーマとした。

### 2. 研究方法

日本の高齢化の状況、保育士の人材不足や介護離職の現状・実態、介護の待遇改善などについてネットや文献を活用して情報収集した。理解した。また、本学生に対してケアワーカーに対する意識や考えを問う意識調査を実施した。そして、調査結果を集計し、考察を加えた。

### 3. 結論

ケアワーカー減少の背景には「給料の低さ」など待遇の悪さが主な原因である。国はケアワーカーの賃金を上げる施策として、待遇改善加算を導入した。今後も引き続き、国は待遇改善を進めていくとみられる。

学生を対象とした調査結果からは、ケアワーカーに対する認知度が低かったが、その必要性は理解していて、人材を増やすためには給料の増加を望む声が圧倒的に多かった。

介護職の中でも待遇改善加算をすることができない職業や、自治体、園や施設によってまだ取り入れていないところもまだ存在している。このため、潜在保育士や資格を持っているのにその仕事に就かない人が多い。

超高齢化社会を乗り越えていくためには、待遇を改善することにより、今よりももっとケアワーカーの増加に向けて力を入れていくべきだと考える。

### 4. 参考文献

- ・ケアワーカーの仕事内容は？介護福祉士やソーシャルワーカーとの違いや給料について ソラジョブ介護

<https://solasto-career.com/kaigo/media/15473/>、2023/11/7。

- ・介護士と介護福祉士の違いとは？資格や仕事内容、給与に違いについて解説 三幸福社ガレッジ

[https://www.sanko-fukushi.com/news/difference\\_cwcg\\_column](https://www.sanko-fukushi.com/news/difference_cwcg_column)、2023/11/7。

- ・なぜ保育士の人数は不足している？5つの原因と解消に向けた対策を解説！

<https://solasto-career.com/hoiku/media/16600/>、2023/11/7。

氏名	渡辺 南美	学籍番号	J020060	ゼミNo.	4
テーマ	ランドセルは無くなってしまうのか				

### 1.研究の動機

大学入学以来、子どもの気持ちに寄り添うことが多く、子どもの関心の一つとして「ランドセル」があるのではないかと考えた。ランドセルには長い歴史と時代に合わせた変化があることを知り、子どもとランドセルの関係性について非常に強い興味を抱いた。今の大学生が子どもの頃に使用していたランドセルについてと、今度は親目線になって自分の子どもにはどのようなランドセルを選びたいかについて、興味を持った。

### 2.研究方法

ネットを活用しランドセルの誕生について情報収集した。また、2022年と2023年のランドセル購入に関する調査とSDGsとの関係性についても調べ、ランドセルの現状を明らかにした。本学学生や近隣学生に対して、ご自身の使用していたランドセルと自分の子どもに選びたいランドセルの詳細、また必要性について調査を実施した。そして、調査結果を集計し、考察を加えた。

### 3.結論

オランダの背嚢と呼ばれるリュックサックのようなものがランドセルの前身とされている。1877年に開校された学習院初等科が自分の荷物は自分で持ってくることを決まりとしたときに、この背嚢が使われるようになった。そして、大正天皇が学習院にご入学されるときには特注の箱型の通学鞄を伊藤博文から献上されたことをきっかけに、今のようなランドセルが作られるようになった。

アンケートの結果から、今の大学生が使用していたランドセルの色は、女性は赤や桃、男性は黒が主に多いこと分かった。またランドセルは小学校への憧れを強くする存在だということが分かった。必要性については、全体的に必要だと感じる意見が多かったが、どちらともいえない意見も多く、ランドセルにこだわる必要はないのではという回答も得られた。

今の大学生にとって、ランドセルは小学生の象徴ではあるが子どもが自由に決められるようになれば良いという意識を持っているように感じた。今後は子ども本人の意見・意志が尊重されるカバン選びが必要であると考える。

### 4.参考文献

- ・ランドセルの歴史 | ランドセル・ヒストリー | ランドセル工業会、  
<https://www.randoseru.gr.jp/history/rekishi.html>、2023/11/06。
- ・ランドセル購入に関する調査 2023年 | ランドセル購入に関する調査 | ランドセル工業会、<https://www.randoseru.gr.jp/graph/>、2023/11/06。

氏名	伊賀 汐里	学籍番号	J020002	ゼミNo.	5
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	日本と韓国の保育所・幼稚園の違い
-----	------------------

### 1. 研究の動機

一昔前までは、日本と韓国は慰安婦問題や領土問題など歴史的な背景から「反日」「嫌韓」の人が多くいた。しかし 2023 年現在、日本でも多くの韓国系の商品が輸入されており、人気商品として売られているのをよく目にする。また、日本で活躍する韓国人のアーティストやアイドルも増えており、日本の有名人よりも人気が出るケースもある。他にも、コロナウイルスの影響により、自宅で過ごす時間が増え、定額制動画配信サービスの需要が高まり、韓国ドラマが流行している。私は、小学生の頃からとても韓国に興味があり、韓国ドラマを見たり、韓国料理を食べたり、KPOP を聞いているうちに、韓国についてさらに興味を持った。そして今では 2 か月に 1 度渡韓をしているくらいだ。渡韓をしている間に韓国の保育所や幼稚園を外から見たり、韓国の子どもを見たりしていると、特にこの 3 年間学んできた「保育」について、日本と韓国ではどのような違いがあるのか知りたいと思った。

### 2. 研究方法

初めに、勅使千鶴編の『韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援』という文献を使い、韓国の保育所・幼稚園について理解を深める。その後、実際に韓国人の友人や日韓夫婦である友人に聞き取り調査を行い、日本と韓国の保育の違いや良い点を見つけ、日本に取り入れると良い点を考察する。

### 3. 研究結果

本研究を通して、日本と韓国の保育所・幼稚園ではそれほど大きな違いはないが、日本と比べて良い点として日本よりも簡単に保育者になれることから、小規模な施設が多く、保育所の数がかなり多いということが分かった。そして二つ目は、早期英語教育についてである。韓国では未就学児から英語教育を行っており、実際に日本人よりも英語能力がかなり高いということが分かった。そして最後に、保育時間が短いというところである。保育時間が短いことから家族での時間が増え、親子の関係がしっかりと形成されていることが分かった。これら 3 点の韓国の良い点を日本の保育に取り入れることができると、より良い保育ができるのではないかと考える。

### 引用・参考文献

勅使千鶴編『韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援』新読書社・2007 年

氏名	小幡詩音	学籍番号	J020014	ゼミNo.	5					
テーマ	愛媛県における動物殺処分に関する解決策の提案									
<b>1. 研究の動機と目的</b> 愛媛県では、過去に犬猫の殺処分数がワースト1位を記録したことがある。近年、問題意識を持ち、殺処分数が減ってはいるが、それでも全国平均よりは低い数字を出している。よって、愛媛県の取り組みを調べたり、他県と比較したりすることで、問題点や改善点を見つけ、解決策を提案する事を本研究の目的とする。										
<b>2. 研究方法</b> 研究方法は以下の通りである。										
①インターネットを用いて、日本の動物殺処分の現状や、ペット先進国の取り組みについて調べる。 ②動物殺処分数が少ない県3県と、愛媛県、殺処分数が最も多い県の現状や取り組みを調べて比較し、愛媛県でも取り組める物を見つける。 ③動物愛護センターでボランティアをし、県の取り組みの現状や、ボランティアの内容を知る。 ④愛媛県の殺処分を減らすための解決策を考える。										
<p>令和3年度、愛媛県では260頭の犬と399匹の猫が殺処分という形で命を奪われた。保護数に対して犬39.2%、猫36.0%とどちらも高い数字を出している。その一方で、福井県では、犬0.0%、猫5.9%と、犬に関しては殺処分ゼロを達成し、猫も愛媛県より遥かに少ない。岡山県・広島県も殺処分数・殺処分率共に低い。</p> <p>殺処分が少ない県では、愛護団体の活動が活発で、団体が保健所から引き出し、保護しながらしつけ等を行い、里親に引き渡す。団体の知名度も大きく、クラウドファンディングやふるさと納税を活用して、資金を集めている。また、定期的に支援している人もおり、県内外から支持されている。</p> <p>愛媛県では、保健所や動物愛護センターに犬・猫を保護している。実際に愛護センターを訪れたが、施設自体は少し暗く入りづらかった。愛媛県を拠点として活動している愛護団体は、猫に関しては団体数も多く、団体自体は積極的に活動しているが、資金面や人数面で限界を迎えてることがSNSなどを通じて分かる。犬に関しては、元々の収容数があまり多く無いため、団体数も少ない。しかし、ここ最近で収容数が急に増え、愛護団体や保健所はSOSを出している。</p> <p>解決策として、県民一人一人が、動物愛護の精神を持ち、動物たちと共に存していく中で個々にできることを懸命に行う事が、動物殺処分を減らす最大の方法だと考え、県民の意識改革を提案する。具体的には、ペットを飼う際に保護犬を選択肢に入れること、野良犬・野良猫を保護したり地域猫としたりすること、安易な気持ちでペットを迎えないこと、ボランティアに参加したり物品を提供したりすること、それらを意識する事が大切だと考える。</p>										

氏名	小林真里花	学籍番号	j 020019	ゼミNo.	5
テーマ	人間関係をよりよく築くために				

## 第1章 動機、目的、方法

私は人間関係をよりよく築くための方法について疑問を抱いた。また、来年、社会人になる前に、初対面で打ち解けやすくなる方法について調べ、より良い人間関係を築けるようにする。

1 先行文献や人間関係について記された本をもとに、人間関係をよりよく築くための方法について調べ、まとめる。

2、1で得られた方法を周りの人に実際にを行い、どのような効果があるのかを体験し、考察を行う。

## 第2章 人間関係をよりよく築くための方法

人間関係をよりよく築くためには以下の四つの方法がある。

1.外的コントロール心理学を用いるのではなく、選択理論を知ることがよい。「選択理論」とは、人は自分の行動しかコントロールできないという考え方であり、「自分だけをコントロールすることができる」と信じていることである。

2.嫌なことを言われ落ち込むことがあった時「思考」と「行為」をコントロールし「感情」と「生理反応」を変化させることで、その後の人間関係を悪化させることを防ぐことができる。

3.自分の伝えたいことが正確に伝わらない要因として、一つの刺激から多くの想像や感情が生まれるため、相手を理解することに力を入れることが大切である。

4.アサーションを知ることでより良い人間関係を築くことができる。アサーションとは、自分のことをまず考えるが、他者をも配慮するやり方のことである。

## 第3章 初対面で打ち解けやすくなる方法

初対面でのいい印象の与え方について、参考文献①、②を基にすると次の五つの方法がある。

1 なりきること、2 繰り返し行うこと、3 場を考えること、4 宣言すること、5 「閉じた質問」と「開かれた質問」を使い分けること

## 第4章 「繰り返し行うこと」とアサーションスキルの実践とその効果

「私は」をつけて発言すること、ポジティブに捉えることを一日二回繰り返し行う実験を自分自身で行った。その結果、自分の気持ちをやさしく伝えられるようになり、友達が私の気持ちを理解し受け止めてくれるようになった。また、意識しなくてもプラスにとらえられるようになり、自分に余裕ができるようになった。今回の研究で実践したことを、人間関係をよりよく築いていくために、今後も続けていき、今回行えなかったことも行っていきたいと思う。

[引用・参考文献]『人間関係をしなやかにするたったひとつのルール』著者：渡辺奈都子、発行所：ディスカヴァー・トゥエンティワン、発行年：2012年①『人は0.5秒で選ばれる！』著者：重田みゆき、発行所：ダイヤモンド社、発行年：2008年②『自分の気持ちをきちんと<伝える>技術』著者：平木典子、発行所：PHP研究所、発行年：2007年

氏名	松浦さくら	学籍番号	J020038	ゼミNo.	5
テーマ	<b>愛媛県松山市における働く保護者が 保育園選択で重要視する条件について</b>				
1.研究の動機と目的	<p>4年間の大学生活における実習体験を通して、子どもとの関わり方はもちろん、主体的な保育の意味を沢山学ぶことができた。</p> <p>その実習体験の中で、1つ疑問を感じた。それは、なぜ保護者は現在利用している保育施設に自分の子どもを通わせたいと思ったのかということである。本研究では働く保護者が利用する保育園に絞り、保護者の保育所選択の基準に焦点を当て、「松山市の保護者が保育園選択で重要視する条件」について明らかにする。</p>				
2.研究方法	<p>松山市の保育園入所申込制度について調べる。先行研究から働く保護者が保育園選択において重要視する条件について調べる。公立保育園A・B園と認可外保育園C園を利用する保護者、合計217名を対象に、保育園選択で重要視する条件や、どのような方法で保育園の情報を得たかなどについて、Googleフォームでのアンケート調査を行った。松山市の働く保護者が重要視する条件の違いを比較する。アンケート調査結果について市役所関係者、公立保育園園長先生にインタビューし、保育園を決定する行政の立場からの意見や保育者の立場からの意見を聞く。それらをもとに、働く保護者の実情と保育園選択の課題を明らかにする。</p>				
3.結果	<p>アンケート調査を行った結果、公立保育園A・B園では「自分の家から近いから」「市立(公立)だから」「職場から近いから」「延長・休日保育があるから」という3つの条件を重要視していることが分かった。</p> <p>それに対し、認可外保育園C園では「保育内容に魅力を感じたから」「自分の家から近いから」「職場から近いから」という3つ条件を重要視していることが分かった。</p> <p>保護者が13項目の中から選んだ3つの条件の中で一番重要視したことは、公立保育園A・B園では61.9%(54人)が「自分の家から近い」という条件であった。認可外保育園C園では85.7%の人が「保育内容に魅力を感じたから」と答えた。</p> <p>今回の調査を通じて、先行研究の結果と同じように松山市の公立保育園A・B園を利用する保護者も家や職場に近い場所を中心に保育園選択をしていることが分かった。この選択傾向として、毎日の通勤退勤時の移動の効率化を図っての選択であり保護者視点での保育園選択傾向と言えるだろう。</p> <p>それに比べ、認可外保育園C園では子どもにとってどのような環境で育ってほしいか、保育者がどのように関わるのかがという保育内容を重要視して保育園選択を行っていた。つまり、子ども視点での保育園選択ということである。</p> <p>「保護者視点での保育園選択」に加えて子どもが1日の中で長く過ごす場所として子どものための保育園選択も重要であるともいえるだろう</p>				
参考文献	<p>「長野県長野市における就学前児童の保護者の園利用特性と利用園選択行動に関する研究」(2011, 土木学会論文集D3(土木計画学) 67(5), 67_I_361-67_I_367)  <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jiscejipm/67/5/67_67_I_361/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jiscejipm/67/5/67_67_I_361/_pdf/-char/ja</a></p>				

氏名	渡邊明日香	学籍番号	J020058	ゼミNo.	5
テーマ	岐阜県の外国籍の子どもの抱える課題について				

### 1. 研究動機と目的

保育実習Ⅱで、地元である岐阜県で実習をさせて頂いた際に、外国籍の子どもたちの人数の多さや保護者の方や子どもたちのために通訳の方が居ることなどを知り、岐阜県の外国籍の子どもについて関心を持った。そこで、保育園や小学校にいる、外国籍の子どもの教育環境の現状と課題を明らかにし、それを保育とつなげていくための方法を考える。

### 2. 研究の方法

研究の方法は以下の通りである。

- (1). 岐阜県の外国籍の子どもの人数、性別、年齢、地域別の状況などについて調べる。
- (2). 岐阜県が実施したアンケート調査を元に、「子どもに対する教育の充実」に着目し、岐阜県の外国籍の子どもの教育環境の現状と課題を明らかにする。
- (3). 岐阜県の外国籍の子どもたちと保護者に関する取り組みについて調べる。

以上のことを通して、外国籍の子どもの教育と保育とつなげるための方法を考える。

### 3. 研究の結果

本研究を通して、外国籍の子ども達の多くは、日本語をまともに学ぶ機会が少ない事が分かった。岐阜県の取り組みでは、外国人の子どもや保護者の方が安心して、岐阜県で暮らせるよう、外国のルーツを持つ子ども・保護者のためのライフプランガイドブック各種ガイドブックを発行している。ガイドブックには、ふりがな付き日本語やポルトガル語、タガログ語など様々な言語で書かれているため、日本語が読めない外国人の方にも読めるように配慮されている。

外日本人との言語や人種などの壁が、まだまだあるのが現状だが、こういった取り組みが増えることにより、外国籍の方や外国籍の子どもたちが住みやすい環境が作られるのではないかと考える。

こういった取り組みが全国的に広がることで、外国籍の方が多く住む地域だけでなく、その他の地域にも外国籍の方の現状が、伝わるのではないかと考える。

### 4. 参考文献

- 岐阜県公式ホームページ「第4期 岐阜県外国人材活躍・多文化共生推進基本方

(令和4年度～令和8年度) 全体版 [PDFファイル/2.03MB] P4、11～12

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/292757.pdf>

- 岐阜県ホームページ「岐阜県幼児教育アクションプラン【改訂版】

「ぎふっこ」すこやかプラン～「つなぐ・高める・支える」幼児教育の推進～」

令和4年3月 P5、30～31

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/292537.pdf>

氏名	今村唯菜	学籍番号	J020003	ゼミNo.	6					
テーマ	花から採取した色を用いた絵画の制作									
<b>動機と研究の目的</b>										
<p>「遊び研究」という講義で花をすり鉢ですり潰すという課題を行った際、私が想像していた色よりも鮮やかで濃い色が抽出されるのだと驚くと同時に面白さ、魅力を感じた。第三者の目には色水の色彩からどのような感情が生み出されるのかについて明らかにしたい。</p>										
<b>研究の方法</b>										
<p>地元で採取した花をすり鉢に入れすり潰し、そこから抽出された色で筆を使って紙に描画し、制作を行う。筆だけでなくスポンジも使用し猫の模様や毛並みを表現していく。作品ができたら全作品を見てもらい、どのような感情が得られるのか、また、その感情と色水の関連性について考察する。</p>										
<b>制作過程</b>										
<p>実際に撮った猫や SNS で集めた猫のイメージを画用紙に書き込んだ。花から採取した色水を重ね塗りしたり、スポンジなどで模様や毛並みを表現したりした。また、大竹(2023)の多様な素材表現に倣い、針金でひげを表現した。</p>										
<b>結果</b>										
<p>今回の研究を通して、色水の色から感じられる感情に基づいて第三者は感想を述べていることが明らかとなった。そして、和紙に水を吹きかけた作品と吹きかけていない作品を比較すると、滲み方や色の濃さ、柔らかさ、塗った跡の違いがあることも明らかとなった。制作を進める中で色水は時間が経つにつれ色に変化が見られ、同色でも同じ作品になることはないと気づいた。そして、絵画で使用されにくい「花」を使用して制作をする楽しさ、どのような作品になるかという期待感が生まれたりして、花の色水で描画することに面白さを感じながら制作に取り組むことができた。しかし、今回の研究では、花に限定して色水の制作を行ったため、葉や木の実の色水で制作することや、自然物から得られた色と絵の具を使用した色の比較などを行って保育現場で活かしていくたい。</p>										
<b>引用・参考文献</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出原大(2020)、授業「幼児と環境」における資料</li> <li>・厚生労働省(2018)、「保育所保育指針解説」、フレーベル館、第Ⅰ章、1 保育所保育に関する基本原則、(4)保育の環境 p26、1, 2 行目</li> <li>・松山東雲女子大学 人文科学部心理子ども学科子ども専攻 増本達彦(2023/10/27)、授業「保育・教育実践演習」</li> <li>・松山東雲女子大学 人文科学部心理子ども学科子ども専攻 増本達彦(2022/09/28~01/25)、授業「図画工作Ⅱ」</li> <li>・文部科学省(2018)、「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館、第1章第1節、2 環境を通して行う教育 p 25、14、15 行目</li> <li>・内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、フレーベル館、第1章第3節、3 環境を通して行う教育及び保育 p127、1, 2 行目</li> <li>・大竹伸朗(2023/05/02~07/02)、愛媛県美術館大竹伸朗展</li> </ul>										

氏名	岡田玲奈	学籍番号	J020010	ゼミNo.	6
テーマ	シーグラスライトの癒し効果について				

### 動機と目的

私が今回シーグラスを使ってライトを作ろうと思った訳は、幼少期からシーグラスに关心を持っており、これを集めることが好きだったからである。また、これらのシーグラスを生かして人が癒しを感じたり落ち着けたりするシーグラスライトを作りたいと考えた。シーグラスライトの制作を通して、人はシーグラスの作品から癒しを感じることができるのであつて、その効果について考察していきたい。

### 研究の方法

海岸へ行きシーグラスを集めます。持ち帰ったシーグラスを洗い、乾かす。シーグラスの貼り付け方、制作に必要なもの等を調べ、制作の準備をする。そして実際にシーグラスを用いてライトを制作し、提示して他者に鑑賞してもらう。シーグラスライトを見て癒しを感じるのかについてインタビューを実施して確かめる。

### 制作過程

今治市の海岸へ行き、シーグラスを集めた。その中から汚れているものや角があるもの、ガラス素材ではないもの等を取り除いた。瓶の周りにシーグラスを貼ったもの、シーグラスを積み重ねて貼り付けたものを制作する。作品の中には灯りを仕込む。

### 結果

他者に観てもらい感想を集めると、白いシーグラスで作ったライトは、全体的に光をよく通し温かい感じがした。反対に茶色のシーグラスを使ってライトを作ると、光が当たっていないところでは光を通しにくいため、暗い感じがした等の感想が得られた。人が癒しを感じるためにには色や形が重要であると考えられる。

今回ライトを制作することで、人工物であるシーグラスを使って限られた中で自由に造形し、展開させていくことの楽しさや面白さを感じた。

今後の課題として高さや形を変えたシーグラスライトの制作をしたい。色を分けてライトを作るだけではなく、三色のシーグラスを混ぜて一つの作品を作ったり、形も花の形にしたりして展開させていきたい。

将来現場に出た際にも、自然にある素材を使い、その特徴を活かした自由な発想で造形活動をしてみたい。また、自然にある物だけではなく、人工的に作られた物も用いて子どもが自由な発想で造形活動ができるようにしたい。造形活動をするための環境づくりを行える保育者になりたいと考える。

### 引用・参考文献

- ・樋口一成 (2018)『幼児造形の基礎』樹萌文書林
- ・厚生労働省 (2018)『保育所保育指針』フレーベル館
- ・文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領』フレーベル館
- ・大竹伸朗展 (2023.5/06-7/02) 大竹伸朗展実行委員会 愛媛県美術館

氏名	越智成美	学籍番号	J020012	ゼミNo.	6
----	------	------	---------	-------	---

テーマ	かわいい形についての考察 ～アロマキャンドルの色や形、香りの多様性を通して
-----	--

### 研究の動機

アロマキャンドルは「かわいい」。多様な形、香りを持ち、インテリアとして空間を演出する。ムーミンコミックス展（2023）ではアロマキャンドルとは異なる「かわいさ」があった。架空のかわいらしさキャラクターが描き出され、ストーリーをもった世界を開いていた。そこで、「かわいい形」に着目し、いったいどのような条件がそろえば「かわいい」と認識されるのか、先行研究をもとに考察する。そして人に親しみや癒しを与えることができる「かわいい」アロマキャンドルを制作し、他者を温かい気持ちにさせ、どんな空間でも明るく柔らかくなる状態を提示してみたい。

### 研究の方法

語源や時代によって変わる「かわいい」についての一般的な認識は以下の通り。四方田（2006）は、「赤ちゃんに代表される幼く弱いものに対して使われている。」とする。古賀（2009）は、「かわいいの素」を、丸い形、明るい色、柔らかい感触、あたたかい温度、小ささ、弱々しい（構造）、なめらか（語感）とした。『枕草子』第151段には、「うつくしきもの。瓜に書きたる児（ちご）の顔。…中略… 何も、小さき物は皆うつくし。」とある。このように、古代からおおむね小さいものや幼いもので守ってあげたくなるものや、五感に訴えるか弱さが、かわいいとされてきた。また、ベビースキーマの概念から、入戸野（2013）もかわいさについて論じており、赤ちゃんのような小さくて柔らかく、全体に丸みのある体型で思わず触れたり守ってあげたくなるような形が「かわいい」要素であるとした。したがって、私はそのような形をキャンドルで作りたい。そして、人を温かい気持ちにさせ、癒される状態を提示したい。本研究では私自身がこれまでの経験から好ましいと感じる香りや色などの要素を制作に盛り込み、私なりの「かわいらしくて、癒しを与える作品」を目指していく。完成後は第三者に香りや形、色についてどのように感じたのか意見を求め、私の考える「かわいい」形が他者に対してどのような影響を持つのか、分析する。

### 制作過程

「かわいい形」の原型を粘土で成形し、それを分割型になるように石膏で型取り作業をおこなう。合わせ目やロウを流し込む「湯口」の調整などで学ぶことが多くあった。

### 総括

本稿では「かわいい」というキーワードをもとに考察してきた。一般的な「かわいい」とは、小さくて幼く守ってあげたいものである。そして今回私が目指す「かわいい」とは、四方田や古賀の言を踏まえ、私の経験も反映させた「小さくて柔らかく、か弱く、朗らかな表情をした形」である。第三者からは色によって与える印象が変わり、色が多彩であると見る側が元気になることや、「かわいいもの」の表情の有無も、その場の雰囲気に関係しているという感想があった。多くの場合制作過程や完成後の形や色、香りから五感を刺激され、気分が紛れて癒しを感じ、笑顔やコミュニケーションが増えていた。よって人に親しみや癒しを与え、温かい気持ちにさせ、空間を明るく柔らかくする状態には近づけたのではないだろうか。

今回行った制作は、幼児が身の周りのさまざまな形に興味を持つ時期に示す行動と重ね合わせて考察でき、表現の目的にも適うものだと考察する。

今後は現場に出てからも子どもたちと「見てみたいものを作って楽しむ。作ったものを味わって、子どもたちと豊かな気持ちを育んでいく」ことを続けていきたい。

### 引用・参考文献

- 厚生労働省. 保育所保育指針解説. 株式会社フレーベル館. 2018. 第2章 p. 176
- 文部科学省. 幼稚園教育要領解説. 株式会社フレーベル館. 2018. 第2章 p. 183
- 内閣府. 幼稚園認定こども園教育・保育要領解説. 株式会社フレーベル館. 2018. 第2章 p. 196
- コジコジ公式サイト (2023年10月11日) URL: [コジコジ公式サイト \(cojicoji.site\)](http://cojicoji.site)
- 松山東雲女子大学アロマセラピー講座 (2023年12月21日)
- ムーミンコミックス展 愛媛県美術館 入館案内 (2022年4月2日～)
- 四方田大彦 (2006) 『「かわいい」論』. ちくま新書.
- サンリオ (2023年10月11日) URL: キャラクター | サンリオ ([sanrio.co.jp](http://sanrio.co.jp))
- TOKYODIZNEYRESORT 「Duffy and Friends」 (2023年10月10日) URL: [Duffy and Friends | 東京ディズニーリゾート \(tokyodizneyresort.jp\)](http://tokyodizneyresort.jp)

氏名	新堀鈴奈	学籍番号	J020022	ゼミNo.	6
テーマ	文字の多様性と自分らしさについて				
動機・研究の目的	<p>私は書道の経験より、自分の認識と第三者からみた文字の印象や見え方の違いに疑問を持った。そこで、自分と他者がどのような文字を好み、文字についての評価のばらつきがどういう点から起ころのかを調べたい。そのために、私が好きだと感じる文字をたくさん書き、分析することで、自分の好みを客観的に知り、最終的には「自分らしさ」とは何かを考察していく。また、実習で子どもと関わった際に、文字を書くことの楽しさを知ってもらいたいという気持ちが強くなつた。子どもが文字に興味や関心を持つためには、どうしたらよいのか考え、その具体的な方法も試し、考察したい。</p>				
研究の方法	<p>日常的に眼にする文字、漢和辞典をひもとき、気に入った文字を一日一枚書く。これらを集めコラージュの作品とする。作品を第三者に見せ、どのような文字や形が好きかや、どこを注視して評価を行っているのかなど感想を集める。子どもたちとの遊びを想定し書くことの楽しさを表現する方法としてコンクリートやアスファルト、土に水で文字を書く。</p>				
制作の実際	<p>初めに書いた文字は、「和」である。ニュースでウクライナでの戦争についての報道を視聴し、戦争によって失われた命の尊さや戦争の悲惨さを感じたことで、平和であることを大切や願いを表現しようと考えた。自分の好きな文字を書くために、納得できることで、自分の好みを客観的に知り、最終的には「自分らしさ」としてバランスよく書く。筆のほかに、筆ペン・鉛筆・マジック・ボールペン・色付きペン・小筆が書いた。筆は、幼少期から書き慣れた揮毫の方法であり、力の入れ方や墨の付け方で太い線や細い線など変えることで、文字の存在感を出すことができ、筆特有の力強さや柔らかさを自由に表現することができた。指は、「良」と「悪」を人差し指に墨を付けて書いてみたが、自分が予想していたよりも文字が丸くなり、他の道具には出せない柔らかい印象を与える。紙も半紙のほかにいつも練習用に書いている新聞紙やメモ帳・色紙・和紙・段ボールなど様々なものに書いた。</p>				
	<p>子どもたちとの活動を想定してコンクリートやアスファルト、土に水で文字を書いてみたが、時間が経つと乾燥して消えるなど、その時にしか見ることができないという面白さがあった。また、書いてから少し時間が経つてからの方がきれいな文字がはっきりと見えるなどの発見にもつながり、水を撒くとどのようになるのかなど想像力を養うことができる。</p>				
	<p>このように保育者が投げかける人や物、自然事象などの環境との関わりのきっかけは、子どもの発達に大きく影響し、創造性の発達や表現することの基礎となるイメージを形成する力が培われていることに繋がるということがよくわかる。</p>				
結論	<p>日々積み重ねた揮毫の総枚数は300枚弱を数えた。その文字を見ていくと、ハネが強く、筆使いに勢いがあり、堂々としたメリハリのある「達筆な文字」が自分らしさだと言える。文字を書く前は、気持ちを落ち着かせてから書くように努めた。様々な種類の道具やものを使う中で、筆で表現することが最も自分に合っていると感じた。</p>				
	<p>作品を第三者に提示し、感想をいくつかいただいたが、文字のバランス、筆遣い、力強さ、勢い、線の太さや細さの強弱、はらいの伸びやかさなどに注目している人が多かった。『毛筆は、線が太く、大きく書かれていて、目立っていた。しかし、鉛筆で書いた文字も線がストレートに書かれていて、統一感がある。指で書いた「悪」は、柔らかに書かれていて、柔らかい悪というものが表されている。』というものもあった。指で書くことで、筆跡が柔らかくなりすぎでいてメリハリがない文字になり、「悪」の強さが表現できていないのではないかと感じていた。しかし、読み手は、反対に柔らかく表現したことによって、「悪」特有のとげとげしさが取り去られたと感じたのではないか。</p>				
	<p>このように、新たな気づきになり、改めて第三者に見てもらうことで自分の文字の良さや自分らしさを再確認できた。今後も、引き続き書き続け、新たな自分らしさを見つけ、自分の文字の書き方について追求していきたい。そして、文字を書くことの楽しさや素晴らしさをいろいろな人に伝えていきたい。</p>				
引用・参考文献	<p>厚生労働省（2018年）「保育所保育指針解説」フレーベル館 文部科学省（2018年）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 コトバの意味辞典（<a href="https://word-dictionary.jp/posts/4985">https://word-dictionary.jp/posts/4985</a>）12月23</p>				

氏名	武本鼓	学籍番号	J020025	ゼミNo.	6
テーマ	表現する力				

### 目的

保育所保育指針解説（厚生労働省、2018）によると、「豊かな感性と表現」について「感じたことや考えたことを自分で表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」とある。しかし、折川（2006）は、子ども達の想像力は年々失われつつあると警告している。そこで、筆者はネコの立体作品を制作し、素材の面白さや、サイズ感等について追及する。そして、鑑賞を通して心動かされ、自身でも表現したいと思えるような作品を提示し、表現することが子どもたちにどのような影響を与えていているのかを考察したい。

### 方法

動物たちの観察ならびに、スケッチを行い、イメージを固める。紙粘土を使って、手のひらサイズの生き物を作る。立体の感触を確かめた上で、実際に多様な素材での制作に移る。また、先行研究を調べ、自身の経験と照らし合わせながら表現する力についての考えをまとめる。

### 結論

本研究では、造形表現活動を通してコミュニケーション能力や非認知能力（社会的・情動的スキル）を高めることができ、それらが生きていくことと直結し、その後の将来に良い影響を及ぼすことを考察する機会となった。

自分のイメージを基に様々なものを仲立ちにして制作することにより、想像力と表現力が養われる。幼少期よりこの経験を積み重ねておくことで、非認知能力が順調に獲得され、それにより、興味関心の幅も広がり、生きていく力を身に付けるなどその後の将来に良い影響を期待できる。さらに、発達の最近接領域の考え方からもより効果的に造形活動に取り組むことができる。

今回、筆者の提示する作品から、自分で考えたものを形にする楽しさ、そして想像する力を間接的にでも感じてもらいたい。

作品鑑賞を通して興味関心や創造力を刺激するだけではなく、活動に向かわせるための環境づくりも重要である。それは、興味関心や作りたい、表現したいという気持ちを実際に行動に移すための援助を行うことである。創作意欲を満たし、満足のいくまで表現することができればその子にとってそれは、かけがえのない成功経験となるだろう。

- ・保育所保育指針解説、厚生労働省、2018. p82
- ・折川司.『子どものコミュニケーション不全と想像力の低下.金沢大学語学・文学研究. 2006. 34. pp. 7-17..
- ・西垣吉之、西垣直子、& 橋村晴美. (2018). 環境に関わって生み出される遊びにおける非認知能力の評価に関する研究. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究, 3(2), 79-88.
- ・レフ・ヴィゴツキー（ロシア 1896-1934）の構築した心理学理論

氏名	富山 未夢	学籍番号	J020029	ゼミNo.	6					
テーマ	食育絵本の良さ～食に対して興味を持てる絵本の制作～									
<b>はじめに</b>										
私は実習期間中にお弁当の日があったため、柴田ケイコの『おにぎりぼうやのたびだち』を5歳児クラスの子どもたちに読み聞かせ、「食育絵本」のすばらしさを実感した。この絵本の余韻が話すきっかけとなり、遊びに誘ってくれるなど、自分の好きな絵本を通して、子どもたちと関りを深めることができた。										
本研究では地元である宮崎の良さを取り入れた「食育絵本」を作ることにした。										
<b>研究の方法</b>										
食育絵本をいくつか調べ、子どもたちにどのような影響を与えるのか、話や絵の特徴などをまとめ、食育絵本に大事なことは何か考察する。さらに宮崎の良さを踏まえて、オリジナルの食育絵本を作っていく。										
<b>制作過程</b>										
作品の材料は、土台となるものとして、絵本ノートを2冊用意する。										
① 絵本ノートに下書きをし、終わったら色を加えていく。描いた絵をはさみで切り取り、もう一つの絵本ノートに貼り付けていく。										
② パソコンで入力した文章をプリントして、切り取り、余白に貼っていく。										
③ 表紙の文字は、プリントした文字に画用紙を貼り付け、文字に沿ってカッターで切り取り、画用紙を貼っていく。										
<b>興味をもってもらえる工夫</b>										
子どもたちに「読んでみたい」と興味を持ってもらえるようにフェルトで絵本のキャラクター人形を作り、子どもたちに触って楽しんでもらいたい。										
<b>まとめ</b>										
食育絵本に大切なことは、「擬音語」と「美味しいという言葉」だと考察した。擬音語によって、作っているときの様子や、食材や料理の雰囲気、触感などが伝わってくる。また、登場人物が「美味しい」と言って幸せそうに食べる様子は、味や触感を想像し、食べたいという気持ちを高める。改めて宮崎県について調べることで、地元の良さを再確認しながら、自分が作ってみたいと思っていた食育絵本を作ることができた。										
食育絵本に限らず「絵本」は、想像力を豊かにする。										
子どもの時に読んだ絵本が、新しい世界の発見や驚きに繋がり、その時の遊びや生活を楽しいものにしてくれていた。私の読み聞かせで、子どもたちが少しでも多くの絵本作品に出会い、人生が豊かになるようなきっかけを作ってあげたい。										
<b>引用参考文献</b>										
とよたかずひこ（2009年9月15日）「なっとうさんがね」南心社										
YUMOCAM（2018年9月5日）「ワインナさん」白泉社										
ツペラツペラ（2010年7月）「くだものさん」Gakken										
柴田ケイコ（2019年9月5日）「おやさいしろくま」PHP研究所										
わかやまけん（1972年）「しろくまちゃんのほっとけーき」こぐま社										
山本和子 国松エリカ（2017年11月13日）「おやつなんだろう？」ひさかたチャイルド										
真珠まりこ（2022年11月14日）「おせちのみんなあつまって！」ひさかたチャイルド										
柴田ケイコ（2022年9月8日）「おにぎりぼうやのたびだち」KADOKAWA										
さいとうしのぶ（2013年8月13日）「おべんとうばこのうた」ひさかたチャイルド										
真珠まりこ（2006年1月）「おべんとうバス」ひさかたチャイルド										
小西英子（2012年2月5日）「おべんとう」福音館書店										
小西英子（2016年9月15日）「カレーライス」福音館書店										
高山なおみ 長野陽一（2020年1月9日）「おにぎりをつくる」ブロンズ新社										
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館										
文部科学省（2018）「幼稚園教育要領」フレーベル館										
内閣府（2018）「幼保連携認定こども図教育・保育要領」、フレーベル館										

氏名	西森 遥	学籍番号	J020032	ゼミNo.	6					
テーマ	たぬきと人間の「あるかもしれない」ふしぎな世界									
<b>はじめに</b>										
高校時代、「たぬき」をキャラクター化した。民話や伝説から窺い知る不思議さと、動物としての可愛さをデフォルメしたものである。そんな「たぬき」は、私に少しの自信を分けてくれた。先生から「これは自分をイメージして作ったのか」と尋ねられたが、この言葉を契機に改めて私は「たぬき」と自分自身とを重ね合わせて意識できるようになった。それから私は、たぬきをこの世界に住む1人の友達として愛し、いつか自分の思い描いたたぬきの世界をなんらかの形で表現したいと考えるようになった。										
<b>研究の目的</b>										
昔シルバニアファミリーで遊んでいたことを思い出した。家具が自由に配置して遊べるところやドールが動物などころが気に入っていた。また『大竹伸朗展』(2023)に鑑賞に行きボックス型の住居にも似た立体造形作品に感銘を受け、今回たぬきの世界を表現するためにミニチュアハウスの制作を行うことにした。作品を通じて、日々の生活の中に潜む「あるかもしれない」世界の存在を見た人にも感じてもらい普段の暮らしの中でも空想の世界を探して欲しいと考える。										
<b>研究の方法</b>										
たぬきと人間が共に暮らす山中に立つ木造建築をイメージして制作を行う。その後、出来上がった作品を他者に観てもらい、反応を集め。そして、表現したかった日常の中に潜む「あるかもしれない」不思議さが伝わるか、また「小さいもの」を楽しむ感覚が共有できるかどうかについて考察する。										
<b>たぬきと人間が暮らす木造建築の制作過程</b>										
素材は身の周りのありふれたもので工夫した。建屋はMDF材等を木工用ボンドで接着し成形した。障子はレジン液を枠に流し入れガラスの透明感を表現した。部屋ごとの住人に合わせた小物を制作し各部屋に設置する。ペットボトルと針金、粘土を用いて大木を制作した。人形は紙粘土で制作した。										
<b>作品を他者に見せた時の反応</b>										
・懐かしい雰囲気だが、ロフトやガスコンロなどの近代のシステムがあり、純粹な日本家屋ではない。・女の子と男の子で部屋の雰囲気がちがう。・時間割の紙が貼られていることや箪笥の中の玩具から男の子は小学生である。・女の子の部屋には鏡や色鮮やかな家具があり、女性らしい感じだ。・どちらの部屋にも写真立てがあり、そこからたぬきと男の子、女の子がそれぞれ形は違うが良好な関係性であることが分かる。・たぬきが人間の日常生活の中に当たり前に溶け込んでいる。・・・など多數である。										
・男の子の部屋にあるたぬきの寝床を見て、不思議そうにする鑑賞者の姿が見られた。たぬきの寝床であることを知ると、より寝床を注視するような仕草が見られた。鑑賞者は作品を鑑賞する際、多くの人が作品に顔を近づけたり腰を曲げて視線を作品の高さに合わせたりするなどの行動を取った。鑑賞のときは私が作る空想の世界のなかに浸って見たり、感じ取ろうとしていた。										
<b>考察</b>										
当初は純和風の日本家屋をイメージしていた。たぬきは人の前に姿を現さないイメージがあつたからだ。しかしたぬきは人間の近くに住んでいることもあることを知った。そのため現代を生きる人間の生活の営みを感じられるように近代的な部分を取り入れた。そういう要素を身近に感じる人もいた。私の理想とする家のイメージが、日本家屋や自身が住んでいる昭和時代の家屋であり、それらのイメージが混ざったハウスになったようを感じる。そのため、人によってはこの作品に懐かしさを感じるという意見もあった。細部に着目すれば男の子と女の子の子がそれぞれたぬきに対してどんな感情を抱いているかなど、自分が意図していた通りに鑑賞者も受け取ってくれたようである。しかし意図していない部分にも鑑賞者は意図や意味を見出し、深く考察してくれた。これはミニチュアハウスに潜む不思議を見つけて、理解したいという鑑賞者の気持ちの現れではないだろうか。										
<b>結論</b>										
ミニチュアは多方向的な角度から空想の世界を表現することができる。見る方向を変えることで見え方も異なり、他者が受ける印象を変える。作品自体が小さく立体的であることで、近づいて作品を見ようとする等の作品を理解しようとする行動が見られた。こういった行動は人が「小さいもの」に対して無意識的に興味を持ち、その瞬間は小さい世界に入り込んで、楽しもうとしていることから起る行動ではないかと考察した。										
人は子どものうちは誰に否定されることもなく様々な空想の世界を楽しむ。だが人は心身の成長と共に、現実に“大人”であることを求められるようになる。そうすると空想のものを価値のないものだとする観かたも生まれる。しかし人が心を安定させて健康に生きていくためには、時には空想することや現実にはない物事に気持ちをはせる行為が大きな役割を持っていると私は考える。日々の日常の中で少しの空想に浸ることができたら、きっとその苦しいだけの現実の中でも必ずほつと一息つける瞬間が生まれる。私は今回の制作を通して、現実で懸命に生きる人たちにこそ空想することの素晴らしさを伝えたい。										
<b>引川・参考文献</b>										
『夢劇祭25周年記念 大竹伸朗展 愛蔵版美術館』2023年 5月3日～7月2日 『金剛展「ひのうりん松竹梅作精良本まつりのあと」』玉川美術館 2023年 7月29日～12月3日 厚生労働省 保育園看護師解説 (2018) フレーベル館 四日市めぐみ記録 たぬきまんじゅう <a href="https://tanukimarushop/?mode=5">https://tanukimarushop/?mode=5</a> ※2023/12/18 最終閲覧 シルバニアファミリー公式サイト <a href="https://www.silvaniamarfamilies.com/jp/jp/">https://www.silvaniamarfamilies.com/jp/jp/</a> ※2023/12/18 最終閲覧 【シルバニアファミリー】川島伸朗記念館! <a href="https://marinocuchi.jp/news/original_toy_1128.html">https://marinocuchi.jp/news/original_toy_1128.html</a> ※2023/12/18 最終閲覧 日本製紙株式会社 感謝特集 (2023) <a href="https://www.higashionna.co.jp/%E6%97%A5%E6%8C%AC%E5%AE%BD%E3%B1%8B/">https://www.higashionna.co.jp/%E6%97%A5%E6%8C%AC%E5%AE%BD%E3%B1%8B/</a> ※2023/12/18 最終閲覧 文部科学省 幼稚園看護師解説 (2018) フレーベル館 ムーミンコミックス版 愛蔵版美術館 2022年 4月2日～5月29日 『見立てるでかかるミニチュアの世界——ミニチュア作家・田中直也にインタビュー』(2021) <a href="https://www.vogue.co.jp/lifestyle/article/interview-with-tatsuya-tanaka">https://www.vogue.co.jp/lifestyle/article/interview-with-tatsuya-tanaka</a> ※2023/12/18 最終閲覧 内閣府文部科学省 市井信子解説 幼稚園看護師認定こども教科書・保育要領解説 (2018) フレーベル館										

氏名	藤重七海	学籍番号	J020035	ゼミNo.	6					
テーマ	デザインが育む想像力について									
<b>研究の動機・目的</b>										
国立新美術館のデザイン展を鑑賞した際に「人間が初めて触れるデザインは玩具である」という言葉に惹かれた。子どもが遊びたいと思う魅力があるデザインがどういうものか知りたいと考えるようになつた。そこで私は、デザインという視点で何かを描き表わしたいと思った。絵や写真を見て楽しみながら学ぶことができる、オリジナルの図鑑を制作することに決めた。実際にオリジナルの図鑑を制作し、私なりの見てみたい世界を開くことを通じて、イメージが他者に親しまれていくのかを研究したいと考えた。さらに、子どもが魅力に思う図鑑のデザインはどのようなものなのか考察していくたい。										
<b>研究の方法・制作過程</b>										
オリジナル図鑑を実際に作り他者に共有する。自分がデザインする架空の生き物を見てもらいどのような反応をするのか、確かめる。制作したオリジナル図鑑は、卒業研究展示会に展示し、多くの人に見てもらう。										
大きな画用紙に一枚ずつ架空の生き物を描いていく。アクリル絵の具や色鉛筆、クーピーを使って描いていく。夢物語のような柔らかい印象の絵を描いたり力強い迫力のある絵など様々なタッチで描いたりしていく。そうすることで、多くの私なりの世界観を他者に見せることができると考えた。										
はじめに、何の絵を描くか決めて下書きを描いていく。モデルとなる絵を見つけて参考にしながら描く。細部は描かずにある程度の配置や大きさ、形、動きなどを描く。										
例えば、その生き物が住んでいる世界も描きたいときは、対象物とその風景を描いてどういうところで生きているのか分かりやすく描いた。対象物をメインに描きたい時は、その対象物をとにかく大きく見せて描いた。描き終えたら、絵の具で描き始める。背景を塗っていく。明暗を考えながらどこから光が差しているのかをイメージしながら描く。雲や木、水や草など工夫しながらそう見えるように描いてく。生き物に色を塗るときは、絵の具で様々な色を試して塗っていく。イメージに合うように試行錯誤する。細部は、色鉛筆やクーピーなどを使って描いていく。柔らかい印象にしたいときは色鉛筆を使うといい感じた。一つずつのキャラクターに私の作り出した性格があり、その生き物に愛着が持てるように制作した。そこから、どのような生き物なのか想像してもらいやすいように描き表していった。絵を描き終えたら、冊子にしていく。冊子には、一匹ずつその生き物の特徴を書いていく。最後に表紙を描いて完成。展示するときのために、中身の絵が分かるように一枚ずつ写真を撮って画用紙に貼っていく。そうすることで、どのような生き物がいるのか分かりやすくなる。										
<b>結論</b>										
今回の研究を通して、子ども達に不思議な生き物たちが暮らす世界を面白く楽しく見せたいという目的を設定し、そのビジュアルイメージを子ども達に楽しんでもらえるように描き表し、提供できるような図鑑を作ることが出来た。										
デザインという視点では、私の描き表すビジュアルイメージは実際に存在するのかわからないため、正解の姿ではなく、子どもの思うような姿とは違う姿をしているかもしれない。しかし、私自身の想像した動物を見せることで、それを初めて見る子どもの中には、それがこの生き物の姿だと考える子もいるかもしれない。このような意味で私は、子ども達に想像を広げることが出来るビジュアルイメージを提供できたのではないかと感じた。										
私の見てみたい架空の生き物のビジュアルイメージを想像し制作することで、子どもが触れたいと思う魅力があるデザインの工程がどんなものであるか確かめることができた。子どもの探求心を引き出すべく細部まで描きこまれた絵や、画面いっぱいに対象物が描かれている絵に魅力を感じた。また、じっくり見ることで新しい発見を見つけることが出来るビジュアルイメージを追及していく工程がデザインだと私なりに考察した。										
<b>引用・参考文献</b>										
国立新美術館 DESIGN MUSEUM JAPAN 展 集めてつなごう日本のデザイン 2022/12										
横尾忠則美術館 2023/4 六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！ 2022/12										
河出書房新社 2009/11 発行 こども大図鑑 フェリス, ジュリー【ほか編】/米村でんじろう【日本語版監修】/エス・プロジェクト【日本語版編集】										

氏名	宮中美月	学籍番号	J020045	ゼミNo.	6					
テーマ	世代による「かわいい」の変化 オリジナル着せ替えドール作り									
<b>序論</b> はじめに、研究の動機として、私は、幼少期から「かわいい」と感じるものが好きで、その中でも華やかで憧れるものに惹かれていた。その為、自分が「かわいい」と感じるものを制作したいと思ったのが一番の理由である。										
そもそも、「かわいい」という言葉は、誰しも一度は口にしたことがある言葉であり、歴史的にみると、「かわいい」と感じるものには時代によって変化がある。										
また、「かわいい」には様々な種類があって、時間が経つにつれて変化する性質があるのかもしれない。そこで今回はファッションや雰囲気による「かわいい」に注目し、「かわいい」の年齢や世代による受け止め方の違いを考察すると並行して、実際に子どもも遊べる、オリジナル着せ替え人形をシリコーンゴムで制作する。										
<b>本論</b>										
人形のデザインは、顔の作りや頬の膨らみがあり、柔らかい印象を与えるものが自分なりの「かわいい」人形であるため、理想のイラストを図書室で探し、参考にすることにした。そのイラストを元に自分で人形のデザインをし、粘土で原型を制作した。										
粘土での原型が出来たら石膏で原型を型取りし、鋳型を作った。鋳型にシリコーンゴムを注入し、シリコン人形を完成させる。シリコーンゴムの人形が完成したら実際に着せ替えが出来るように一から採寸、布選び、衣装作りを行う。										
人形の制作を進めながら、世代による「かわいい」の変遷はどうなっているのかを考えるために、着せ替え人形の「かわいい」についての世代による変化を調べた。着せ替え人形遊びでなにが流行していたか世代によって調べ、人形遊びに変化があるのかを見る。それを見ると着せ替え人形には、時代ごとに異なる「憧れ」や「目指したい社会」が反映されていることが分かるのではと考えた。										
<b>結論</b>										
本研究では、ファッションや雰囲気による「かわいい」に着目し、世代によってどのように変化していったのか調べ、自分なりの「かわいい」を追求し、オリジナル着せ替え人形の制作と共に考察していった。研究を通して、世代によって「かわいい」の受け入れは、(憧れ)や(なりたい社会の変化)に関係している事が分かった。実際に着せ替え人形を制作してみて、それぞれの工程での使ったことのない道具を使ったときの新鮮さや、作業がスムーズに進んだ時の面白さを多く経験した。										
今回の経験を活かし、将来、保育の職について新たな事に挑戦する際にも、新鮮さや面白いと感じることを大切にして成長していくようにしたいと感じた。										
<b>引用参考文献</b>										
Lutchmaya, S., & Baron-Cohen, S. (2002). Human sex differences in social and non-social looking preferences at 12 months of age. <i>Infant Behaviour and Development</i> , 25(3), 319-325. ほか										

氏名	山内琴葉	学籍番号	J020050	ゼミNo.	6
テーマ	黒色の魅力について				

#### 動機と目的

私は、黒色には何色にも染まらず、他の色を引き立てる事のできる強さがあり、モノクロ特有の1つ1つの物が立体的に見えたり色ではなくその物を見る事ができたりする魅力もあると感じている。しかし、郭 軼佳(2018)は、『モノクロ写真は「写真を見る時の人間の反応機能」の中で、その独特な外的形式特徴と内的特徴で人間の写真の内容に対する判断を動搖させ、「いま、ここではなく、遙かな以前だ」という心理を感じさせる。また、この指向性は何となく「死」を連想させる。』と述べている。したがって、モノクロからは何となく死のような悪いものを感じてしまう。そこで、黒色の魅力を感じて、少しでも好きになってもらうことができるような制作を行いたいと考えた。のために、人物、食べ物、空、建物などの多様な被写体を撮影しカラーとモノクロとでどのような感じ方の違いがあるのか見比べる。そして、どの被写体が最もモノクロの美しさや魅力を、別の色が好きな人でも感じることができるのか考察したい。そうすることで黒色の魅力を啓発できればいいと考えた。

#### 研究の方法

多様な被写体を撮影し、モノクロとカラーの写真を用意する。その写真を黒く塗った板に比較しやすいように貼る。こうして制作した10枚の異なる被写体の写真を愛媛の大学生30人に見てもらい、私の感じているモノクロとカラーの感じ方と他の学生との感じ方の違いを比較する。また、モノクロに対するイメージの変化について確かめる。

#### 結果

私は、モノクロには古風な印象を与え、とくに建物などは立体感が増し、迫力が伝わると感じていた。アンケート調査からも同じような感じ方をしている人が多く、該当する写真はカラーより票を集めた。反対に、花火や食べ物、夕日、夜景はカラーであることにより五感を刺激され、色があったほうがおいしそうに見え、様々な色が分かり写真自体が華やかに感じられた。これらのことから、昔を感じることができる故郷の街や、季節や食欲、色のグラデーションの影響を受けない建物や道路などがモノクロ写真を魅力的に感じさせる要素となるという予測が立った。

#### 考察

本研究より、同じ写真でも一人ひとりによって見え方や感じ方が様々であると知ることができた。また、黒色の魅力の1つとしてモノクロ写真を取り挙げたことで、実際に愛媛の大学生にモノクロの魅力（黒色の魅力）を少しでも感じてもらうことができたと考える。これらのことから、今回は愛媛の大学生からしか客観的な意見を得ることができなかつたが、幅広い地域・年齢層で黒色の感じ方の違いがあるのかを知りたい。

#### 引用・参考文献

郭軼佳. (2018). モノクロ写真の構造についての考察——形式から内部へ. 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書= Chiba University Graduate School of Humanities and Study of Public Affairs Research Project Reports, (330), 2024年1月9日

<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/104813/S18817165-330-P043-GU0.pdf>

氏名	山本 愛美	学籍番号	J020052	ゼミNo.	6					
テーマ	触覚を刺激する知育パズル制作									
<b>研究の動機と目的</b>										
<p>私は、幼少期からものの見た目から触り心地を予想し、想像と合っているか実際に触って確かめたり、触り心地の良いものを探して集め、身近な大人に共有したりして楽しんでいた。このことから、見た目で感じた触感と実際に触って感じた触感に違いや共通するものがあることを経験的に知っていた。ところでこの触感は人によっても感じ方に違いがあるのだろうか。</p>										
<p>伊藤（2020）は「さわることによって、そのものが持つある性質が引き出される」、「さわり方しだいで引き出される情報が違う」と言述していることから、多種多様な感覚や感性を共有することで自分と他者の違いに気づき、人間関係においても多様性があると知ることに繋がっていくと考えられる。</p>										
<p>以上のこと踏まえ、自分が感じる触感と他者が感じる触感の共通点や違いを観察し、その多様性について明らかにしたい。</p>										
<b>研究の方法</b>										
<p>本研究では、様々な触感の素材を集めてパズルを制作する。完成したら園に協力をお願いし、保育現場での子どもたちの反応を確かめる。一人で黙々と取り組む様子、複数人で協力して感触を楽しみながら取り組む様子が予想される。</p>										
<b>制作過程</b>										
<p>パズルは見た目と触感が一致しやすいものと、見た目と触感が一致しにくいものの二種類を制作する。前者は、手触りを想像しやすいように手触りが連想できる形や素材でピースを作る。後者は素材を加工したり、見た目を工夫したりして見たときと触ったときの印象が違うものとなるようとする。</p>										
<b>まとめと考察</b>										
<p>同じ素材に触れているのに子どもによって触感の表現が全く違ったことから、経験と触覚は結びついており、経験のなかで特に印象に残っている感覚を手掛かりにした触り方をして、ものの性質を表現していると分かった。個々の経験に基づくそれぞれの感性で養われた感覚が共有され、ものの新たな性質の発見や自分と他者の感覚の違いに気づくことに繋がったと言える。</p>										
<p>また、視覚のみで触感を判断することと実際に触ることの違いを教え合う姿から、視覚から判断するという目だけでもに「触れる」とこと、触覚からものを感じる違いに気づく。このことから見た目の判断で印象を決めるのではなく、実際に関わることで対象のことを知る機会になるという気づきを得て、人間関係が発展するきっかけになることを新たに発見できた。</p>										
<p>今回改めて感じた「触る」ということの楽しさと、子どもたちの想像力や遊ぶ力を十分に活かせる環境を用意したいと思う。そして子どもたちが感覚を共有することで、自分と他者の違いに気づくことができるような保育をしていきたい。</p>										
<b>引用・参考文献</b>										
<p>出原大.保育原理 配布資料.2020      伊藤亜紗.『手の倫理』.講談社.2020.p66.68      厚生労働省.『保育所保育指針』.フレーベル館.2018      文部科学省.『幼稚園教育要領』.フレーベル館.2018      内閣府.『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』.フレーベル館.2018</p>										

氏名	西原 由紀子	学籍番号	J020503	ゼミ No.	6					
テーマ	「表現する」ことによる自己実現について									
<b>1. 研究目的</b>										
幼少期から創作活動に親しんできた。それは「趣味の一環」でもあるが、何よりも「自身が表したモノ・コトを他者に伝える」ことが「自身の心情を最も伝えやすい手段」であることが大きな理由である。しかし、創作活動に関しては、単に「楽しいだけ・面白いだけ」であり、深い意味で創作活動に向き合う経験はなかった。しかし、ゼミ活動内で赴いた「大竹伸朗展(2023)」の作品にインスピレーションを受け、「今まで無い、迫力ある作品制作に挑戦したい」という思いを持ち、その過程で様々な工夫・思考を混ぜながら作品制作に取り組み、自分が「表現する」行為や自己実現することについて深く考えていく。										
<b>2. 研究方法</b>										
先行研究（参考文献・展覧会等）で、世の中で発表されている様々な作者の作品を観覧し、表現の特徴、自己の視点から視た意見をまとめ、それを基に考察を行った。また、今回の制作モチーフである「リーフィーシードラゴン」について、生態や体型の仕組みについて詳しく調査した。										
それらを基にイメージを固め、実際に「リーフィーシードラゴン」を立体作品化する。										
<b>3. 制作過程</b>										
「青森ねぶた祭」の「ねぶた」を参考に、針金と和紙を素材とした巨大な「リーフィーシードラゴン」を制作した。まず、針金を用いて骨組みを作り、頭・首・胴体・ヒレに分けてメインパーツの制作を進めた。針金・銅線を作業箇所の丈夫さも考慮しつつ制作し、最終的に全てを繋げ1つに組み立てた。その上から専用の樹脂を用いて和紙を貼り付けていき、骨組みが隠れる程度に仕上げていく。次に丸太の輪切りを使用しメインパーツをつける土台部分を制作、またその周囲に取り付けるサブパーツ（今回は魚の群れとクラゲ）を制作した。丸太は大小違う大きさを組み合わせていきダボと取り付け金具で固定し、強度をつけるようにする。サブパーツについては、魚群は気泡緩衝材で作成した魚に、メラミンスポンジとクリアホルダーを使用し土台に取り付けた。クラゲはコーヒーフィルターを使用し、触手・傘のパーツをそれぞれ作成しヒモでパーツを繋げた。最後に薄めた絵の具でメインに色を塗った。そして完成した全てのパーツを取り付けて作品が完成した。										
<b>4. 結論・考察</b>										
四国内で開催された作品展へ赴き、様々な作者の作品を鑑賞する事ができた。それぞれの感性を知り、「人が違えば、表し方も違う」ことを感じた。また、作品に込められた思いを自分なりにではあるが深く考察し、自身の表現方法についての見識を深める良い機会となった。										
作品制作では、針金中心の作品であり、自身も小学生以来に触れるため、最初は曲げる事にとても苦戦したものの、次第にコツを掴んでいき夏季休暇中にメインパーツの針金を完成する事ができた。また気泡緩衝材・コーヒーフィルター・丸太等普段中々使わないであろう素材も、作品制作に取り入れ、特性や活用方法等を知った。制作時に「こう作りたい・ああいう風にしたい」と頭にイメージが浮かんでいても、それを立体に描き起こすことの困難さと、パーツを完成させた時の達成感とこれから自信を得た。また、今までの作品制作で曖昧だった「作品のどこを見てもらいたい」「一番感じ取ってもらいたい所は何なのか」を明確にし、取り組む中で初期案から色々な方向へとアイデアが広がり、それと同時に周囲の環境から様々な刺激を吸収し作品へ取り入れる等をして、作品完成へとつなげていった。										
研究を通して、「表すこと」は人が生きていく中で欠かせないモノであり、子ども大人関係なく「他者に表すこと」は他人に「自分という存在」を認識させるだけでなく自身のアイデンティティを確立していくものだと考えた。今後保育現場で働くにあたり、子ども達が自己を最大限に表せる事ができるように、アプローチをしていくと共に、自身もまた新たな表現方法について考えていきたい。										
<b>5. 引用・参考文献</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針解説（平成30年3月） - 厚生労働省 フレーベル館</li> <li>・幼稚園教育要領解説（平成30年3月） - 文部科学省 フレーベル館</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 - 内閣府 フレーベル館</li> <li>・大竹伸朗展 - 愛媛県美術館（2023.5.3～7.2）ほか</li> </ul>										

氏名	上本晃子	学籍番号	J020005	ゼミNo.	7
テーマ	ビーチバレー選手のオリンピックまでの道のり				

### 1. 研究目的

本研究の目的は、元オリンピアンの人がなぜオリンピックを目指そうと思ったのか、オリンピックに出場するまでの道のり、オリンピックに出場することの意味について明らかにすることである。ビーチバレーがオリンピックの種目となつたのは 1996 年アトランタ大会で、日本も初出場を果たした。2000 年シドニー大会では、女子チームが 4 位入賞と大活躍を見せ、この時期から日本でもビーチバレーの認知が高まり、2005 年頃からメディアに大きく取り上げられるなど、国内でも一気に認知を高めた。ビーチバレープレイヤーは、インドアバレーからの移行が多い。そのため、ビーチバレーのプロとして世界を目指すということには特別な意味があると考えられる。この点を本研究で明らかにしたい。

### 2. 調査方法

元オリンピアンの 2 名に対して半構造化インタビューを実施した。主な質問項目は「バレーを始めた時期」「インドアからビーチに移行した時期とインドアを続けずにビーチに移行した理由」「オリンピックを目指そうと思ったきっかけ」「実際に代表に選ばれた時の心境」「ビーチを通して得たもの・魅力」であり、場合によって掘り下げて質問した。

### 3. 結果

2 人ともインドアバレーをしている時にビーチバレーの大会に出場したことでのビーチバレーのトップを目指すようになった。また、ビーチバレーにおけるプロ・アマの区別は、周りの判断ではなく自己判断で決めることが多いことが分かった。片方の現役復帰後 2 人はペアを組むことになり、ワールドツアーペアでの練習は、居住地の違いから時間が十分にとれなかつたため、ゲームの中でできなかつたことを確認し、次の試合で修正するという方法で合わせていた。

ビーチを通して得たものはたくさんある。ベンチに監督が座れないため、自分たちで考えてゲームを組み立てたり、行動したりしなければいけなかつた。そのため、自分に自信がついたと語っている。魅力は、背が高い方が有利ではあるが、自然を利用して背が低くても戦えるスポーツであり、2 人しかいないからどちらかが崩れてしまつたら負けてしまう。だから、普段から声掛けや崩れた時こそすぐに切り替えられる技術・メンタルが必要であることが分かつた。

以上のことから、ビーチバレーは難しさと面白さを兼ね揃えた奥深い競技であり、インドアバレーよりも世界が近い競技であると言える。2 人は勝ちたいという気持ちと目標を常に持ち続け、競技を通して人間力を培ってきたからこそ、オリンピックに出場することができた。

氏名	楠橋伶香	学籍番号	J020017	ゼミNo.	7
テーマ	ディズニープリンセスと女の子				

### 1. 研究の動機と目的

筆者は小さいころからディズニーが好きである。ディズニープリンセスの中でラプンツェルが一番好きで、プリンセスになりたいという夢を持っていた。ラプンツェルを好きな理由は、容姿がかわいいところと、好奇心旺盛で、夢のために行動する勇気を持った、芯の強いところである。日本では大学生の間でもプリンセスの人気が高く、その影響力はきわめて大きいとされることから、卒業研究において、女子大学生がディズニープリンセスについてどのように考えているかについて調べようと考えた。

### 2. 調査方法

女子大学生がディズニープリンセス（14作品・15人）についてどのように考えているかを明らかにするため、松山東雲女子大学の子ども専攻の3年生（55名）と4年生（58名）、松山東雲短期大学の保育科の2年生（85名）の計198名を対象に、ディズニープリンセスについてのアンケート調査を行った。アンケート調査期間は、2023年10月27日～11月3日とした。回答数は113で、回収率は57.0%だった。

質問項目は、所属、学年の他「あなたはディズニーの映画（ビデオ・DVDを含む）を見たことはあるか」「どのような作品を見たことがあるか」「あなたはディズニーリゾート（ランドやシー）に行ったことがあるか」「何歳ぐらいのときに、どこ（ランドかシー）に行ったか」「知っているディズニープリンセスはだれか」「ディズニープリンセスのうち、最も好きな人物はだれか」「プリンセスが好きな理由はなにか」「プリンセスが好きなことに関連して行っていることはなにか」について尋ねた。

### 3. 結果

ディズニー映画を見たことがある人やディズニーリゾートへ行ったことがある人が多かったことから、現代の女子大生は小さい頃からディズニーに親しみがあることがわかった。

ディズニープリンセスの知名度は、白雪姫を除いて、テレビで放映していた作品の登場人物（シンデレラ、ラプンツェル、アナ、エルサ、アリエル、ベル）が高かった。最も好きなプリンセスではラプンツェルが40%と多かった。その理由として、映画公開が2010年で、今回の回答者のほとんどが2001～2003年生まれで7～9歳であったため、映画の内容も理解して見ていたことが考えられる。プリンセスが好きな理由として「かわいい」が多かったが、プリンセスの容姿がかわいいと思われるよう作られているからであろう。

氏名	洲尾爽海	学籍番号	j020023	ゼミNo.	7
テーマ	伝承遊びの現状と必要性について				

### 1.研究の動機

筆者が幼少期の頃、最も遊んでいた遊びは鬼ごっこである。公園に行き、みんなでじゃんけんをして鬼を決め、笑いながら楽しく公園を走りまわっていた記憶がある。また、実習に行ったときに子どもたちが楽しそうに鬼ごっこをしている姿をよく目にした。このように、鬼ごっこのような遊びを身近な存在として感じ、実際にしている。卒業論文の執筆にあたって、こうした遊びを「伝承遊び」と呼ぶことを知った。そこで本研究では保育現場への就職を目指すことが多い保育を学ぶ学生にアンケート調査を行うことによって、伝承遊びの現状と必要性を明らかにし、その魅力について考察した。

### 2.研究方法

先行研究の検討からは、現在でも伝承遊びは幼稚園や保育所で行われており、伝承遊びは大事であると考えられるが、若い保育者は知らない/経験していない遊びも増え、よく行われる伝承遊びの種類が変わってきてることが分かった。このため、伝承遊びの現状や必要性を明らかにするために、保育現場への就職を目指すが多い保育学生である子ども専攻の3年生(55名)と4年生(58名)、保育科の2年生(85名)の計198名を対象にアンケート調査を行った。主な質問項目は、「どのような伝承遊びをしたことがあるか」「伝承遊びを誰に教えてもらったか」「実習に行った園では、伝承遊びを行っていたか」「伝承遊びは子どもの発達について必要か」「伝承遊びを子どもに伝えていくためには、どのようにすればいいか」について尋ねた。

### 3.結果

保育学生は、これまでに多くの伝承遊びを経験していた。今の保育学生が子どもだった頃から20年経った今でもその多くが「伝承」されていると考えられる。

伝承遊びの担い手としては、保育者が大きな役割を占めていた。また、伝承遊びが子どもの発達において重要だと考えられており、伝えていくために、地域や異年齢での交流を交えながら、子どもたちと一緒に・実際にを行うことで、遊びを伝えたり教えたりできるように保育活動に意図的に取り入れていくという、保育者としてできることが挙げられていたのが特徴的だった。

所属や志望職ごとに伝承遊びの経験が異なるのではないかと予想してクロス集計を行った。4年間かけて保育職を目指す子ども専攻や保育者への憧れが強い保育職志望の学生のほうが、伝承遊びにおいても保育者からの影響が大きいと予想したが、前者については予想通りの結果になったものの、後者については差が見られなかった。したことのある伝承遊びについては、所属での違いは見られず、志望職別では保育職志望のほうがやや多かった。

氏名	正岡 紫穂	学籍番号	J020037	ゼミNo.	7
テーマ	女子大学生の「推し活」の現状				
<b>1. 目的</b>					
<p>本研究の目的は、女子大学生の「推し活」の現状を明らかにすることである。2021年に新語流行語大賞にノミネートされた「推し活」とは、アイドルや漫画・アニメキャラクターなどの自分が一番のお気に入りである「推し」を、応援し、周囲に広める活動（消費を含む）を指す。また「推し」とは、自分が情熱を注いで応援するほど好きな人物、ものなどを意味することばである。女子大生の「推し活」を調査した笹田・大淵（2022）によると、コロナ禍でライブが中止になつた分ライブ DVD にお金を掛けられるようになつたり、過去のライブが無料公開されるようになつたり、インスタライブが生配信されアーカイブに残されるようになつた。また現地に行くことが無くなつたために、お金を掛けるグッズの種類が変わつたことが明らかにされている。このように、住んでいる地域によらず、推し活が行われている点を踏まえて、アンケート調査を行つた。</p>					
<b>2. 研究方法</b>					
<p>女子大学生の推し活の状況を明らかにするために、松山東雲女子大学の子ども専攻 1 年生（29 名）と子ども専攻 4 年生（48 名）計 77 名を対象に調査を行つた。質問項目としては、学年を聞いた後に、まず「推しがいるか・いないか」を尋ねた。推しがいないと回答した人には「推し活をしてみたいかどうか」、推しがいると回答した人には「推しの名前」「推しのいる年数はどのぐらいか」「1 週間にどのぐらい推し活をするか」「どのような推し活を行つていてか」「1 年間にどのぐらいの金額を使つていてか」について尋ねた。</p>					
<b>3. 考察</b>					
<p>アンケート調査の結果から、アンケート対象者の 4 分の 3 以上の学生が何らかの「推し」があり、4 分の 1 の「推しがいない」と回答した人でもその 4 割は「推し活」に興味を示していることが明らかになつた。推しの対象の多様さも調査から明らかになり、これを踏まえると、その推しにいつ出会つたかによって推し歴が異なるのではないかと考えられる。推し活の金額・時間からは無理のない程度で推し活を楽しんでいる学生がほとんどだと思われる。全体を通して、今回の調査は愛媛県松山市という都市度中位で行われたが、「推し活」はすでに若者（女子大生）に浸透していることが明らかになつた。先行研究と比較して「推し活文化」はオタク文化とは異なる現象であることを示しているのではないかと考察した。</p>					

氏名	渡部紗千	学籍番号	J020059	ゼミNo.	7					
テーマ	幼稚園と保育所の集団活動における違いについて									
<u>1. 研究の動機</u>										
<p>私は、将来、幼稚園と保育所どちらで働きたいか迷っていた時期があった。一般的には幼稚園は「教育」、保育所は「保育」とされているが、私自身も大学時代に多くの実習を経験する中でその違いに少しずつ気付くことができるようになってきた。その中で、特に集団活動における雰囲気や保育者の声掛けに違いがあるように感じた。</p>										
<p>集団活動に関する記述を『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』で比較したところ、幼稚園については第2章「人間関係」の内容の取扱いの(2)及び(4)に、保育所(3歳以上児)については第2章「人間関係」の内容の取扱いの②、⑤に書かれていた。幼稚園教育要領の(2)と保育所保育指針の②の記述は同様だったが、(4)と⑤には違いがあった。その違いとして、幼稚園では「道徳性」というキーワード、保育所では「規範意識」というキーワードがあると考えられた。そこで、本研究ではこれらを踏まえ、現場の視点に基づき集団活動の違いを明らかにすることとした。</p>										
<u>2. 研究方法</u>										
<p>近隣の幼稚園と保育所それぞれ1園ずつ、3~5歳児のクラスで集団活動に関する観察調査を計5日間行った。また、その担任保育者(6名)に集団活動に関するインタビューを行った。これらを踏まえ、観察、インタビューを行った幼稚園、保育所でのそれぞれの園の違いや保育者の考え方の違いをまとめた。</p>										
<u>3. 結果</u>										
<p>観察調査の結果、子どもたちの動き方に関する保育者の声掛けでは、大規模、中規模といった園の規模やそれに伴ったクラス単位での子どもの人数に応じた方法が取り入れられていることがわかった。また、園全体の方針、特色や決まりなどの面においても、幼稚園と保育所の集団活動の内容に違いがあった。インタビュー調査の結果から、これらの違いの背景には、各クラスの保育者による違いや子どもの年齢に応じた考え方があると考えられる。つまり、幼稚園と保育所では園の規模・方針等による集団活動があり、その中の保育者の関わり方や声の掛け方の違いの背景には、保育者自身が持つ保育観と子どもたちの年齢の影響が見られた。</p>										
<p>現場での調査を行ったことにより、色々な先生からの考えを聞くことができ、子どもたちの年齢に応じた関わり方や子どもたちの姿を知ることができた。今回、明らかになった各年齢に応じた子どもに対する関わり方や様々な場面における保育者の声掛けの仕方を自分が保育者となつた際に活かし、実践していきたいと考える。また、保育者によって異なる点や似ている点があるからこそ、保育の展開の仕方は多種多様であり、子どもたちも色々な先生の元で成長することができると感じた。</p>										

氏名	荒谷鈴華	学籍番号	P020001	ゼミNo.	8
テーマ	すべての音が音楽に繋がっていく				
<p>音楽という大きな括りのなかでも様々な音楽の種類がある。「一般的にメロディー、リズム、ハーモニーを持つものが音楽とされているが、現代の音楽の分野では、電子機器を使ったノイズミュージックや、音をあえて出さない音楽も含めその領野は拡大している。音楽は楽譜のある音を並べるだけではなく身近な「音」でさえも音楽にしている。そこで、音楽というのは、楽譜に並べられた綺麗な音を出すだけのものなのか、又音楽の定義とは何かの考察を通じ音楽とは何かに迫った。</p> <p>第一章では現代音楽のなかでも特殊な、4分33秒の音楽とは、ノイズミュージックについて調べた。4分33秒の音楽ではあえて楽器を構えるだけで一切音を出さない無音の音楽である。この「楽曲」を構成している音には、普段の生活のなかでは耳を傾けることはない体内的な音さえも含まれる。</p> <p>4分33秒の対となって出てきた音楽としてノイズミュージックがある。ノイズミュージックという括りの中でも、インダストリアルミュージックといった種類もあり、その中でノイズミュージックがいかにノイズという音楽とはかけ離れたものを音として楽曲にしてくのかを研究した。</p> <p>第二章では、音楽がもたらす効能について調べた。まず、「音楽」という概念のないアフリカのマファ族の人々の研究に着目した。マファ族の人々に西洋音楽を聴いてもらいどのような感情が表されるのかという研究である。研究結果では、音楽を聴く場所や環境等で多少の違いは出るもの、西洋音楽を聴くことでマファ族と西洋の人々が表された感情の種類が同じであることが分かった。このことから音楽という認識の有無に関わらず、「人類には共通する音楽の感覚がある」のではないかと考察した。</p> <p>最後にサウンドスケープという風景の音楽について調べた。サウンドスケープというものは、日常にある音が風景となり音楽に繋がっていくという「音風景」という新しいジャンルだ。</p> <p>本研究を通して、音と音楽の繋がりについて研究をしてきた。音楽というものは楽譜の音を並べて演奏するものや旋律のある音だけが音楽になるのではなく、無音の中で聞こえてくる音も、普段は耳を塞いでしまいたくなるような騒音も全ての音が音楽に繋がっていく可能性を秘めているものだと分かった。これから自分自身も身の周りにある音楽に耳を傾けて生活していきたい。</p>					

氏名	和泉花蓮	学籍番号	P020003	ゼミNo.	8					
テーマ	不妊とストレスについて									
<p>近年、女性の社会進出やライフスタイルの多様化を背景に、晩婚化が進行している。2022年の人口動態統計での平均初婚年齢は、男性が31.1歳、女性が29.7歳となっており、20年前と比べて男性で2.0歳、女性で2.3歳上昇している。また、同年の調査において女性の第一子出産時の平均年齢は30.9歳であり、統計が取られ始めた1975年から一貫して上がり続けている。一般に女性は年齢とともに妊娠するための力である妊娠性が低下するとされており、晩婚化は少子化の原因の一つとなっている。本研究では、不妊について原因や治療方法を整理した上で、ストレスとの関係から起こる問題にどのように向き合うことができるかを考察した。</p>										
<p>第1章では、不妊の定義から始まり、不妊の原因や不妊治療の方法について紹介している。原因は女性側にある場合、男性側にある場合、あるいはその両方にある場合があるが、検査をしても原因が分からぬ場合もある。女性側の主な不妊の原因には排卵因子、卵管因子、頸管因子、免疫因子、子宮因子などがある。男性側の原因には造精機能障害、精路通過障害、精機能障害などがある。原因に応じて治療や手術を行い、原因が分からぬ場合は排卵と受精を補助する治療を行う。</p>										
<p>第2章では、ストレスと不妊の関係について調べ、ストレスは不妊の原因となると考えられるようになってきていることが分かった。そこでストレスについて調べ、3種類のストレスコーピングを紹介している。</p>										
<p>第3章では、不妊の「発症」を軽減するものとしてストレスマネジメントに注目し、効果的なストレスとの付き合い方について考察している。ストレスマネジメントは大きくセルフモニタリングとストレスコーピングの2段階に分けて行われる。ストレスを感じていることに気づくためにセルフモニタリングの力をはぐくみ、感じているストレスの程度によって適切なストレスコーピングを選び実践していくことで、ストレスとうまく付き合っていくことができる。どちらも意識的に行なうことが効果的である。</p>										
<p>ストレスは付き合い方を間違えると心や体に悪影響となってしまい、これは不妊にも影響すると考えられている。不妊は誰にでも起こる可能性があるにもかかわらず、原因が分からぬ場合もあれば、原因が分かり治療できても望ましい結果が得られない場合もある。だからこそ、簡単に挑戦できるストレスマネジメントで不妊の「発症」を少しでも軽減できるとしたら、実践してみても損はないのではないかと考える。</p>										

氏名	門屋 早紀	学籍番号	P020008	ゼミNo.	8					
テーマ	SNS が自己肯定感に与える影響									
<b>1. 研究の目的</b>										
<p>近年、日本では「自己肯定感」というキーワードをさまざまな媒体で目にするようになり、今やちょっとしたブームになりつつある。自己肯定感とは、その言葉の通り「ありのままの自分を肯定する感覚」のことだ。自分と他者とを比較することなく、自分自身が「今の自分」を認め、尊重することで生まれる感覚のことであり、物事をポジティブに進めるための原動力となる。自らの在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味している。</p>										
<p>とはいって、日本の若者は諸外国に比べ、自己を肯定的に捉えている人の割合が低く、自分に誇りを持っている人が少ないということが内閣府の国際調査により分かっている。そんな若者たちに普及し続けている SNS が、どんな好影響あるいは悪影響を及ぼしているのか、自己肯定感の高い人、低い人ではどうか、その影響の傾向は一つにとどまるのか、これらの疑問をもとに研究を行った。</p>										
<b>2. 方法</b>										
<p>実生活のキラキラと充実した瞬間を投稿するユーザーが多いインスタグラムでは、他ユーザーの投稿を見ては無意識のうちに自らの実生活と比べて気分が落ち込んでしまう人が存在する。そうした人は自己肯定感が高い人なのか、低い人なのか。それぞれどんな性質を持った人なのか。ここでは、日本の若者の利用者が多い SNS の中でも、写真や動画を投稿し、他のユーザーと共有したり、他のユーザーの投稿を見たり、コメントを残したり、誰でも気軽に発信することができるインスタグラムに焦点を絞って、自己肯定感の高い人、低い人がそれぞれどのような影響を受けているのか検討した。また、インスタグラムで自らを発信する投稿を行った場合と、他ユーザーの投稿を閲覧した場合に、自己肯定感はどのように揺さぶられるのか明らかにした。</p>										
<b>3. 結論</b>										
<p>SNS を利用することで自己肯定感にネガティブな影響を受けやすい人は、利用する際に元々自己肯定感が低い状態であることと考えられる。一方で、自己肯定感が高い人は物事に対して肯定的で、自分の価値を自分で見出せるため、たとえ他人から批判的ことを言われたり、他者と比較されたりすることがあってもあまり気にしないでいるようだ。便利で楽しいはずの SNS で、疲れて心をすり減らしていくのは残念だ。気が付けば SNS が生活の中心になっている人も少なくない現代で、SNS にとらわれすぎず、上手に付き合うことができれば、毎日の生活も便利に楽しく過ごすことができる。一人一人が SNS を心地よいと思う距離感や関わり方を見つけていくことができれば、心の健康を保って SNS を利用していくことができるだろう。</p>										

氏名	松浦日向子	学籍番号	P020026	ゼミNo.	8					
テーマ	メタバースにおける様々な性の在り方について									
【背景】メタバース内と現実世界で大きく異なると感じている点がある。それは、恋愛関係である。このことに気が付いたのは、2年ほど前から私自身もメタバースを利用しており、さまざまな人間関係を築いてきた。そうしている中でメタバース内では、さまざまな種類の恋愛関係が発展している場面をよく見かける事があったからである。本研究では、メタバース内での恋愛関係は現実世界とは異なる形で発展しているのではないかという仮説を明らかにするため、メタバース内で聞き取り調査、インタビュー調査、SNS上でのアンケート調査を行った。										
【結果】メタバース内での恋愛関係がどのように築かれているのかという現状を調査するために、実際にメタバース内での聞き取り調査と実際にメタバース内での恋愛関係を体験したことがある人にインタビュー調査、SNS上でのアンケート調査を行った。その結果現実世界では異性愛者という新たなセクシュアリティが存在することがわかった。										
【結論】今回の調査ではメタバース内ではバイセクシュアルであり、現実世界では異性愛者という新たなセクシュアリティが存在するということを考察した。もし、今後メタバースが普及し身近なものとなつたとき、メタバース内ではバイセクシュアルであり、現実世界では異性愛者という新たなセクシュアリティの人口が増える可能性があるタバース内で新しいセクシュアリティが生まれているということを多くの人々が知っていく必要があるのではないかと考える。										
【参考文献】・mogulive ソーシャル VR アプリ「VRChat」基本的な始め方や必要な機器、おすすめワールドを紹介 <a href="https://www.moguravr.com/vrchat-16/">https://www.moguravr.com/vrchat-16/</a> (2023.05.31)										
・ OPEN HUB メタバースとは？ビジネスへの活用事例と導入のメリット・課題 <a href="https://openhub.ntt.com/journal/5564.html">https://openhub.ntt.com/journal/5564.html</a>										
・マイナビニュース遠距離恋愛で”浮気発覚”！それでも「元の関係に戻った」女性の割合は? <a href="https://news.mynavi.jp/article/20230413-2650595/">https://news.mynavi.jp/article/20230413-2650595/</a> (2023/04/13)										
・ spaceship earth バイセクシャルとは？特徴や当事者の辛さ、割合・公表している芸能人を簡単に解説 <a href="https://spaceshipearth.jp/bisexual/">https://spaceshipearth.jp/bisexual/</a> (2023/10/24)										
・加藤優貴, 長町和弥, 杉本麻樹, 稲見昌彦, 北崎充晃の VRChat における疑似身体接触が好感度とコミュニケーション難易度に及ぼす効果に関する調査研究(2021年 26巻 1号 p. 22-31) a										

氏名	松田 夏鈴	学籍番号	P020027	ゼミNo.	8
テーマ	グレーゾーンと呼ばれる子ども達に求められる支援とは				

### 1. 研究の動機

三年次の社会福祉士の現場実習で児童相談所に行った際に、発達障害を持つ子どもの多さを目の当たりにしたことだ。その中でも一時保護され心理発達検査を受けた子どものほとんどが、グレーゾーンと位置付けられるケースが見られた。こうした子どもたちは通常学級の子どもたちとトラブルを抱え、保護者から育てにくさについて多く相談を寄せられていることを学ぶうちに問題の深刻さを痛感していった。さらに、この実習の後、学童でアルバイトをした時に、そこでもやはり、グレーゾーンと思われる子ども達が定型発達の子ども達とうまく人間関係を築けていないと感じることが多々あったことから本研究のテーマにグレーゾーンと呼ばれる子ども達に求められる支援を選んだ。

### 2. 研究方法

第一章では、まず発達障害の定義について述べた。その定義は、大きく3つに分かれている。自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害がそれであり、いずれも脳機能の発達に関する障害である。第二章の2-1では、グレーゾーンの定義について述べた。全国展開している精神科クリニックのブレインクリニックによれば、グレーゾーンとは発達障害の特性は見られるが、診断の基準には満たない状態のことを指す。したがってグレーゾーン自体には特有の症状や特徴がなく、自閉症スペクトラム障害や学習障害、注意欠陥多動性障害の症状や特徴の一部が見られるにすぎない。ただ、きわめて発達障害に近いためグレーゾーンと呼ばれている。第二章の2-2では、自分自身の実習での経験からグレーゾーンの子ども達に求められる支援についてまとめた。子どもの特性に関する理解とともに学校に相談できる環境が整っていること、中学校に上がる前にできるだけ早い段階で福祉とつなげること、同じ学校・教室で過ごすための雰囲気づくりの三点を挙げた。さらに、第三章では実習の経験や活用できる社会資源をまとめた。

### 3. 結論

これまでの卒業論文作成にあたって、発達障害の診断に至らないグレーゾーンだからといって課題がないわけではなく、抱えている困難さは決して小さくないと学んだ。診断未満の症状でも、いくつか重なると、生活の支障や生きづらさにつながり、一部だけでも基準を満たさない場合であってもそれが深刻な問題となっていることもある。論文の中で述べたグレーゾーンに求められる支援もそうだが、診断名以上に、それぞれの特性に応じた手立てをすることが重要だと感じた。

氏名	宮本 珠莉	学籍番号	P020032	ゼミNo.	8
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	音楽療法の可能性
-----	----------

### 1.研究の動機

本学で福祉について学ぶ中で、音楽の持つ力を活用して行う音楽療法について知り、福祉における音楽の可能性に関心を抱くようになった。また、実習で障害者支援施設を訪れた際に、音楽が利用者の生活において楽しみの一環として機能していることを観察し、そのポジティブな影響に着目した。しかし、明確な目的をもって実際に音楽療法が行われている場面を目にしたことはないため、音楽療法の実際の効果に疑問を持った。本研究では、年代や症状による違いに焦点を当てて考察し、今後の音楽療法の活用方法について提案する。方法としては、音楽療法に関する文献研究を行い、児童と高齢者を対象とした音楽療法の目的と効果を明らかにした。

### 2.結果

児童を対象とした音楽療法では、感情や社会的スキルの発達を促進することに焦点が絞られることが多く、目的としても感情表現やコミュニケーションスキルの向上、自己表現といったことが挙げられることが多い。対して、高齢者を対象とした音楽療法では、記憶の喪失や身体的機能の低下に対処することが求められており、情緒反応に呼びかけることで低下している感覚を呼び覚ます効果が期待されている。目的としては、生理的、心理的、社会的機能の維持や改善を目指すことで、最終的にはQOLの向上が目標される。このように、児童の音楽療法と高齢者の音楽療法には正反対の側面が非常に多い。だからこそ多様な世代や症状に広くアプローチでき、音楽療法は固定した役割を超えて、広く異なる層を対象としていると言える。異なる層に対応するためには個々のニーズや特性を理解し、それに基づいたアプローチが重要となる。

### 3.考察

音楽療法には確固としたカテゴライズがなく、定義についても人それぞれである。しかし、音楽を用いるという点では共通しており、この一点に関して言えば、本稿で取り上げた児童や高齢者の留まらず、すべての人にも提供できるものであると考える。ストレスが問題視されている今、より多くの人に音楽療法を届ける必要があるのではないかだろうか。より多くの人に提供するために認知度を上げるだけではなく、手軽に実施できる手段が必要なのではないかと考え、動画サイトを活用した音楽療法を提案した。場所や時間の制約を超えて利用できるようになることで広く普及するきっかけになる。音楽療法の普及と認知度向上がより多くの人々に健康や心の安定をもたらす一環となることを期待する。

氏名	山中美空	学籍番号	P020038	ゼミNo.	8					
テーマ	インターネットショッピングの現状と課題									
<u>1.研究の動機</u>										
スマートフォンが普及されたことにより、EC (ElectronicCommerce) の利用頻度が増え、実店舗の力が弱まつていった。その中で、新型コロナウィルス感染症の拡大により、さらに EC の利用が増えていったこの時代に、デパートや大型ショッピングモール、商店街など、これまで人々の買い物を中心としてきた実店舗は、地域から徐々に廃業または撤退されている傾向にある。実店舗に足を運ぶことなく 24 時間買い物を可能とするインターネットショッピングの現状と課題について研究した。										
<u>2.研究方法</u>										
他の世代と比べ、趣味や余暇の時間を確保しやすいうえに、アルバイトなどで収入を得るようになるデジタルネイティブの大学生こそ、インターネットショッピングの利用頻度が高い年代と想定して、今回松山東雲女子大学の学生に絞りアンケート調査を行った。										
<u>3.結果・考察</u>										
アンケート結果を分析して浮かび上がった課題は次の 3 点である。すなわち①支払い方法、②信頼性、それに加えて③物流業界の 2024 問題だ。支払い方法について言うと「クレジットカードを持っていないから」インターネットショッピングを利用しない学生がいる一方、利用する学生からも「支払い方法の選択肢が少ない」という不満が上がっていた。以上のことから、電子決済やデビットカードなど多様な支払い方法を導入することで、これまで利用者の利便性を高まり、利用していない学生にも門戸を開いていけるのではないかと考えた。次に信頼性である。調査結果には「画像と実物との差がある」、「素材が分かりにくい」というような不都合が挙げられていた。また、クレジットカードを利用することで、クレジットカード情報や届け先の住所、名前など個人情報も入力しなければならない不安が上がっている。今やほとんどの消費者が口コミを参考にするというのだから、口コミの推進、実際に着用している写真の掲載、質の高い画質での写真掲載などを拡大して行けば、消費者が安心して購入できるのではないかと考える。最後に物流業界の 2024 問題である。多様化するライフスタイルとともに EC が急速に拡大し、宅配便の取扱い個数が増加している一方、宅配便の再配達やドライバー不足も深刻化して行くなど、重大な社会問題となっている。消費者である私たちができることとして「時間指定の活用」や「各事業者が提供しているコミュニケーション・ツール等（メールや・アプリ等）の活用」「コンビニ受取や宅配ロッカー、置き配などの多様な受け取り方法の活用」を行うことで少しでも問題解決になるのではないかと考える。										

氏名	吉田葵	学籍番号	P020040	ゼミNo.	8					
テーマ	現代社会における依存症について ～アルコール依存症に焦点を絞って～									
<b><u>1.研究の動機</u></b>										
私が「アルコール依存症」をテーマとしたきっかけは、本学での1年次の学びの基礎Ⅰでみた動画である。そこでは、障害となり失職した男性がアルコール依存症となる姿が描かれていた。さらに、彼を支える福祉職の女性の真摯さも描かれていた。そうした姿の強烈な印象は忘れがたく、卒業研究のテーマとして深く考えていきたいと思ったため、本テーマについて研究を行うこととした。										
<b><u>2.研究の方法</u></b>										
本研究の方法として、インターネット等の情報をもとにアルコール依存症についての情報収集を行い、アルコール依存症者の現状や課題について考察し、理解する。そして、今の私に何ができるのかを研究した。										
<b><u>3.研究結果</u></b>										
研究を通して、ここ数年アルコール依存症者に対する知識や理解が高まっているものの、まだ助けを求めている人が数えきれないほどいるということが分かった。まず第1章では、依存症について調べ、依存症「心の問題」だけでなく身体的疾患だということを述べた。依存症は「孤独の病気」とも言われることからも察せられるように、孤独感やプレッシャー、自分自身への焦りや不安などからアルコールや薬物、ギャンブルなどに依存してしまうということが分かった。第2章では、本稿の中心テーマであるアルコール依存症について調べ、成人期のアルコールや薬物の問題使用には、小時期の逆境体験が影響しているということが分かった。また、アルコール依存症の症状と発症リスクを高める危険因子についても考察を深め、アルコール依存症は複数の要因が絡み合って発症に至るため、原因は明確に述べられていないが、発症リスクを高める危険因子として医学的に認められているものは4つあるということが明らかになった。第3章では、アルコール依存症の誕生について調べ、様々なデータを基にさらにアルコール依存症について理解を深めた。また、アルコール依存症は「共依存」なのではないかという新たな考え方もでた。第4章では、アルコール依存症の早期発見・早期介入・回復支援に結びつけることができるのかを考え、自助グループに焦点を当てて考察を深めた。最後に第5章では、アルコール依存症は本人だけでは気付くことが難しいため、周囲が異常に気付き行動を起こすことが重要であるということ、そのために私ができることは、本人ではなくその「周り」への普及活動であるということを述べ、もしこれが成功すれば、他の依存症の取り組みにも活用できるかもしれないと考えた。										

氏名	福嶋美空	学籍番号	P020024	ゼミNo.	9
テーマ	日本人が韓国文化を好む理由				

### 1. 目的

日本人の特に若い世代を中心に韓国や韓国文化が好まれる傾向にある。日本人が韓国に対してどのような印象を持っているのか、文化について持っている印象を明らかにしていく。

### 2. 研究方法

本研究では、インターネット上で公開されているアンケート調査をもとに結果分析を行った。

また、本研究で使用したアンケート調査は、内閣府が毎年行っている「外交に関する世論調査」と、Fancrew が 2022 年に行った「韓国料理についての意識調査」である。

### 3. 結論

1 章では、内閣府が毎年行っている外交に関する調査で「韓国について親しみを感じるか」というアンケート調査の分析をした結果、20 代や 30 代など若い世代は韓国ドラマブームなどの影響から韓国に対して親しみを感じている人が多いことが分かった。しかし、60 代や 70 代、それ以降の年代は若い世代と比べると韓国に対して親しみを感じる人が少ないことが分かった。これは、政治的な問題や歴史的問題が主な原因ではないかと推察される。

また、2 章ではファンくるが行った「韓国料理についての意識調査」のアンケート調査の結果分析を行ったところ、韓国料理については若い世代から上の世代まで好まれており、アンケート調査の結果「おいしいから」や「辛いものが好きだから」などの回答が上位に挙がっていた。特に、ビビンバやサムギョプサルが人気の韓国料理として挙げられていた。ビビンバは作り方がシンプルであること、サムギョプサルは辛くなく食べやすいことが好まれている理由なのではないかと考えられる。

今後は、今回検証できなかった課題についてさらに調査を行うとともに、韓国料理以外の韓国文化についての調査も行いたい。

### 4. 参考文献（抜粋）

内閣府「外交に関する世論調査」

<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-gaiko/>

Fancrew 「韓国料理についての意識調査 ファンくる（株式会社 ROI）調べ」

<https://www.fancrew.co.jp/news/research/2210korea.html>

氏名	三石光	学籍番号	P020029	ゼミNo.	9					
テーマ	良好な関係を築くための非言語コミュニケーション									
<b>1. 研究の動機と目的</b>										
<p>「コミュニケーション」は我々の日常に当たり前にあるもの、我々の生活と切っても切り離せないものとして普段意識されることはないように感じる。筆者は異文化コミュニケーション論の授業で、コミュニケーションには言語的側面と言語以外の側面、2つの側面があることを学んだ。授業を終え、言葉以外の要素である「非言語コミュニケーション」（以下「非言語」）に着目してコミュニケーションを考察することによって、コミュニケーションの方法について新たな発見があるのではないかと考えた。コミュニケーションを非言語的視点から分析し、相手に自分の意思を伝える、相手の気持ちを正確に受け取る、円滑な意思疎通を図るために心がけるべきことを明らかにするのが本稿の目的である。</p>										
<b>2. 研究の方法</b>										
<p>非言語にはどのような種類があるのかを調べ、各種類がコミュニケーションにおいてどのような役割を果たすかについて考察する。考察の際には、筆者自身のエピソード、そして他者の会話などを扱い、非言語的視点から分析、相手とよりよい関係を構築できるコミュニケーション法を探る。また、非言語を近年の社会的動きとも関連させ、非言語のこれからについても考察していく。</p>										
<b>3. 調査・考察</b>										
<p>先行研究により、非言語的要素がメッセージ全体の90%以上を占め、人との関わりでとても大きな役割を果たしていること、非言語には、ジェスチャーや視線などの想像しやすいものから体つきやくしゃみ、化粧品、香水など意外に感じるものまで様々な種類があることが分かった。</p>										
<p>先行研究で分かったことをふまえエピソードを分析し、各非言語をどのように取り入れればよいか考察した。その結果、表情や声の調子を自身の感情・意図に沿ったものになるよう意識する、自分の意図と相手の受け取り方にズレが生じることも考慮し非言語要素を選択していくなどを気持ちのよいコミュニケーション法として発見した。また、服装や身長も無意識にメッセージを発信している非言語であり、会話する相手に対応した行動に反映させる重要性にも気づいた。さらに、コロナウイルスによるマスクの着用などから、隠れた笑顔は明るい声で補うなど、同時的に発生する非言語要素は、補い合うようにすることでしっかりと意思疎通が行えるのではと考察した。</p>										
<b>4. まとめ</b>										
<p>調査・考察を経て、自身が日常的にどのように非言語を使用しているか見つめなおすことが重要であると感じた。まず、自身が非言語によってどのようなメッセージを発信しているか把握する、相手は何を発信しているか理解する、場面・相手に適した非言語を用いる、これらの能力を養う。そして、会話にうまく取り入れることによって、気持ちのすれ違いによるトラブルが少ない豊かで楽しい人間関係を築くことができるのではないだろうか。</p>										

氏名	岡崎琴弓	学籍番号	P020006	ゼミNo.	10
テーマ	恋愛における相手の身体的魅力の重要性—Web 上のデータの分析—				
<p>身体的魅力が恋愛において重要であるという事実は、異性の好きなタイプを聞かれて、「イケメン」「高身長」「スタイルがいい」などの身体的魅力について挙げるといった一般的なイメージにも共通する。一方、実際に異性を好きになるきっかけは、身体的魅力に限らず、内面であったりふとした仕草であったり相性であったりと人それぞれである。恋をする前は「絶対イケメンで高身長の人がいい」と言っていた人が、好きなタイプの顔でもなく身長も理想の身長より低い人を好きになったといったこともよくある話である。ということは、実際の恋愛において、身体的魅力はさほど重要なものではない可能性も考えられる。</p> <p>そこで本研究では、恋をする前と実際に恋に落ちる瞬間の身体的魅力の重要性の違いについて、Web 上の口コミのデータをもとに考察することを目的とする。</p> <p>本研究では、Python を用いて、収集したデータを解析し、必要なデータを取得する Web スクレイピングを行い、KH Coder を用いて、取得したデータに対して計量テキスト分析を行った。データは、株式会社ジェイスquareが運営する電子掲示板「ガールズちゃんねる」を使用した。恋をする前と恋をした瞬間の違いについて分析するため、「好きなタイプ」と「恋に落ちる」の二つをキーワードとして分析を行った。</p> <p>語の出現頻度を分析した結果、「好きなタイプ(3983 コメント)」では、「人(1526 回)」、次に「好き(846 回)」、「顔(534 回)」、「タイプ(473 回)」の順に語が多くかった。「恋に落ちる(1984 コメント)」では、「人(376 回)」、次に「好き(238 回)」、「恋(176 回)」、「自分(135 回)」の語が多くかった。また、対応分析の結果、「好きなタイプ」では「身長」「骨格」「体型」などの語の特徴が強く、「恋に落ちる」では「落ちる」「惚れる」などの語の特徴が強かった。一方、「イケメン」や「見た目」「性格」などの語は「好きなタイプ」と「恋に落ちる」の両方に共通して出てきた。コメントを見てみると、「好きなタイプ」について、身長や骨格、顔についての好みなどを具体的に取り上げている人が多く、さらに「恋に落ちる」瞬間にについても、身体的魅力度が高いことを前提として恋に落ちたという人が多かった。そのことから、好きなタイプを設定して恋愛対象かどうかを判断する段階では、異性の身体的魅力が軸となってくると考えられるため、身体的魅力度が低い人に恋に落ちる可能性は低いことが推測される。よって、身体的魅力は、恋をする前も恋に落ちる瞬間も同じくらい重要なものであると考えられる。</p>					

氏名	門田 菜々子	学籍番号	P020007	ゼミNo.	10
テーマ	発達障害のコミュニケーション特性が引き起こすいじめと予防策				
<b>1. 研究目的</b>					
<p>いじめの被害体験と発達障害との関係性について、伊瀬（2022）は「自閉症スペクトラムの児童がいじめを経験する割合は40%から90%と差があるが、その発達特性からいじめを経験しやすい」と報告している。しかし、被害体験の性差や発生しやすい学年、きっかけ、発達特性が原因となつたいじめの具体的な予防策については十分に解明されていない。そこで、本研究では、発達障害を有する子どもが他者と、なぜ上手くコミュニケーションが取れないのか、取れない時に、どのような問題が起きているのかについて焦点を当てて発達障害を有する子どものいじめの現状と被害体験が起きやすい要因を明らかにする。また、その要因に応じた予防を目的とした仕組みと取り組みから現状と課題を考察し、具体的に仕組みや取組みについて提案することで、今後の支援の質の向上につなげることを目的とする。</p>					
<b>2. 研究方法</b>					
<p>本研究では文献検討及び事例集分析を行った。文献検討は、Ciniiを用いて、絞り込み条件を「発達障害 and いじめ」「発達障害 and コミュニケーション」と設定し、学校種別で検索し、うち小学校2件、中学校6件、高校4件、大学21件を分析対象とした。事例集分析は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「実践事例データベース（以下、事例集という）」を用いて、「発達障害」（「自閉症」「学習障害」「注意欠陥多動性障害」）を選択し、「コミュニケーション上の支障」「対人関係の困難」に該当する29件の事例を分析対象とした。</p>					
<b>3. 結論</b>					
<p>本研究では、3つの知見を得ることができた。1つ目は、先行研究では、いじめの被害体験の性差について、田中ら(2015)は女児の方が、ASDの女児へのいじめ被害の標的のリスクの高さを指摘し、女児同士の方がコミュニケーションによる関係性を重視するため、障害に伴う社会性の問題につながりやすいと報告している。しかし、事例集分析において性差の情報がなく、性差について検討することができなかつた。2つ目は、先行研究では、いじめ被害が発生しやすい学年について、田中ら(2015)は、ASDでは小学生段階以降、ADHDでは中学生段階にいじめ被害への効果が強まっていると報告されている。学年による事例の違いがあることまでは確認できなかつた。3つ目は、先行研究では、発達障害の特性にのみ注目し、障害によるコミュニケーション特性といじめの発生のきっかけについては明らかにしていたが、事例集分析では、ASDと知的障害など、重複障害をもつている児童生徒の事例が多く紹介されており、先行研究にはない、新たな現状を発見した。研究結果をもとに、知的障害と発達障害の重複障害の特性への配慮と、発達障害の特性を学ぶ時期は、ASDは小学校中学年、ADHDは中学校で、学校教育の場を通して学ぶ案を提案した。</p>					

氏名	篠藤愛音	学籍番号	P020015	ゼミNo.	10
テーマ	女子大学生の恋愛関係に与える親子関係の影響について —恋愛関係で生じる課題にソーシャルワークは必要か—				

### 1. 研究目的

筆者は自分の恋愛経験から父親（異性親）に似た人と付合う方が、似ていない人と比べて、喧嘩も少なく、長く安定した関係になる傾向があり、恋愛と親子の関係性に関心をもったのが本研究のきっかけである。親子関係の不調から生じる虐待問題の解決のために、子育て支援や介護支援など社会的な支援がある。しかし、恋愛関係には、婚活支援はあるが、恋愛支援はない。そこで、本研究では、子育てや介護など親子や家族、友人など身近な人間関係で支えあうことが当たり前とされてきたものが、社会的支援の対象に変化していった状況と同様に、恋愛も、社会的支援が必要か、否かを検証することを目的とした。

### 2. 研究方法

本研究は、文献検討とアンケート調査を実施した。文献検討は、CiNii を用いて、絞り込み条件を「恋愛 and 親子関係」で検索した。検索結果 31 件のうち論文 13 件、専門書 11 件を本研究の分析対象とした。アンケート調査は私立の短期大学と大学の女子を対象に、恋愛経験と親子関係の関係性、恋愛の相談相手の条件、恋愛相談のニーズを把握した。

### 3. 結論

文献研究の検討の結果、親子関係は、恋愛関係に影響を与えることがわかった。金政（2007）は、母子の愛着は、恋愛関係を安定させること、岡田・大橋（2020）は、親子関係の依存度と恋愛関係の依存度は相関していることを示した。また、岩月（1999）は、父親と娘が良好な関係の場合、娘の恋愛が安定的関係になると述べ、特に母息子の関係よりも、父娘の関係の方が影響をより強く受けると述べている。さらに、親子関係は DV に影響を与えることもわかった。藤田・米澤（2009）は、DV の発生において、親子関係が不調の者は、親子関係が良好な者より、被害者・加害者の傾向が高まると報告している。

アンケート調査の結果、先行研究のとおり、父親を好きと回答した者の方が、嫌いと回答した者より、付き合った経験がやや多く、似た人と付き合う方が、良好な関係を経験しているという結果が出た。一方で、母親を好きでないと回答した者が母親を好きと回答した者より、付き合った経験が多いが、母親娘の関係の嫌悪さは、恋愛関係上、暴力的な言い合いや短い付き合いになるなどの影響を受けている。父母で恋愛関係に与える影響の出方が異なることが新規に確認できた。また、公的機関・専門家への恋愛相談のニーズは、肯定的な意見は少ない。理由として「公的機関・専門家は自分が相手を知らない、または相手が自分のことを知らないため、相談したくない」「公的機関・専門家に相談するほどでもない、恋愛相談の専門性がわからない」「プライベートなことだから」が多かった。80 年以降の子ども虐待や高齢者虐待問題が社会問題になった背景に、子育て・介護は家族内の個別の問題のため、知らない人や公的機関や専門家には相談しないという状況と類似した状況と考える。

氏名	篠森 優花	学籍番号	P020016	ゼミNo.	10
テーマ	大人の愛着障害による人間関係への影響とその後の支援 —当事者の支援ニーズを充足する社会システムの構築に向けて—				

### 1. 研究目的

先行研究では、幼少期や児童期の愛着形成に課題がある者が、成人期に人間関係がうまくいかない悩み、もめごと等の負の影響が起きていると述べている。しかし、愛着形成に課題がある者が、どのような影響を受け、生活上の問題が起きているかは十分に検証されていない。そこで、本研究では、以下の3点について考察した。

- 1) 愛着障害がもたらす児童期及び成人期への影響について考察する。
- 2) 愛着障害を持つ人の困難について、対処法や治療方法について考察する。
- 3) 大人の愛着障害の支援の課題について整理し、改善案を提案する。

### 2. 研究方法

本研究では文献検討とインタビュー調査を行った。インタビュー調査は、虐待被害経験のある成人期の当事者1名を対象とし、半構造化面接による自記式インタビュー調査を行った。質問は、虐待被害及び支援状況、虐待被害による成人期の生活上への影響や困難、過去の支援者から受けた支援内容への評価、児童期、成人期に求める支援の計7項目を設定した。

### 3. 結論

本研究では、以下の3点について考察した。1点目は、先行研究において成人期の愛着障害の影響の特徴として、「対人関係」「情緒面」「アイデンティティの問題」が報告されているが、インタビューで、特に、これらが「恋愛関係」に象徴的現れており、その背景には、恋愛相手を通して自分への価値と密接につながる、独特的考え方や心理状態が関係していることがしんどさを増していることがわかった。2点目は、愛着障害の困難への対処法として、自頭の良さと表現された=今の環境に疑問をもてる力、歪であつたても愛情を感じられる状況があること、重複障害としてADHDの持つパワフルさが功を奏すことである。3点目は、大人の愛着障害の支援の課題について、大人の愛着障害への心理的支援と社会的支援の必要性を提案した。特に、影響が長期化するために、治療や就労支援、日常生活支援を必要とする人に対しての社会保障が確立される必要がある。また、特に、専門職においては、虐待被害のもたらす影響力の大きさから考えても、適切な支援が行われなかつたときの、責任追及として、未通告の場合に罰則を設けるなどの対策も必要と考えた。

氏名	瀬尾 ひな	学籍番号	P020017	ゼミNo.	10
テーマ	ユニバーサルスポーツの促進におけるソーシャルワーカーの役割				

### 【背景】

私は、ソーシャルワーク実習で障害者支援施設へ訪れた際、日中活動の一環でボッチャやeスポーツに取り組む機会があり、そこで障がい者スポーツに関心を持った。論文を調べていくうちに、障がい者と障がいのない人が一緒に使うユニバーサルスポーツという言葉を知った。先行研究では、山本・井藤（2020）より、障がい者と障がいのない人が共にスポーツを行う点において、両者が共にスポーツを楽しむ機会が少なく、また競い合える機会に参加することの平等性が担保されていないという課題が見つかった。

### 【研究意義】

本研究を通して、障がいの有無にかからず、スポーツを通して、相互理解や自己実現、生活の質の向上に寄与できるユニバーサルスポーツの発展に、ソーシャルワーカーがどのように関わっていくべきかを明らかにすることの一助を目指す。

### 【研究方法】

本研究では文献調査とユニバーサルスポーツに関与しているソーシャルワーカー2名へのインタビュー調査を行う。

### 【結論】

本研究では、次の3点を明らかにした。

1点目は、ユニバーサルスポーツの現状と促進要因、阻害要因である。ユニバーサルスポーツの現状は、「パラリンピック」や「ボッチャ」を中心に、メディアでの報道頻度の増加により多く認知されるようになった。しかし、障がいを有する人が競技する上で必要な人員不足や場所の確保の困難さにより、現状以上に実施頻度や実施会場を拡充していくことは難しい状況であることがわかった。

2点目は、ユニバーサルスポーツに関与するソーシャルワーカーの役割についてである。ソーシャルワーカーはそれぞれの所属先で、ユニバーサルスポーツ促進のための案を出し、周りを動かしていることがわかった。

3点目は、ユニバーサルスポーツを促進していくためにソーシャルワーカーが担う役割についてである。地域や企業等のインフォーマルな資源と結びつけて、現在の課題になっているスポーツにかかる費用負担やサポート人員の確保の問題など、フォーマルな対策にとどまらず、資源を巻き込んで拡充していくべきである。

氏名	徳本 梨音	学籍番号	P020021	ゼミNo.	10
----	-------	------	---------	-------	----

テーマ	県民性ステレオタイプの伝達—WEB 上のデータの分析—
-----	-----------------------------

本研究では、偏見・ステレオタイプについての研究を行う。様々なステレオタイプ研究があるが、「県民性」に焦点を当てた先行研究は少ないとから、新規性を見出すことのできる「県民性ステレオタイプ」をテーマとした。また、Twitter 上のジェンダーステレオタイプ情報はよりリツイートされやすく、言語的抽象度が高いことが示されており（田中他, 2016）、このような先行研究があるならば「県民性ステレオタイプ」にも同じことが言えるのではないかと考えた。

目的は 2 つ設定した。1 つ目は、WEB 上の県民性ステレオタイプがどのような特徴を持つのか明らかにすることである。2 つ目は、県民性ステレオタイプ情報の中でも反応されやすい情報の特徴を明らかにすることである。今回の研究においての「反応されやすい」とは、頻出頻度が高い語句や多く触れられている都道府県名のことを指す。語句の出現度の高さだけでなく、どのような話題に繋がっているのか、語句と語句の関係性にも着目する。

研究方法は、Python を用いた WEB スクレイピングによるデータ収集（口コミ掲示板）と、KH Coder による計量テキスト分析である。3 つの口コミ掲示板からデータを 29,096 件収集し、県名の出現回数ランキング（抽出語リスト）・共起ネットワーク・階層的クラスター分析の結果から考察を行った。

上記の分析結果を全体的に考察し、WEB 上にある県民性ステレオタイプの特徴や特に出現しやすかった都道府県・語について大きく 3 つに分けてまとめた。1 つ目は、ネガティブなステレオタイプがより多く表出したということである。特に負の感情や評価を伴うものが匿名性の高い WEB 上でより表出しやすい、維持されやすい傾向があると考察する。2 つ目は、県民性ステレオタイプの内容は多種多様ということだ。その土地に住む人の性格や容姿のこと、過去の戦争や領土問題に関することなど様々で、県民性ステレオタイプの表出の仕方も地域単位から都道府県単位まで様々にみられた。3 つ目は、特に反応されやすかった情報についてである。都道府県の出現回数ランキングから上位の都道府県に多い共通点として、人口が多く国内外から観光地として挙げられやすいことが言える。やはり実際に足を運ぶ人やメディアで見聞きする機会が多い都道府県の方が、ステレオタイプ化されやすくイメージが抱かれやすい傾向にあると考察する。また、マンションコミュニティという不動産掲示板からデータ収集したことで、出張先や転勤先などビジネス街とされる都道府県の出現回数に影響を与えていく可能性もあると考える。さらに、男女の出現回数を比べた時に「女性」の方が多く、県民性に関するステレオタイプや偏見は、男性より女性の方が持たれやすいということが推測できる結果が得られた。

氏名	三木 夏鈴	学籍番号	P020028	ゼミNo.	10
テーマ	里親の委託解除の要因と障害を有する子どもとの関連性				
<b>1. 研究目的</b>					
<p>1989年の国連総会において採択された「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は子どもの基本的人権を国際的に保証するために定められた条約である。児童が成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めている。その条約の中には「社会的養護」と呼ばれる保護者のいない児童や、保護者が養育することが適切でない児童を保護者以外の大人たちが保護・養育するという取り組みがある。その子どもの権利条約第20条において、社会的養護を必要とする状況になった子どもには「里親」「養子縁組」を施設入所より優先して実施することある。日本では2023年現在、約42,000人の社会的養護が必要な児童があり、そのうち約6,000人が里親を利用している。里親を利用している割合が全体の20%以下となっており優先的に実施されていないことが社会問題となっている。なぜ、里親制度が利用できていないのか疑問に思った。</p>					
<p>本研究では、以下の2点について考察していく。1点目が里親制度の委託率の低さと委託された後に、解除になる要因を明らかにする。2点目が今後、里親の活用率を高めるためにどのような対策が必要なのかを提案する。</p>					
<b>2. 研究方法</b>					
<p>本研究では里親に関する文献探索とキーインフォーマントインタビュー調査を実施した。</p>					
<b>3. 結論</b>					
<p>結論として、以下の4点について明らかにした。</p>					
<p>1点目は、委託に関する児相と里親との認識のズレが課題となっており、この認識のズレが、不調を起こす要因になると把握した。</p>					
<p>2点目は、委託を行う上で児相と里子への情報や説明はしっかりと行われていない現状を把握した。児童相談所から里子に対して情報が行き届かないと、里親との矛盾が両者との間で起こり行き違いから不満が募り結果的に不調になるケースが起りうる。</p>					
<p>3点目は、児相が行う家庭訪問の時に里親と里子が一緒に受けるためになかなかお互いの本音を言えない環境になっている現状を把握した。</p>					
<p>4点目は、18歳以降の元里子が今まで自分を育ってくれた里親に恩を返すために、本来自分の目標である進学や就職等で里親の元を離れることを躊躇してしまう問題を把握した。</p>					
<p>以上の考察結果を踏まえ、対策として里親制度を利用している同士の関わり合いを増やすこと、子どもの問題行動に対する処置を広く増やし広めることである。里親講習会等を定期的に開くなどして里子の問題行動に関する対応や研修を行う。</p>					

氏名	三宅 匠	学籍番号	P019048	ゼミ No.	10					
テーマ	アパシー傾向と将来についての認識の関連の検討									
【目的】アパシー傾向と自分の将来について考えることの評価に関連があるのではないかという仮説から、本研究ではアパシー傾向と将来についての認識の関連性について検討することを目的とする。										
【方法】松山東雲女子大学・松山東雲短期大学に在籍する学生を対象に質問紙調査を行った。有効回答者は269名（平均年齢：19.48歳，SD=1.47）であった。質問紙はGoogleフォームで作成し、渡部（2021）の“多次元アパシー傾向測定尺度”，石川（2017）の“自分の将来について考えることの認知的評価尺度一認知的側面版（以下CASTF-C）”，“自分の将来について考える事の認知的評価尺度一感情的側面版（以下CASTF-A）”，“進路希望状況”を使用した。										
【結果】因子分析の結果，“多次元アパシー傾向測定尺度”は下位因子“アンヘドニア”，“時間拡散”，“強迫的適応志向”的3因子，“CASTF-C”は下位因子“脅威的認知”，“挑戦的認知”的2因子，“CASTF-A”は下位因子“挑戦感情”，“脅威感情”的2因子となった。下位因子ごとの相関では，“強迫的適応志向”と“挑戦的認知”，“挑戦的認知”と“脅威感情”以外の相関係数で有意差が認められた( $p < .01$ )。“脅威的認知”，“脅威感情”は“多次元アパシー傾向測定尺度”的下位因子と正の相関を持ち，“挑戦的認知”，“挑戦感情”は“多次元アパシー傾向測定尺度”的下位因子と負の相関を持つことが示された。ただし，“強迫的適応志向”と“挑戦的認知”との間に有意な相関は見られなかった( $r = -.08$ , n.s.)。										
また，“進路希望状況”的回答から明確群（97名）と不明確群（172名）に群分けを行い、各下位尺度の得点に差があるかを検討した結果，“強迫的適応志向”以外の尺度得点の平均に有意な差が示された( $p < .01$ )。“アンヘドニア”，“時間拡散”，“脅威的認知”，“脅威感情”は不明確群の方が平均得点が高く，“挑戦的認知”，“挑戦感情”は明確群の方が平均得点が高かった。										
さらに，“多次元アパシー傾向測定尺度”的総得点から平均値を算出し、平均値より得点が低い者をアパシー傾向低群（134名）、平均値より得点が高い者をアパシー傾向高群（135名）と群分けし、“CASTF-C”，“CASTF-A”的尺度得点に差があるか検討した。結果、全ての下位尺度得点で有意な差が認められた( $p < .01$ )。“脅威的認知”と“脅威感情”はアパシー傾向高群の方が平均得点が高く，“挑戦的認知”と“挑戦感情”はアパシー傾向低群の方が平均得点が高かった。										
【考察】本研究の結果、アパシー傾向と将来についての認識との間に関連があることが分かった。また、アパシー傾向が高いほど将来について考えることを脅威と評価し、挑戦と評価しにくくなる傾向があると考えられる。										

氏名	吉村 彩花	学籍番号	P019055	ゼミNo.	10					
テーマ	災害ソーシャルワークの体系化・理論化について									
<b>【1. 研究目的】</b>										
本研究で注目する災害ソーシャルワークは、2011年東日本大震災を契機に注目が集まった。その理由は、被災によるクライエントの所在の確認の困難と対象者の拡大、また、ソーシャルワークに携わる人々が何をすればよいのかという無力感と戸惑いに苛まれた結果、専門職者としての活動を行えなかつたためである。										
これらを踏まえ、日本学術会議社会学社会福祉学分科会（2013）が「災害時の社会福祉のあり方について、理論的に確立し、ソーシャルワークの教育の一環に含め、研究と教育の促進を図っていくべき」と提言し、東日本大震災から12年の間に災害ソーシャルワークの理論化・体系化が進められてきた。遠藤（2018）は「災害フェーズにおけるソーシャルワークの機能・役割を網羅し、そこに必要な共通する実践理論・実践方法を明示することにより“災害ソーシャルワーク”がソーシャルワークの一分野として明確化されるものと考えている」と述べている。このことから、災害フェーズの各段階において、先行研究と過去の事例から、発生する福祉ニーズ、災害ソーシャルワークの方法をまとめることで考察することができるのではないかと考えた。										
本研究では、以下の2点から、災害ソーシャルワークについて考察したい。										
1) 現在の災害時のソーシャルワークの体系化・理論化										
2) 先行研究から、「福祉ニーズ」「災害ソーシャルワークの役割」を各災害フェーズの視点から考察し、全体的な災害ソーシャルワークの動き・役割をまとめる										
上記の結果を踏まえて、今後の災害時のソーシャルワークの体系化・理論化について考察し、課題を述べたい。										
<b>【2. 研究方法】</b>										
研究方法は論文検索エンジンCiniiを用いた文献調査である。結果検出文献のうち、災害ソーシャルワークの体系化・理論化に関する記述がある原著論文15本を分析対象とした。										
<b>【3. 結論】</b>										
本研究では、2つの視点から災害ソーシャルワークについて検討してきた。1点目の成果として、先行研究から災害ソーシャルワークの理論化に関して、災害ソーシャルワークは、本質的には平時のソーシャルワークと変わらないが、災害時特有の状況として、対象者の拡大と拡大に伴うニーズの拡大・複雑化が起きることが明らかにできた。2点目の成果として、災害発生前から発生後までの支援は、5段階の災害フェーズで整理されていること、そのフェーズごとの福祉ニーズ、ソーシャルワーカーの役割と機能、支援課題の特徴を整理することができた。										

氏名	松浦 真穂	学籍番号	P018035	ゼミNo.	10
----	-------	------	---------	-------	----

テーマ	発達障害を有する子どもの家族が必要とする支援と支援者の認識のズレ
-----	----------------------------------

### 1. 研究目的

先行研究において、発達障害当事者が必要とする支援と支援者の認識のズレについて検証されているが、発達障害者の家族の必要とする支援と支援者認識のズレについては、十分に検討されていない。筆者は、ある発達障害を有する家族の事例に出会い、障害の概念や理論、情報を手がかりに、支援者が当事者に確認して支援を提供していくが、その家族の支援ニーズとズレが生じていたではないかと考えたことが、本研究のきっかけである。そこで、本研究では、発達障害当事者の家族、特に母親への支援のあり方を検討し、今後必要な発達障害を有する家族の支援について提案する。

- 1) 先行研究をもとに、発達障害を有する当事者と家族が求める支援と支援者の提供する支援とのズレについて考察する。
- 2) 家族が求める支援について発達障害を有する当事者が学齢期の時期に注目し、ズレが生じる要因について検討する。

### 2. 研究方法

本研究では、発達障害を有する現在中学2年生を育てている母親（50代、介護職従事者）、姉（20代、大学生）に半構造化面接を用いたインタビューを実施した。質問は、障害診断のない幼児期・小学校での診断後・中学生の時期に実際に母が困った・悩んだこと、提供された支援と支援に対する思いやすれに関する11項目である。

### 3. 結論

今後必要とされる発達障害当事者の家族、特に母親への支援のあり方について検討した。その結果、以下の2点の知見を得ることができた。

1点目は、先行研究とインタビュー調査を通して、発達障害を有する当事者と同様に、あそこの家族が求める支援と支援者の提供する支援と間に様々なズレがあることがわかった。そのズレは、情報と説明の不足、支援者が良かれと思って行う頻回に行う支援が、かえって家族の負担や困難を発生させていることである。しかも、当事者家族は「他にも支援を必要とする子どもがいる中で、わが子に特に多く時間や手間をかけてもらっているのに申しわけない」と思う特徴的な心理状態があり、ズレを感じても支援者に伝えることが難しいことため、支援者がズレを把握することができない要因になっていることがわかった。

2点目は、家族に必要な支援は、発達障害を有する当事者が学齢期の時期が重要である。この時期は、放課後等デイサービスを活用しない場合、教育と医療分野に支援機関が偏ってしまい、社会福祉専門職の関与がないために、説明不足や親子ともに状態の変化が起きやすくなる。今後必要な支援として、社会福祉専門職の仲介と情報提供、セカンドオピニオンの必要性を提案した。

氏名	黒木隆江	学籍番号	P020011	ゼミNo.	11					
テーマ	自己評価の自己高揚・卑下傾向が他者評価に及ぼす影響について									
【目的】自分自身のことを評価する(自己評価)際には、自己をより高く評価する傾向(自己高揚傾向)と、自己をより低く評価する傾向(自己卑下傾向)がある。これは他者への評価(他者評価)にも同様にみられている(小林,2002;速水・木野・高木,2005)。日本人の自己評価の傾向としては、自己卑下傾向がみられることが指摘されている(北山,1994)。自己評価の傾向(自己高揚・卑下傾向)により他者評価に相違がみられる可能性が予想されるため、自己評価の傾向と他者評価の関係について検討を行う。また、他者との関係により他者評価に違いがみられる可能性があるため、合わせて検討を行う。										
【方法】松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の学生29名が参加した。課題としてナンバープレースを使用し、ルール説明・練習課題、その後実験課題を行い、質問項目への回答を求めた。他者評価の対象として高等学校の先輩と後輩をそれぞれ1名想起するよう求めた。質問項目は、自己評価に関する項目(参加者自身の課題の回答速度が平均と比較して速いか遅いか)、他者評価に関する項目(先輩・後輩が同じ課題に取り組む場合を想定し、平均と比較し速いか遅いか)、および他者比較に関する質問項目(参加者自身の回答速度と比較した際の先輩・後輩の回答速度が速いか遅いか)への回答を7件法で求めた。										
【結果】自己評価の傾向により他者評価に差がみられるか、2(自己高揚・卑下傾向)×2(先輩・後輩評価)の分散分析を行った結果、自己評価と他者評価の主効果および自己評価と他者評価の交互作用は有意でなかった( $F(1, 23) = 1.68, p = .21$ )、( $F(1, 23) = 0.20, p = .66$ )、( $F(1, 23) = 0.00, p = .95$ )。また自己評価の傾向により他者比較に差がみられるか、2(自己高揚・卑下傾向)×2(先輩・後輩比較)の分散分析を行った結果、自己評価と他者比較の主効果および自己評価と他者比較の交互作用は有意でなかった( $F(1, 23) = 2.73, p = .11$ )、( $F(1, 23) = 0.03, p = .86$ )、( $F(1, 23) = 0.45, p = .51$ )。得られたデータにおける自己高揚・卑下傾向の人数差が大きいため、自己高揚・卑下傾向の人数の割合について $\chi^2$ 検定を行った結果、有意な差がみられた( $\chi^2(1) = 9.00, p = .00$ )。										
【考察】分析の結果、自己評価の自己高揚・卑下傾向と他者評価には有意な差がみられなかった。また女子大学生において、ナンバープレースの回答速度が平均よりも速いだろうと回答する人に比べ、遅いだろうと回答する人が多く、その比率に差がみられた。これは、日本人の自己評価の傾向と同じく、自己卑下傾向のある人が多かった可能性があるだろう。本研究では、自己評価の自己高揚・卑下傾向における他者評価の関係を検討するに至らなかったため、今後、想起する他者や使用する質問項目などをより統制した研究を行う必要があるだろう。										

氏名	宮田優衣	学籍番号	P020031	ゼミNo.	11					
テーマ	精神的健康観に及ぼす睡眠の影響について -睡眠の位相・質・量に着目して-									
【目的】睡眠は生命を維持する重要な機能である。睡眠について様々な研究がされている中で、特に睡眠時間についての研究が多い。例えば、睡眠時間の短さは、人間の精神的健康と身体に悪影響をもたらすことが指摘されている(厚生労働省 e-ヘルスネット)。ところが睡眠時間は個人差があり、人によって必要な睡眠時間は変わってくる。そのため、睡眠時間(量)のみで影響を与えてはいるかではなく、他に睡眠を構成する要素である位相(リズム)や質も同時に考える必要がある。そこで本研究では、睡眠時間に加えて位相と質が精神的健康観に及ぼしている影響について検討を行う。										
【方法】松山東雲女子大学に在学する大学生 16 名 (平均年齢=20.31, SD=0.70) に Google フォームを利用した Web アンケート調査への回答を求めた。睡眠については土井らが作成した "Pittsburgh Sleep Quality Index" の日本語版(以下 PSQI-J)と、PSQI-J とは異なる睡眠指標である位相、質、量の睡眠問題を別々に測定し評価する "3 次元型睡眠尺度" "3 Dimensional Sleep Scale" (以下 3DSS) を用いた。精神的健康観については日本語版精神的健康調査票(The General Health Questionnaire : 以下 GHQ)の短縮版である GHQ30 を希死念慮の項目を除外して採用した。										
【結果】PSQI-J の C6(眠剤の使用)は得点が 0 点だったため除外して、C1~C7(睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、日中覚醒困難)の 6 項目で主成分分析を実施した結果、第 1 主成分(睡眠の質、睡眠効率、睡眠困難、日中覚醒困難)と、第 2 主成分(入眠時間、睡眠時間)にまとめられた。抽出された主成分と、3DSS の位相を説明変数、精神的健康観(GHQ)を目的変数としてパス解析を行った。その結果、第 1 主成分(広義の意味での睡眠の質)と第 2 主成分(睡眠時間)が精神的健康観に影響を及ぼすモデルが採用され、モデルの適合度指標は、 $\chi^2=0.062$ , ns, GFI=0.997, AGFI=0.983, RMSEA=0.001, SRMR=0.032, AIC=10.062 であり、充分な適合度であった。										
【考察】パス解析の結果から睡眠時間の長さと、睡眠の質の高さが、良好な精神的な健康観を予測し、また睡眠時間の短さと、睡眠の質の低さが、不良な精神的な健康観を予測することが示唆された。本研究において、影響及ぼすと仮定して検討した位相は、今回の研究結果では精神的健康観に影響を及ぼす結果が得られなかった。使用した位相は、規則的なリズムで朝方は得点が高くなり、不規則的なリズムで夜型の得点が低くなるという解釈がなされる。しかしながら、夜型の人でも位相に規則性があることや、朝型の人でも位相が乱れている場合も考えらえるため、今後、朝型・夜型と位相を細分化して検討することが必要であろう。										

氏名	有村結由	学籍番号	P020002	ゼミNo.	12
テーマ	愛媛県の高齢化について				
<p>日本では高度経済成長期以降人々の生活は豊かになり、それに伴い平均寿命も伸びていった。高齢者の割合は年々増加していき、2021年時点で約29%となっている。現在では高齢者の増加に伴って、医療・介護の人材不足や単身高齢者の増加、老老介護などの問題に直面している。本論文では、愛媛県で高齢化がどのくらい進行しているのか全国平均と比較して現状を把握するとともに、高齢化がもたらす社会問題を取り上げ、愛媛県の高齢化の対策と課題について考察する。</p> <p>第1章では、日本と愛媛県の高齢化の現状をグラフで示し、比較しながら愛媛県の高齢化が全国平均と比べてどのくらい進行しているのかを述べた。愛媛県は全国平均と比べて生産年齢人口の割合が低く、高齢者人口の割合が高いことが分かった。就職や進学で若者世代が県外転出し、その後地元に帰らなくなっていることから、生産年齢人口の割合が減っていると考えられる。また健康寿命が全国平均より低く、心疾患の死亡率が高いことが影響していると考えられる。</p> <p>第2章では、2025年問題・2040年問題と地域での高齢者の孤立とQOLの低下について述べた。2025年問題では団塊世代が75歳以上の後期高齢者になり、医療・介護を受ける人が増えることから、医療・介護等の人材不足や働いている人の社会保障費の負担が増えることが懸念されている。また近年は生涯未婚の人が多くなり、進学や就職で家を出ていく若者も多い。配偶者との死別等から単身高齢者も増加傾向にある。単身高齢者が病気や障害を発生し、地域で孤立する人が出てくる恐れがある。孤立することで高齢者のQOLが低下すると考えられる。</p> <p>第3章では、愛媛県における高齢化対策と課題について述べた。愛媛県では高齢化対策を大きく4つ行っており、その中でも「高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり」の健康寿命の延伸への取り組みと社会参加の促進について取り上げた。健康寿命の延伸への取り組みとして、「えひめ健康づくり21」を掲げている他、2017年に大塚製薬株式会社と愛媛県が「健康増進の推進に関する協定」を締結し、健康寿命の延伸に貢献していることが分かった。社会参加の促進では、介護保険制度を活用したボランティア活動の支援を行っている地域もあることが分かった。しかし、老人クラブやシルバー人材センターの加入率は年々減少しており、制度の導入や意識啓発だけでは人材を増やすことが難しい状況であることが明らかになった。今後も人口減少は続いていくことから、様々な分野で人材不足や後継者不足が問題となってくる。高齢化によって起きている問題を他人事だと思わず、身近な問題として捉えていく必要がある。</p>					

氏名	田中伶実	学籍番号	P020018	ゼミNo.	12					
テーマ	ジェンダー平等について～女性が輝く社会を目指して									
<p>ジェンダー平等とは一人ひとりの人間が性別に関わらず平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができる意味している。現在の日本社会はジェンダー平等が確立されておらず、女性が社会において不利な位置にあると感じている。日本がジェンダー平等を実現できる日がくるのか。本論文では日本のジェンダー平等の現状や問題点を分析し解決策を考察した。</p>										
<p>第1章では日本の現状について述べた。ジェンダーギャップ指数では日本が146カ国中125位という結果となり世界的に見てもジェンダー平等が進んでいない国だとわかった。女性の失業者が増えていること、女性の管理職・雇用率の低さ、ワンオペ育児、男女間での賃金格差などが大きな問題点として挙げられていることがわかった。</p>										
<p>第2章では、日本の取り組みについて述べた。1つ目は男女共同参画社会基本法である。政府は5つの基本理念をもとに、配偶者等からの暴力、性犯罪、売春婦、セクシュアル・ハラスメント行為等の分野の施策の在り方を審議している。2つ目は男女雇用機会均等法である。雇用における機会などを性別の差別なく確保することを目的とした法律である。男女雇用機会均等法に抵触した場合、厳しい社会的制裁を受けるほか、裁判にまで発展するケースもある。3つ目は女性差別撤廃法である。政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他すべての分野において、女性の性に基づく排除や制限、さらには区別・差別することを禁じた法律である。</p>										
<p>第3章では国民のジェンダー平等に対する意識を述べた。結果として職場や政治の場、社会通念といった分野で不平等を感じている割合が多くかった。</p>										
<p>第4章では世界の取り組みについて述べた。EUとアイスランドに着目した。EUでは5カ年計画を実施し、ジェンダー平等を目指している。ジェンダーギャップ指数を見ても上位5位のうちの2つがEUの国であった。アイスランドは14年連続ジェンダー平等世界1の国である。男性の育児休暇制度の充実が進んでいることや、男女の同一労働同一賃金が実現している。ジェンダー平等が進んでいる国と日本の取り組みを比べてみると、日本の遅れている部分を再確認することができた。</p>										
<p>日本の問題点や他国の取り組みを研究して感じたことは、日本は女性の管理職率を上げること、男女の雇用差別を無くすこと、男性の育児休暇制度を促進させることがジェンダー平等を進めるために必要な項目ではないかと考察した。女性が不利にならず、したいと思えることを好きなように叶えられる、多くの女性が輝ける日本社会がいち早く実現することを願っている。</p>										

氏名	山下加乃	学籍番号	P020036	ゼミNo.	12
テーマ	少子化の現状と課題				
<p>日本では、少子化が急速に進行している。2022年の出生数は77万747人であった。初めて80万人を割り、過去最低を更新した。出生数のピークは、第一次ベビーブームの1947年で270万人である。2023年は、1947年と比べて3分の1以下となった。</p> <p>2023年には政府が「異次元の少子化対策」を行うと報告した。政府が、少子化を回復させるために大きな改革を検討している。他国でも少子化対策は大々的に行われており、出生数を増加させている国も見られるが、日本はどのような対策を取れば少子化の現状を回復することができるのだろうか。</p> <p>本論文では、日本の少子化の現状を、出生数や婚姻件数の推移、出産・育児に関する国民の意識調査などから探っていき、日本政府が行う少子化対策とその課題について考えた。</p> <p>第一章では、出生数の推移と子供の数に関する意識について調べた。出生数は減少しており、過去最低を更新し続けている。夫婦が産む子供の数は、2人が半数以上だが、0人と1人の夫婦が増加している。希望する子供の人数も、0人、1人が増加している。希望人数以下の子供を産む夫婦や、子供を持たない夫婦が増えているが、その理由について調べた。どちらも経済的な理由が一番に挙げられており、子育てにかかるお金に不安を感じている人が多いことが分かった。それに加えて、出産・育児の心身の負担を不安に感じている人が多いことが分かった。</p> <p>第二章では、婚姻について調べた。婚姻件数は年々減少していることが分かった。年齢別未婚率の推移では、男性女性共に晩婚化が進行しており、また、生涯未婚でいる人の割合も増加している。結婚をしないという選択をしている人が増えているが、その理由として、行動や生き方が自由だということが挙げられていた。</p> <p>第三章では、少子化対策の結婚支援や経済的支援に焦点を当てて、政策と課題について調べた。結婚支援は、現金給付の他に、マッチング支援も行われている。経済的支援では、家族関係社会支出の推移と国際比較を調べた。支出の額は増加しているが他国と比較すると少なく、児童手当や教育費の支援の金額の水準も低い。少子化対策の課題については、結婚支援などの認知度の低さや、他国と比較した際の社会支出の額や、現金給付での支援の額が少ないことを挙げた。これに加えて、核家族化が進む中で、地域で子育てを支援できる施設の整備を挙げた。</p> <p>少子化は、急速に進行している。将来社会を担う人が減少し続けると社会を維持できなくなってしまう。少子化の現状を回復するために、少子化の現状を正しく理解し、現在行われている取り組みを知り、子供や、子育てをしている人にやさしい社会を作っていくなければならない。</p>					

氏名	大野 あゆみ	学籍番号	P020005	ゼミNo.	13
テーマ	Z世代の女性はなぜ痩せたがるのか～SNS利用と関連して～				

### 1. 研究背景と目的

現代では誰でも簡単にSNSを利用ることができ、情報を受信するのは勿論、簡単に発信することができる。そこには、風景、人物あるいはペットに至るまで、多様な投稿が見られる。なかでも、見た目に対する投稿が多くを占め、第三者からの反応が分かりやすく可視化されている。実際にSNSを利用しているとコメント欄に見た目＝体型についてのコメントも多くみられるようになった。

若い世代の女性にとって、体型を気にすることはおかしなことではない。しかし、SNSを介した体型をめぐるやりとりは、過剰ともいえる「痩せ」志向を加速させている。そこで本稿は、文献調査やSNSで実際に寄せられているコメントを検討し、日本人女性の特に若い世代（Z世代）のもつ見た目に対する考え方を「ルッキズム」の観点から考察したうえで、そこから考えられる課題を明らかにしていきたい。

### 2. 研究方法

本論文では、基本的に文献調査を行い、情報を収集した。また、筆者自身が実際SNSを利用している中で見つけたとあるインフルエンサーに寄せられているコメントの検討を行った。

### 3. 結論

第1章では現代のSNSがどれほど我々に影響を及ぼしているのか、また痩せている定義を確認し、2章ではTikTokでのインフルエンサー“なまむぎちゃん”に実際に寄せられていた批判的なコメントを調査した。また、第3章では、痩せていることが良いこととされている問題点や、女性のみならず男性も体型を気にするようになったという論文を検討し、第4章ではルッキズムとの関連を検討した。第5章では「痩せ」への動機が、自分自身ではなく、別のところから生まれるため、それを制限しようとも難しい状況がある。際限なく生まれる「痩せ」へ願望は、過度なダイエットを引き起こし、過食症や拒食症などの健康上の問題となってしまう。SNSはその触媒として機能し、とりわけそうした「痩せ」をテーマとする投稿に敏感なZ世代の女性が犠牲となっていく。こうした構造があると結論づけた。「多様性の尊重」がテーマとなるこの時代で、自分の身体や心を犠牲にしたり、他者に心配されるまで自分の理想の体型を目指すのが果たして美意識と言えるのだろうか。筆者はそうは言えないと考える。自分の身体や心を傷つける人たちが少なくなるように、政府による継続的な啓発もそうであるが、情報を受信する我々にもきちんとしたネットリテラシーが必要であると考えた。

氏名	木梨愛巳	学籍番号	P020009	ゼミNo.	13
テーマ	介護人材不足に関する一考察 ～介護労働の実態と人材不足解消について～				
<p>【研究の背景・目的】高齢期になると要介護状態の者は増え、介護サービスの需要も増える。高齢化が進行するなかにおいては、今後も減ることはない見込みである。</p> <p>こうした高齢化の進行に伴う介護需要の増大に加え、人口減少、家族介護の限界などから 2000 年に介護保険制度が施行され、公的サービスとして「介護の社会化」が進められた。しかし、「介護の社会化」を謳って始まった介護保険の現場では、未だ深刻な介護人材不足の問題が残っている。本来の意味で「介護の社会化」を果たすには、介護人材不足をいかに解消するかが重要である。そこで本研究は、筆者の介護現場での介護職経験を基に実態に即した考察を行い、介護人材不足解消の方策を考察し、介護人材不足における課題を明らかにすることを目的とする。</p> <p>【各章の概要】第 1 章では、高齢者介護の現状と課題、介護職員の推移と特徴について検討した。従来の日本では高齢者の介護は家族が担うものと考える傾向がる。その背景には昔と今日の日本を比べると家族形態、世帯当たりの家族人数の変化があることを紹介し、現代では「老老介護」や「ヤングケアラー」等の新たな課題も注目されている。また、介護分野の有効求人倍率は高い傾向にあるが、介護に限らず全職業の有効求人倍率が高くなっていることから介護人材の確保も厳しい現状であることを確認した。第 2 章では賃金、介護労働のイメージ、配置基準の側面から介護労働の課題について検討した。介護人材不足の要因は単に賃金だけの問題ではないが、賃金は低い傾向にあり、このような現状から介護の処遇改善の取り組みが行われ、体制が整備されつつあることを確認した。今後、介護労働の人材を確保していくためには、賃金だけではなく社会に根付いている介護労働に対するイメージを変化させていく必要があることを紹介した。さらに、配置基準に関しては、配置基準が改善されないことで提供するサービスの質の低下、事故や虐待要因の一つになると考えた。第 3 章では人材不足への対策として、EPA 介護福祉士（候補者）、外国人介護職員、介護ロボット、AI および ICT が人材不足、労働環境改善にどう活用することができるのかを検討した。外国人介護職員を受け入れていくためには、受け入れる側の体制作りに加えて、日本で働き続けられる環境が重要であることを紹介した。また、介護は対人援助が基本であり、介護ロボットが「人」の代わりになることは難しいと考えた。しかし、介護人材不足が問題となっている今、腰痛予防、一定量の業務負担減という職場環境改善には介護ロボットと ICT を上手く活用していくことが必要である。</p> <p>【結論】本研究を通して、介護人材不足を解消するためにまず必要なこととして、社会的な介護労働に対するマイナスなイメージを変えていくこと、そして福祉・介護の仕事についての理解を深め、身近な職業であり、魅力を知つてもらうことが若手の介護人材を増やしていくためには必要ではないかと考える。</p>					

氏名	中田梓美	学籍番号	P020022	ゼミNo.	13
テーマ	中高年のひきこもりにおける支援状況と評価				
<p>【研究背景・目的】「ひきこもり」が社会問題として広く認識されるようになって久しい。だが 2000 年代以前のひきこもりと、それ以降から現代までのひきこもりでは時代の変化や社会背景によって大きく違いがある。ひきこもり状態について原因や個人的生活スタイル、家族間関係問題などの当事者の過去について広く取り上げるわけではない。本研究では、ひきこもり状態にある人が高齢化することによって起こるリスクを前提に考える。どの年代からもひきこもり状態は起きることの現状を理解するとともに、生活課題を抱えたままひきこもり状態が長期化し、その後今までの生活や環境が変化した際、どのような問題に直面するのか。状態の硬直、当事者・家族の高齢化した現状に焦点を当て、その時に「生存の確保」を第一に考えるためにはどのような取り組みが考えられるか、今後の課題となる親の介護や親亡き後どのように生活していくのか「生存の確保」のための支援を考察していく。</p>					
<p>【第 1 章】ひきこもりの定義と社会背景について検討した。ひきこもりという現象は、どの年代・性別でも起こりうるものであり、その背景には、当事者自身の精神面や人間関係など様々な要因がある。それゆえきわめて個別性の高い支援が求められることが分かった。国際的に比較した調査からは、日本は孤独感を感じる場面が多く、周囲に頼れる存在が少ないという結果も見られた。</p>					
<p>【第 2 章】ひきこもりの長期化・8050 問題の関連性について検討した。第 1 章で分かった個別性の求められるひきこもり支援であったが、当時のひきこもり支援の内容が再就労や再教育にフォーカスし、当事者の個別性を見て支援を行わなかった過去が見られた。そのような政策の失敗で支援が届かなかつたこともひきこもり長期化に繋がったと分かった。8050 問題との関連性についてでは、ひきこもりの現状が長期化することで起こる親の高齢化、またその後の課題について考え「ひきこもり当事者への支え手の変化」「親の介護問題」「経済的な問題」が考えられる。</p>					
<p>【第 3 章】公的機関が展開している支援内容について調査した。相談支援が主でありながら各地域のネットワークづくり体制や、居場所づくり支援、研修等を通しての人材育成などの取り組みが見られた。それらの中で、ひきこもり当事者への支援体制 자체はできつつあるといえる。</p>					
<p>【結論】本研究を通して、ひきこもりという現状を好転させようとする支援がすべてではないことが分かった。ひきこもり状態を受け止め、その後どうすれば変化なく生きていけるのか当事者、当事者家族、支援者とともに「生存の確保」を考えることが今後のひきこもり支援に求められると私は考える。</p>					

氏名	永田香菜子	学籍番号	P020023	ゼミNo.	13
テーマ	美容整形は自己実現か				

### 研究の目的・方法

今日、美容整形は若者を中心に「手軽」「気楽」に手に入るものになった。街には美容整形外科が溢れ、雑誌をめくれば広告掲載も多い。物理的にも、心理的にもアクセスしやすくなっている。ファッショングループ感覚、スナック感覚が進んでいる。美容整形はファッショングループ化してはいるが、それに留まらず、もはや自己実現の方法として位置づいているのではないだろうか。そしてそうだとすれば、その構造はどのようなものなのか。

本研究では、このような関心のもと、美容整形は自己実現として確立していることを明らかにするため、第1章にて美容整形をめぐる関心やイメージ形成を各種調査から捉える。つぎに第2章では、大手美容整形のwebページに載っている宣伝文句からターゲット像を分析する。第3章では美容整形を公言した、ある芸能人のブログを材料に美容整形と自己実現の関係を考察する。さいごに、自己実現法としての美容整形を構造的に描いた。

### 本論のまとめ

美容整形をめぐる関心は、古くから“美しくなりたい”という女性がもつ根源的な願望としてあった（第1章第1節）。関係団体が報告する全国調査の結果からは、美容整形に対する安全意識（恐ろしさの軽減）を与えていた（第1章第2節）。美容整形クリニックが報告した調査結果からは、「周りもやっているから」という安心感が後押ししていることが示された（第1章第3節）。大手美容整形のwebコピーからは、こうした“願望”を叶える手助けを行うものとして位置づいていた（第2章）。芸能人が美容整形を公表することが肯定的に受け入れられ、負のイメージはもはや存在しないことを示していた（第3章）。

### 結論

美容整形は自己実現の方法として、そのハードルを低くする環境が用意されているものとしてあり、これから美容整形を検討する者としては、どんな服を着たいのかを選ぶことのように、手軽な方法として位置づいているものといえる。

氏名	正岡奈緒	学籍番号	P020025	ゼミNo.	13					
テーマ	大学生の収入と支出の関係 一家計の「やりくり」に注目して-									
<b>研究背景・目的</b>										
本研究ではこうした現代の大学生の生活苦という問題意識から、大学生の家計に注目し、とくに一人暮らし大学生の生活を苦しめているものは何か、その実態の一端を明らかにすることを目的とする。										
<b>研究方法</b>										
既存の公的な調査を用いて全国的な傾向と問題点を明らかにする（第1章）。つづいて、本学学生を対象に実施した家計に関するアンケート調査の結果を分析する。（第2章）アンケート調査で得られた全体の傾向と自由記述の考察から、何が大学生の生活を苦しめているのかを考察する。（第3章）										
<b>考察</b>										
①実家暮らしであっても、「やりくり」をしており、支出を抑えるマインドが浸透している。②バイト頼みの生活を強いられることは、学生の本分である学業を圧迫する恐れがある。③食費をもっとも気にしていることは、全国調査にもあるように、食事回数を減らすなどの行動に移りやすく、健康上の問題も引き起こす可能性がある。④大学生ならではの楽しみ（オタ活や美容）が思うようにできない苦しみがある。⑤奨学金を借りている学生にとっては、近い将来に返済することを踏まえ、すこしでも貯金したいというマインドを起こす。										
全国調査にあったような、バイト代に頼る生活がもたらす生活のしづらさや、将来への不安、奨学金返済も見越した生活の様子など、共通している点も多い。かつての苦学生のような「将来の糧」になるといった楽観は見られない。										
<b>結論</b>										
第1章にてコロナ禍がもたらした国民生活における負の影響を踏まえ、大学生生活の全国調査から全体の傾向を確認し、第2章にて本学学生に行ったアンケート調査の結果をもとに、実家暮らし／一人暮らしの家計管理、「やりくり」の実態を分析した。第3章では全国の傾向と本学学生に行った調査結果を総合して、一人暮らし大学生の「やりくり」を考察した。本研究を通して、バイトに頼った生活を強いられている実態があり、それを削ってしまうと、学生生活が立ち行かなくなる恐れになるということに、相当気にかけていることに驚いた。また、なかには、学生でありながら、貯金を意識している者もいた。これは、卒業後の社会人生活のことを考えると「今のうちに」という意識の表れではないか。食費や水道光熱費など生活の本体にかかる費用を「やりくり」しながら、バイトに勤しみ、それでも趣味にお金をかけたいが、そこまで使うこともできないことが浮き彫りにできた。										

氏名	佐川優奈	学籍番号	P020012	ゼミNo.	14
テーマ	女性の就業と政策の課題				
<p>日本は男女平等が掲げられ、女性が就業に際して不利益を被ることが無いよう、法整備が進められてきたが、女性が被る不利益はまだ解消されておらず、さらなる施策が必要である。そこで本稿では、女性の就業について制度、施策の側面から考察し、就業に関するその現状、課題や改善していくなければならない点を論じた。</p> <p>まず第1章では戦後日本経済の歩み、女性の就労に関する法律、制度について述べた。女性の就労は1980年代では一般化されておらず、日本は「男性稼ぎ型」の生活保障システムのもとにあった。その後日本経済の不景気も背景として女性の就業が進み、男女雇用の均等化を図った法や制度の整備が徐々に進んだ。しかし女性が望むような働き方ができない期間が長く続き、さらに平成初期では「規制緩和」による待遇改善が努められたが、雇用の柔軟化も正規雇用で働きたい人にとって不利になるものであったと言える。</p> <p>第2章では女性の就業状況について述べた。労働力率を見ると、現代になるほど労働力率や就業継続率が上がっており、結婚後も共働きを選択する人が増えた。しかし女性の就業状況は結婚だけでなく出産、育児によっても変化する。末子年齢が低いと就業時間の短縮、非労働力人口の増加がみられる。周囲の環境や両親との近居、同居もまた女性の就業に関わっている。また、女性の産業別雇用者数で最も多かったのが医療、福祉であったことから、手に職がある人ほど就業を容易にさせていることが考えられる。</p> <p>第3章では女性政策について述べている。女性を対象とした福祉施策は数多くあったが、それらは何かしらの困難を持つ女性や扶養から外れてしまった女性に対しての法律や制度で、男性に扶養されている女性は対象外であった。その結果「困っているが自分は対象にならないため助けてもらえない」という状況の女性が増えた。2022年に新たに制定された「困難女性支援法」はその改善施策と言える。</p> <p>また、政策の地域差も課題であることを愛媛県内の5つの市町が施行している施策、支援事業を比較して考察した。ある場所では利用でき、他の場所では利用できないということは今後改善すべき課題である。</p> <p>以上をふまえて、女性の就業の課題として、一つ目に福祉政策の地域差を埋める必要があること、二つ目に緊急時の預け先として公的機関を作ること、最後に安定した職に就くための制度を整える必要があることを述べた。就業において専門的な知識や技術が身に就くことが有利に働くため、出産前と違う安定した職に就くためにはリスクリソースのような知識を身に付けられる機会を普及させる必要がある。</p> <p>女性の就業において必要な政策とは、どのような境遇の女性であっても自分自身が望む待遇や職種で働いていけるように柔軟な対応をしてくれるものであると考える。どの地域、どの職種、どのような家庭環境であっても、女性自身のキャリアや望む就業を諦めることのないような社会になっていくことが必要である。</p>					

氏名	重見弥生	学籍番号	P020014	ゼミNo.	14
テーマ	現代の未婚者が求める結婚				

近年、晩婚化が進んでいると言われている。実際、厚生労働省が5年ごとに行っている『出生動向基本調査』でも「一生結婚するつもりはない」と答える人は年々増加している。しかし、このように結婚への意欲が低く見えることの背景には、未婚者ならではの思いが隠されているのではないだろうか。本研究では、日本の未婚化や晩婚化の状況を考察した。また、結婚の意思を持つ未婚者に焦点を当て、未婚者が考えている結婚観について考察し、それを踏まえて結婚の今後について展望した。

第一章では、日本の結婚の趨勢について婚姻率、離婚率、再婚率の推移から述べた。近年、婚姻率の減少がみられるが、それは以前の日本に存在した皆婚規範の意識が薄ってきたからであると考察した。現在は皆婚規範の意識が薄まり、結婚、離婚、再婚は個人の自由で選択できるものだと考える人が多くなってきたと考察した。

第二章では、日本における婚姻制度について考察し、海外の婚姻制度との比較を行った。日本については、日本国憲法および民法で定められている婚姻、いわゆる法律婚、および事実婚(婚姻届を出さずに結婚の意思を持った男女が共同生活を送ること)についての考察を行った。海外との比較では、婚姻の手続き、経済的メリットおよび姓の選択に焦点を当てて考察した。

第三章では、未婚化、晩婚化について述べた。日本では、平均初婚年齢も上昇し、1987年から2021年までの間に男性は約2歳、女性は約4歳の上昇が確認された。今後さらに、50歳時未婚割合が2040年には30%近くになると予想されている。

第四章では、未婚者の結婚する意思や未婚者にとっての結婚のメリット、デメリットについて考察した。結婚する意思を持つ未婚者の割合は多く、2021年の出生動向基本調査の結果では、男女とも80%を超えている。結婚のメリットで、「自分の子どもや家族をもてる」ということを挙げている人が多かったが、2015年に行われた調査よりも2021年の調査では減少している。結婚をしなくても子どもや家族を持つことができると考えている人が増え、婚姻を結ぶ結婚にこだわる人が減っているのではないかと考えられる。また、結婚しない理由として多く挙がっていた「独身の自由さや気楽さ」や「独身だと行動や生き方が自由」は、結婚という縛りにとらわれなければメリットとして考えられる。第二章で述べたように事実婚等の選択もあることから、日本の結婚は少しずつ変化しているのではないかだろうか。また、独身のメリットとして「家族を養う責任がなく、気楽」を挙げている女性が2021年の結果が2015年よりも4.3%増えている。「養う」の中には金銭的なことだけでなく家事のことも含まれており、男女共同参画により男女が協力して家事を行うという考え方が広まってきてはいるが、家事は女性がやることだという認識をしている人も多くいるのではないか。そのため女性は、自分の負担が増えるのであれば独身のままでいたいと思ってしまうとも考えられる。

氏名	辻井夏海	学籍番号	P020020	ゼミNo.	14
テーマ	子どもの貧困問題と貧困の世代連鎖の解決に向けて				
<p>我が国における子どもの貧困率は 1980 年代から上昇傾向にあり、現在、OECD 加盟国の中で最悪の水準にある。そこで本稿では、持続可能な開発目標（SDGs）の一つである貧困問題を取り上げ、日本のような先進国にも貧困の問題が存在している要因を追究し、子どもの貧困問題と貧困の世代連鎖を断ち切るための方法を考察した。</p> <p>まず第一章では、SDGs の概要や、MDGs で残された貧困問題が SDGs にどのようにして引き継がれていったのかを述べた。</p> <p>第二章では、日本における子どもの貧困の現状と課題を分析し、なぜ先進国である日本においても子どもの貧困率が高いのか、その要因を考察した。日本では、2014 年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が制定されたのをきっかけに、子どもの貧困対策に関して具体的な施策が実行され、その結果、「子どもの貧困率」はある程度改善し、2021 年には 11.5% と低下した。一方、「子どもがいる現役世帯のうち大人が一人の世帯」（ひとり親世帯）の貧困率は 44.5% と過去最低の数字を更新しているものの、ひとり親世帯の子どもの貧困率は依然として高い数値を維持しており、また貧困の二極化が進んでいることが分かった。</p> <p>第三章では、「学力格差」に焦点を当て、学力格差と親の所得の関係、進学の格差の関係について考察した。格差や貧困が次世代に連鎖される経路を追究し、その結果、親の所得の格差は子どもの学力の格差に繋がることが分かった。</p> <p>第四章では、子どもの貧困率を下げるに成功したイギリスの取り組み事例を取り上げ、今後の日本において貧困の世代連鎖を断ち切るために必要な施策について考察した。イギリスでも日本と同様、子どもの貧困が深刻な状態にあったが、周産期から社会に出るまでの継続的な支援プログラムを策定・実行し、2000 年から 2012 年における子どもの貧困率を 15.0% から 10.4% まで低下することに成功した。具体的な施策としては、「シェア・スタート」、「エクステンデッド・スクール」、「タックス・クレジット」などがある。</p> <p>日本では 2023 年にこども家庭庁が発足し、幼児期・小学校就学前の学校教育や子ども・子育て支援制度、産後ケア事業等を通じて、遅れながらではあるが、日本もイギリスのような子どもの成長過程を意識した継続的・統合的な施策が進みつつある。しかし、所得格差が拡大している日本において、特に低所得階層にとって私的な教育費負担がますます重荷となっているという課題もある。</p> <p>日本は今後、早期に子どもの貧困対策に取り組むことや貧困世帯への家族支援の拡充、特にひとり親世帯への支援、さらには教育の機会均等を図るために公的な教育支出額を増額させる必要がある。子どものための投資は、日本の未来への投資でもある。持続可能な社会の実現には、日本の将来を担う子どもたちへ十分な教育の機会を提供することが非常に大切である。</p>					

氏名	森田茉樹	学籍番号	P020035	ゼミNo.	14					
テーマ	性の多様性を重要視した学校へ									
「性の多様性」は近年認知されてきたものの、多くの課題があり、それらに直面するのは大人だけではない。一般的に自分の性自認や性的指向を自覚し始めるのは思春期と言われており、早ければ小学生のうちに自分の性に違和感を覚えたり、自覚したりする子どももいる。本稿では、子どもの「性の多様性」に関する課題を、子ども達が多くの学びを得る学校に焦点を当て考察した。										
第1章では、日本のLGBTに関する課題や学校のLGBTの現状について確認した。2020年に行われた調査では、LGBTの割合は8.9%で、30人規模のクラスや職場であれば、2~3人程度のセクシュアルマイノリティがいることになる。										
☆第2章では、学校における課題について、日本と海外それぞれの取り組みを比較し、考察した。まず性の多様性の視点から考えた時の日本の学校が抱える課題について、知らず知らずのうちに身につけていく隠れたカリキュラムと、性教育に関する実態の、二つの側面から述べた。そもそも学校は男の子と女の子で分けるのが当たり前であった。しかし学校自体も男女の区別や差別をなくすために、日本でも2010年頃から制服の選択制や男女混合名簿、教科書の表記やイラストなどを導入する学校や出版社が増えてきた。つまり日本は隠れたカリキュラムに関する改善が進んでおり、これが性の多様性への対応として意義があったといえるだろう。次に海外の取り組みとして、スウェーデン、オランダ、スコットランドの3カ国を取り上げた。早い国だと1歳から学校に通い、男女役割の偏見や差別に囚われることなく学ぶことができたり、子どもたちが学校で名前や性別を自由に変更することができたりするなど、日本がまだ行っていない様々な取り組みがある。さらに性教育も、生殖や性交についてだけではなく、性的同意や性の多様性、文化の違いや人権など幅広いテーマを学ぶ「包括的性教育」も進んでいることが明らかとなった。										
第3章では、日本の学校教育は今後、「性」に関してどのようなことが求められるか、また過ごしやすい学校を作るために何を行うべきなのか考察した。まず考察の視点として、性そのものについて、性が多様であることについて、子どもが同意の主体であることについての、三つが求められることを示した。そして過ごしやすい学校を作るためには、包括的性教育を学校の授業に取り入れること、性の多様性に関する授業などの取り組みを制度化・義務化すること、そして性別に囚われず自由に選べるようにすることが必要であると述べた。										
2024年度から小学校で使用される教科書で、ジェンダー平等や多様性に配慮した記述が多くの教科で登場するようになる。このように今後も学習指導要領が改定・制度化されたり、就業前学校が徹底されたり、学校の男女分けがなくなったりなど、日本も改善されていくことで、性的マイノリティの人たちが偏見や差別を受けることのない学校といえるのではないだろうか。										

氏名	吉岡夢羽可	学籍番号	P020039	ゼミNo.	14					
テーマ	スポーツにおけるコミュニケーションの影響について									
<p>スポーツ、特に学校部活動においては、指導者と選手、先輩と後輩といった関係性があるなかで、さまざまな問題が起きる。選手同士、あるいは選手と監督との間でのコミュニケーションは、個々の選手やチームに大きな影響を与えていていると考えられる。そこで、本稿ではコミュニケーションの関係を検討し、また現役選手へのインタビューに基づいて、そこでのコミュニケーションがどのようにチームに影響しているかを考察した。</p>										
<p>選手と指導者、先輩と後輩などの関係性があるなかで、体罰やいじめ、パワハラといった問題が起こる。「理不尽」なことがあるチームほど強いというイメージがあり、仮に「理不尽」だと感じても我慢が当たり前、強くなるには必要なことという風潮が残っている。第1章では、先行研究に基づいて「理不尽」について考察した。実際に多くの体育会系部活動で「理不尽」を経験しているとされ、原因として、「精神圧迫や過度の厳しい練習」、「連帯責任」、「締め上げや喝入れ」、「集団規則」の四つが体育会系の部活集団活動に特徴的な要素として挙げられている。そこには、スポーツにおけるコミュニケーションのあり方が関わっていると考察した。</p>										
<p>そこで第2章では、スポーツコミュニケーションについて考察した。選手との信頼関係が生まれ、選手の最大限の力が發揮できるとされるのが「対話型コミュニケーション」である。ここでは特に、目標設定やモチベーション、リーダーシップとの関係も考察した。自信や達成感、意欲は、チーム全員の目標の共有、個人個人の目標の明確化によって高まり、さらに、監督などからのフィードバックにより「対話型コミュニケーション」が広がっていく。また、モチベーションが下がった時にはどういったコミュニケーションを取り、いかにポジティブに捉えるかが重要となる。変革型リーダーシップ行動や自律・支援的行動は選手個人の内発的動機づけやパフォーマンスにポジティブな影響を与えるが、コーチの統制的・専制的行動はストレスやプレッシャーとなり、ネガティブな影響を与える。</p>										
<p>第3章では、実際の場面でどんなコミュニケーションを経験しているか、現役で柔道をしている大学生5名にインタビューを行った。その結果、5名全員が明確な目標があることで意欲的に取り組むことができると述べた。モチベーションが下がっている時の選手同士及び選手と監督との間でのコミュニケーションはうまくいっていないなかった。また、監督が一方的に考えを押し付けてくることがあり、自分の意見をはっきり伝えることができていない人が5名中4名と多かった。さらに、5名中4名が監督の理不尽さや部員や監督とのコミュニケーションが理由で、ストレスを感じながら部活動を行っていることが明らかになった。</p>										
<p>以上のことから、モチベーションが上がっている時と下がっている時の選手同士のコミュニケーション、選手と監督との間でのコミュニケーションの差を小さくするためにはどうしたらよいかが課題となると考えた。理不尽やストレスを感じた際に相談できるカウンセリングルームが普及しているが、定期的に一人ひとりと話す機会を設けるなど「対話型コミュニケーション」を取り入れることが必要ではないだろうか。</p>										

氏名	鷲谷果歩	学籍番号	P020041	ゼミNo.	14
テーマ	日本の児童養護の変化とこれから				
<p>現在日本には、いろいろな事情によって家庭で育てられない子どもがいる。その子どもたちは施設養護や里親制度を利用することができる。施設養護中心であった児童福祉は家庭的養護が優先されるように変化している。本稿では、日本の児童養護がどのように変化しているのかを見ていくとともに、日本の里親制度の現状、外国の制度や現状との比較を行い、これからの児童養護について考察をした。</p> <p>第一章では、日本の里親制度について児童福祉法の沿革、新しい社会的養育ビジョンから里親制度の概要、現在目指されている日本の児童福祉について考察した。里親制度は 1947 年に児童福祉法によって制定された。2011 年に厚生労働省から「社会的養護 6 の課題と将来像」が出され、「要保護児童は家庭養護である里親委託を優先して検討すべき」という原則が明示された。</p> <p>第二章では、里親委託数・委託率を上げる取り組みと課題、委託児童の現状、里親、ファミリーホーム数について述べた。現状として、家庭的養護が優先されているにもかかわらず、施設養護が要保護児童の 8 割と高くなっている。2016 年の児童福祉法改正では、里親委託率の目標値として 3 歳未満は 5 年以内に、それ以外の就学前の子どもについては 7 年以内に 75% を実現し、学童期以降は 10 年以内をめどに里親委託率 50% 以上を実現すると目標を掲げた。しかし 2021 年までの 10 年間に 1.5 倍など委託率は上昇しているが、5 年たった現在の里親委託率は 23.5% と目標の数値には届いていない。里親委託を進めるうえでの課題として登録里親確保、実親の同意、児童問題の複雑化、実施体制・実施方針の問題が挙げられた。</p> <p>第三章では、オーストラリア、アメリカ、カナダの里親制度を考察した。カナダのフォスターケアプログラムのように里親支援の制度がある。こうした外国の取り組みから日本では、里親へのサポートを充実させることが重要であると考えた。里親になる前や後のサポートの充実が里親数を増やすことに影響を与え、人材不足問題を解決する可能性があると考える。また、自立支援では社会的養護を利用した子どもたちを長期的に支援するために必要である。ただし、諸外国では複数の里親家庭をたらいまわしにされ（ドリフト）、安定して養育を受けられていないという現状もある。</p> <p>日本の施設養護では、移動によって生じる子どもの不安定はより少なくできている。しかし、大人との愛着形成は子どもにとってとても重要である。施設であっても深い関わりができる環境が必要であると考える。家庭的養護を重視する政策の中で、里親制度を拡充しつつ施設養護も含めて、日本の今の児童養護の良さをよりよく変化させて行くことが必要であると考える。</p>					

氏名	坂元美月	学籍番号	P020501	ゼミNo.	14
テーマ	日本における LGBTQ への差別の現状と課題				
<p>近年、日本では LGBTQ に対する認知度が高まってきたことから、理解を深め、多様性を認め合い全ての人が平等を目指す動きが活発になっている。しかし、理解が進む一方で人の価値観というものは簡単に変えることは難しく、LGBTQ に対し間違った認識、加害性のある偏見・差別意識を持っている人が未だ残っているのも事実である。そこで本稿では、日本の LGBTQ の人々が置かれている現状や課題、実施されている政策などを海外と比較し、日本が抱える課題と、課題に対する解決策に対して考察を行った。</p> <p>まず第一章では、LGBTQ の定義を述べた後、LGBTQ の人々が直面する困難について、考察した。ハラスメントや社会的立場の問題を述べた後、年金の相続問題や正式な婚姻が結べない問題、適切な医療が受けられない問題など、事実を実際の事例や事件と共に現状を考察した。</p> <p>第二章では、日本で施行されている LGBTQ に関する法律や政策について述べた。ダイバーシティに関わる法律と、日本の企業が行っている取り組み、婚姻およびその代わりとなるパートナーシップ制度、生殖器の有無による戸籍上の性別変更に関する法律などをここで取り上げた。そこでは法律ができるきっかけとなった事件や訴訟なども記述し、日本の LGBTQ に対する取り組みとその理解度の変化について考察した。</p> <p>第三章では、日本の LGBTQ に関する法律の基礎とも言える「LGBT 理解増進法」と、その法律制定時に対する人々の意見、そして海外の LGBTQ に対する取り組みについて述べた。日本で施行された「LGBT 理解増進法」だが反対意見が多く、差別を助長する恐れがあると未だ慎重に改定を検討されている法律であるが、それがどういった法律で、何が問題視されているのかを述べた。また、日本と比較し、海外では同性間における婚姻、受けられる保障の違いといった点で LGBTQ に対する政策や理解が進んでいるのか、又は日本以上に LGBTQ に対する理解が進んでおらず、犯罪化、禁止されてしまう例がある国の現状などを踏まえ、日本に必要な政策や法を考察した。</p> <p>第四章では、日本の LGBTQ に対する認知や扱いの歴史と変容を述べた。西欧に大きく影響を受け、LGBTQ に対して忌避的な対応をしていた日本が、その後どのように理解を示し、そして変化していったのか、また法律を作つて保護する流れになったのかを述べ、そのうえで、日本に足りないものは「義務教育間の性的多様性に対する教育」「知識」であると結論付けた。最終のまとめでは、具体的な法として義務教育間の性の多様性に関する教育を、専門的知識も加えて行うべきといった考えを、述べている。</p>					